

安芸高田市郷土理解学習副読本(中学校編)

# 郷土！安芸高田市



安芸高田市教育委員会

# 刊行のことば

---

わたしたちの住む「安芸高田市」は、平成16年3月に当時の高田郡6町が合併して誕生しました。みなさんのふるさと安芸高田市は、緑なす山、清らかな川、日本100名城の「郡山城」、国の重要無形民俗文化財の「安芸のはやし田」、伝統を継承している神楽など、豊かな自然と歴史、伝統、文化に恵まれています。こうしたふるさとで育った多くの先輩たちは、知恵と勇気を持ち、協力しながら、夢と志を持ち、地域を守り発展させてきました。しかし、今日では、人口の減少など様々な課題があるのも事実です。“地域の宝”であるみなさんには、地域の課題もしっかり受け止めながら、このすばらしい伝統や文化を学び、引き継ぎ、守り育てる大人に成長してほしいと思います。

安芸高田市教育委員会では、この度、「ふるさと安芸高田市」について学び、郷土に対する自信と誇りを持ち、それぞれの舞台で活躍してほしいとの願いから、郷土理解学習副読本「郷土！安芸高田市」を発刊しました。

みなさんが生活している「ふるさと安芸高田市」に関心を持ち、「なぜ」「どうして」という探究する気持ちを大切にして、安芸高田市の歴史・伝統・文化、そして今の暮らしを学ぶことが、安芸高田市をはじめ、国の歴史や伝統・文化を深く理解することにつながります。そして、安芸高田市のまちづくりや歴史・伝統・文化は、日本の他の地域や諸外国とも深くかかわっていることを理解し、諸外国の歴史や伝統・文化を尊重し、ともに歩んでいける力を身に付けてほしいと思います。

このことが、例えば将来みなさんがどこに住むことになっても、みなさんが活躍し、生活するベース(土台)が“郷土 安芸高田市”として、みなさんの心の基地(マインドベース)になると確信しています。

この副読本を様々な学習場面で、しっかり活用し、安芸高田市について理解を深めるとともに、調べ方や学び方を身に付けていきましょう。その力は、みなさんの夢や目標に向けて挑戦し、学び、成長していくうえで、必ず役立つものになるはずです。

平成27年3月

安芸高田市教育委員会  
教育長 永井 初男

# もくじ

## 第1編 安芸高田市の風土

### 第1章 安芸高田市の自然と生活

1 安芸高田市の成り立ち	1
2 安芸高田市の自然	2
3 安芸高田市の産業	6
4 安芸高田市の人口	8
5 安芸高田市の観光	9
6 他地域とのつながり	13

### 第2章 安芸高田市の大地

1 安芸高田市の大地	14
------------	----

コラム

### 第3章 安芸高田市の生物

1 安芸高田市の天然記念物	17
2 安芸高田市と江の川の生物	18

コラム

## 第2編 安芸高田市の歴史

### 第1章 原始古代の安芸高田

1 旧石器時代・縄文時代の遺跡	20
2 弥生時代の遺跡	20
3 古墳時代の遺跡	23
4 高田郡の成立	24
5 仏教が国家の政治に果たした役割	25

### 第2章 武士の成長と安芸高田

#### ～平安時代末期から鎌倉時代～

1 中世高田郡・高宮郡の成立	26
2 高田郡・高宮郡内に成立した 荘園・国衙領	26
3 中世への転換の中で	26
4 平氏政権と厳島神社と 安芸国衙の関係	28
5 高田郡司藤原氏の動き	28
6 在地領主高田郡司藤原氏の没落と 源平の争乱	29
7 土着の領主と東国武士	30
8 安芸高田に移った武士たち	30
9 毛利氏の吉田への移住	31

### 第3章 武士の成長と安芸高田

#### ～南北朝時代から戦国時代～

1 南北朝の動乱期から室町期に おける毛利氏の動き	32
2 安芸国人一揆の形成	33
3 毛利元就の登場	34
4 国人領主から戦国大名へ	34
5 毛利氏の課題	35
6 中世安芸高田の信仰	36

「郷土！安芸高田市」を学ぼう！



## 第2編 安芸高田市の歴史

第4章 幕藩体制の時代	
1 関ヶ原の戦い	38
2 徳川政権と安芸高田	38
3 近世農民の生活	39
4 農村文化の発展	40
コラム	41
5 幕末と安芸高田	42
コラム	43
第5章 近代の進展と安芸高田	
1 廃藩置県と武一騒動	44
2 明治の地方行政の成立と安芸高田	46
3 近代学校教育の始まり	48
4 日清・日露戦争の頃の安芸高田	50
5 大正時代	52
芸備鉄道開通に伴う変化	
6 日中戦争・太平洋戦争下の安芸高田	54
7 戦時下の安芸高田の場面	56
コラム① 和算の研究 三上義夫	58
コラム② 衆議院議員 名川侃市	59
第6章 現代の安芸高田	
1 戦後の復興と高度経済成長	60
2 酪農開拓パイロット事業	60
(高宮町羽佐竹)	
3 土師ダムの建設(八千代町土師)	61
4 中国自動車道の建設	61
5 昭和38年豪雪災害・	62
昭和47年豪雨災害	
6 アジア競技大会広島大会・	63
第51回国民体育大会	
(ひろしま国体)	

## 第3編 安芸高田市のいまと未来

第1章 安芸高田市の仕事と財政	
1 これからの安芸高田市	64
2 安芸高田市役所	65
3 安芸高田市議会	65
4 安芸高田市の財政	66
第2章 暮らしやすさを実現する安芸高田市	
1 高齢者にやさしいまちづくり	67
2 若者定住をめざしたまちづくり	68
3 協働による地域で支えあうまちづくり	68
第3章 少子高齢化に挑む安芸高田市	
1 市民総ヘルパー構想とは?	69
2 安芸高田市と高齢化	69
3 安芸高田市と少子化	70
第4章 文化の継承に力を尽くす安芸高田市	
1 歴史的遺産の恵み	71
2 伝統芸能の継承	72
3 安芸高田市が生んだ芸術家たち	73
～児玉希望、和高節二～	
第5章 観光の振興と安芸高田市	
1 観光の振興が市にもたらすものとは?	75
2 「神楽」を中心に据えた観光	75
3 周遊型の観光地をめざして	76
第6章 魅力ある街へ 安芸高田市	
1 安芸高田市ふるさと応援の会とは?	77
2 安芸高田市ふるさと応援の会	77
「関東支部」発足!	

<資料>P79~P87

・地区名、城跡マップ  
・文化財一覧、統計資料



## 安芸高田市の理想の実現に向けて

### 安芸高田市民憲章

わたしたちは、安芸高田市民であることに誇りと責任を持ち、市創設の基本理念である「人 輝く・安芸高田」の実現をめざしてこの憲章を定めます。

わたしたち安芸高田市民は、

一、歴史・文化・自然を大切にし、

未来へつないでいきます。

一、先人を尊び

心豊かな人間形成をめざします。

一、「三矢の訓」で心をひとつに

「協働のまちづくり」にはげみます。

一、誰もが健康で、

きれいな住みやすいまちをつくります。

一、笑顔あふれ、

安心安全に暮らせるまちにします。

平成二十五年十一月二十七日制定


安芸高田市は、平成16年3月に誕生しました。平成25年12月1日には、市制施行10年目を迎え、10周年記念式典が行われました。

豊かな自然と文化が受け継がれてきた安芸高田市です。「人 輝く・安芸高田」を将来像に掲げています。市民が自らの安芸高田市の理想を掲げ、その実現に向けて努力するための行動規範となる市民憲章が制定されました。これは、中学生以上の市民の応募から決定されました。



安芸高田市民憲章石碑

安芸高田市の市制施行10周年記念式典において、市民憲章が発表されました。市内6中学校の代表が市民憲章を唱和しました。



# 第1編 安芸高田市の風土

## 第1章 安芸高田市の自然と生活

- 1 安芸高田市の成り立ち
- 2 安芸高田市の自然
- 3 安芸高田市の産業
- 4 安芸高田市の人口
- 5 安芸高田市の観光
- 6 他地域とのつながり

## 第2章 安芸高田市の大地

- 1 安芸高田市の大地  
コラム

## 第3章 安芸高田市の生物

- 1 安芸高田市の天然記念物
- 2 安芸高田市と江の川の生物  
コラム

# 第1章 安芸高田市の自然と生活

## 1 安芸高田市の成り立ち

●安芸高田市は、いつ・どのようにして誕生したのでしょうか？



安芸高田市は、平成16年3月1日、高田郡6町(吉田町・八千代町・美土里町・高宮町・甲田町・向原町)が合併して誕生しました。(旧高田郡7町のうち白木町は昭和48年10月広島市と合併しました。)

現在14ある広島県の市の中では13番目の市として、平成11年から行われた平成の大合併と呼ばれる、市町村合併の動きに応じて合併しました。

市役所本庁舎は吉田町にあります。市の木はサクラ、市の花はアジサイです。

隣接している自治体は、広島市、三次市、山県郡北広島町、東広島市、島根県邑智郡邑南町です。



安芸高田市6町

### ■市章について

安芸高田市の市章は、安芸高田市の「高」を図案化したもので、下部の円は「人々と自然」・「信頼と協働」を意味しています。

人々と自然が融和・調和しながら市が円満に発展するようにとの願いを表現したものです。

市章全体は人間の姿を思わせるものとし、次代へ躍進する安芸高田市民を表しています。



安芸高田市章



市の木 サクラ



市の花 アジサイ

## 2 安芸高田市の自然

### (1) 地理的位置



#### ●安芸高田市の位置はどのあたりでしょう？

安芸高田市は、広島県の中北部に位置し、北は島根県、南は広島市に接しています。面積は国土交通省国土地理院の資料によれば537.79平方キロメートルです。(境界未定部分有)

市内には、急な山岳はみられません。鷹の巣山992m(向原町)、大土山800m(向原町・甲田町)、犬伏山791m(美土里町)など大小さまざまな山に囲まれ、市の面積の約8割を森林が占めています。

河川は、森林を縫って中央部を江の川(可愛川)が貫流し、北部は生田川、本村川が東流して江の川(可愛川)へ、南部は、三篠川と根の谷川が西流して太田川に合流しており、市全体として水と緑が調和したこまやかで落ち着いた景観となっています。



市内で一番高い鷹巣山(向原町)からの風景



安芸高田市の位置



#### ●分水界とはなんでしょう？



安芸高田市に降った雨は、瀬戸内海に流れるの？それとも、日本海に流れるの？

雨水が、二つ以上の水系へ分かれて流れる境界を分水界と言います。

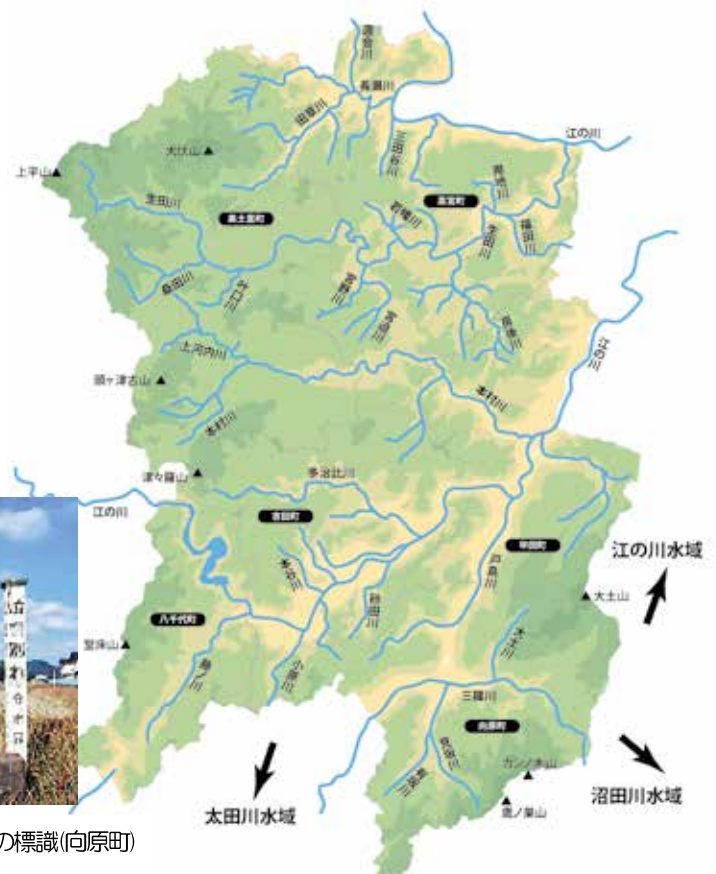
分水界になっている山稜を分水嶺と言います。

安芸高田市の川は、日本海にそそぐ水系と、瀬戸内海にそそぐ水系に分かれます。そのため、市内には水の分かれ目となる分水界があります。

向原町の戸島地区と八千代町の上根地区に分水界を知らせる標識があります。

特に向原町の戸島地区の分水界は標高200mという平地にあることから極めて珍しいものとされています。

八千代町上根地区の分水界は、上根峠の近くに位置しているため、標識には分水嶺と書かれています。



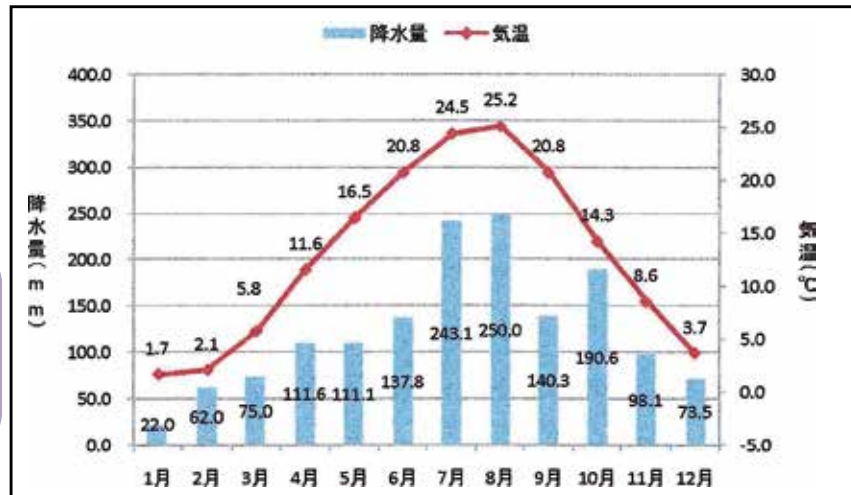
分水界の標識(向原町)



## (2) 気候

**気候**とは、その地域を特徴づける大気の状態のこと。具体的には、通常は数十年間という大気の総合した状態の移り変わり天気・気温・降水量・風等の傾向を指す。

●安芸高田市の気候の特徴について雨温図から考えてみましょう。



年平均気温  
13.8°C  
年間降水量  
1,360 mm

資料：気象庁三次気象観測所（気温），甲田気象観測所（降水量）

月平均気温と降水量（昭和54年～平成12年）

安芸高田市は、中国山地に抱かれた地域で南北に細長いため、南部と北部では気候が違います。基本的には、1年を通じて雨が少ない瀬戸内の気候と冬に降雪・くもりが多い日本海側の気候を併せ持っていますが、日本海側の気候の傾向が強くあらわれています。南部は瀬戸内の気候の影響がやや強く、北部は日本海側の気候の影響が強めです。北部は雪がかなり降ります。

< 参 考 >

**日本の気候は大きく6つに分けられます。**

### (1) 北海道の気候

夏は涼しく、冬の寒さが厳しいです。1年を通じて降水量は北陸地方に比べると少ないです。梅雨や台風の影響を受けないのでからっとした天気が多いです。

### (2) 太平洋側の気候

夏は南東からの季節風の影響を受けて雨が多く、蒸し暑い天気が多いです。冬は北西からの季節風の影響により山越しに冷たい乾いた風(からっ風)が吹き、乾燥した晴れの天気が多いです。台風の影響を受けやすいです。

### (3) 日本海側の気候

冬は北西からの季節風の影響を受けて雪が多く、山沿いの地域では豪雪地帯となります。夏は晴れた日が多く、気温も高いです。

### (4) 中央高地の気候

季節風の影響を受けにくく、1年を通じて降水量が少ないです。夏と冬、昼と夜の気温の差が大きいです。

### (5) 瀬戸内の気候

夏は四国山地、冬は中国山地が季節風をさえぎるので、1年を通じて晴れの天気が多く、雨が少ないです。

### (6) 南西諸島の気候

沖縄、奄美諸島、小笠原諸島を含む地域では1年を通して気温が高く、雨は多いが、霜や雪は見られません。

### (3) 気象



気象は、気温・気圧の変化などの、大気の状態のこと。また、その結果現れる雨などの現象のこと。広い意味においては大気の中で生じる様々な現象全般を指す。

#### ●安芸高田市の気象にはどのような特徴があるでしょうか。

中国山地のふもとに位置することから、安芸高田市は広島県内でも日本海側気候に区分されます。そのため冬季は北西の季節風の影響を受け、雪が多くなります。



#### <降水>

安芸高田市内では、美土里町と甲田町にアメダス<sup>(3)</sup>が設置されていて、降水量について観測を行っています。

	年間雨量 (mm)
美土里町横田	1847.5
甲田町高田原	1620.0
広島県平均	1862.0

↑ 平成25年度年間降水量

広島県の気象より編集委員作成

年間降水量は、県平均とほぼ同じくらいですが、冬季の降雪による降水の割合は、広島県南部より高くなっています。

#### <霧>

安芸高田市内を流れる河川や、豊富な植物による蒸散によって、湿り気を多く含む空気ができ、その空気は周囲の山によって移動が妨げられます。この空気が夜間に冷やされることによって、霧が発生します。湿った空気が盆地にたまって霧の発生が多くなる三次市とよく似ています。



↑ 鷹巣山の雲海

#### <風>

安芸高田市内で観測している地点はありませんが、近隣の観測地点の観測結果によると、西北西から北北西の風が吹く日が多くなっているようです。冬季に吹く季節風の影響が考えられます。

みなさんの住んでいる町の大地や気象にはどのような特徴があるでしょうか。自分の言葉でまとめてみましょう。



\*注 (3) アメダス 各地域の降水量, 風向, 風力, 気温, 湿度などのデータを自動的に観測するシステム。全国に約 1,300 か所の観測所がある。

#### (4) 交通

●安芸高田市の交通網を確認してみましょう。



安芸高田市は他地域との  
アクセスが整備されてい  
るね！



安芸高田市の道路マップ

安芸高田市の中央を中国自動車道が通り、高田インターチェンジがあります。そのため、自動車による遠方への交通の重要な働きをしています。

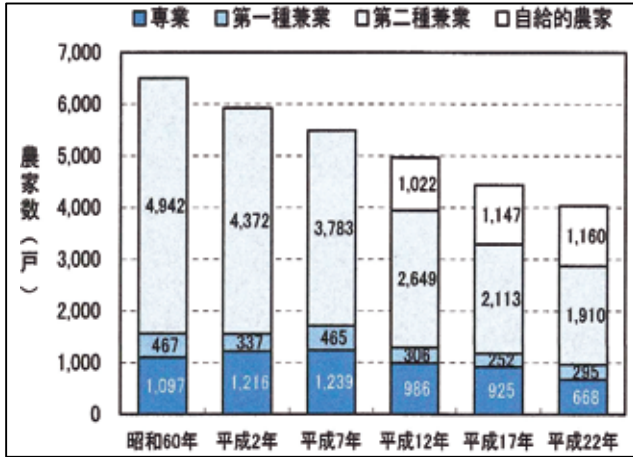
そのやや南東寄りに位置する国道54号は、自動車で広島方面・三次方面へ行く大動脈となっています。

安芸高田市の東側にJR芸備線や北側にJR三江線(高宮町)が通っており、広島方面・三次方面へ、公共交通機関を利用する人々を支えています。

### 3 安芸高田市の産業

#### (1) 農業

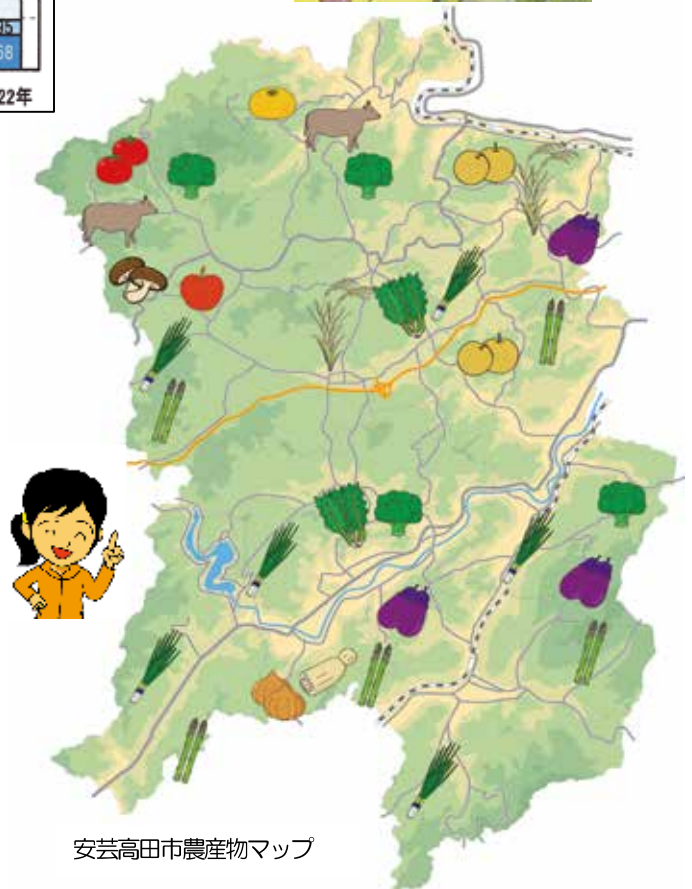
●安芸高田市ではどのような農業がおこなわれているのでしょうか？



専業別農家数の推移(平成22年農林業サンセス)

単位: 千万円	
種別	金額
<b>耕種計</b>	<b>381</b>
米	259
豆類	3
いも類	3
野菜	100
果実	10
花き	4
種苗・苗木類・その他	2
<b>畜産計</b>	<b>252</b>
肉用牛	45
乳用牛	68
生乳	60
鶏卵・鶏・その他	79
<b>農業産出額(総計)</b>	<b>633</b>

平成18年農業産出額(広島県農林所得統計)



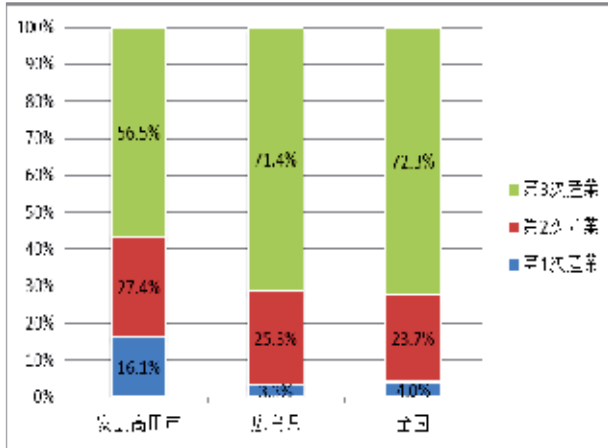
安芸高田市農産物マップ

安芸高田市の主要な農業生産物は米ですが、農家数は全体的に減少傾向にあります。また、専業農家は少なく、ほとんどが兼業農家です。また、その多くは第二種兼業農家です。最近では、自給的農家も増えています。なお近年は、持続可能な農業経営を行うため、経営法人化等が進んでいます。

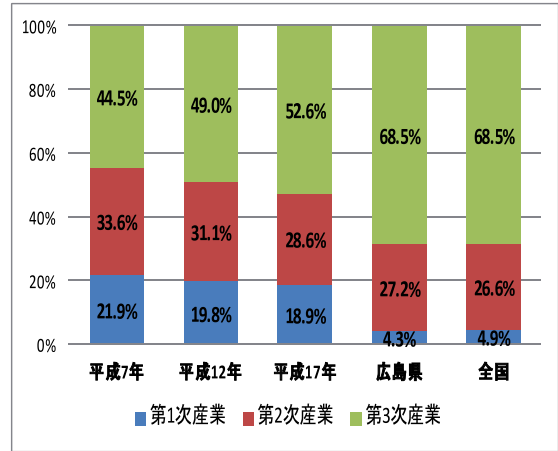
米では、コシヒカリ・あきろまん等の主食用品種と酒米やもち米の県内最大の生産団地となっています。野菜では、青ねぎの水耕栽培が市内全域で行われているほか、アスパラガス、白ねぎ、ブロッコリー等の産地形成も進みつつあります。また、なしなどの果樹栽培や畜産も盛んです。

## (2) 工業

### ●安芸高田市の工業の特徴を調べましょう？

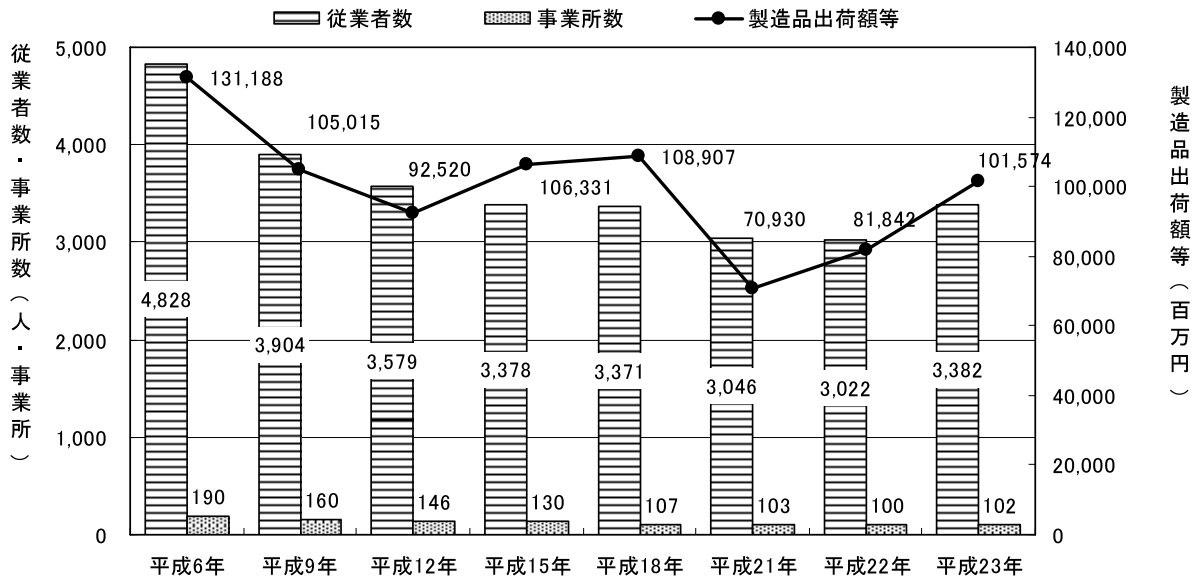


業別就業者数（平成22年国勢調査をもとに編集委員作成）



産業別就業者数の推移（広島県、全国は平成17年）

（国勢調査より）



従業者数、事業所数、製造品出荷額の推移（工業統計調査 従業員4人以上事業所）

安芸高田市の産業別事業者数は、全国・広島県と比較すると第1次産業に従事する者が多く第3次産業に従事する者が少ない傾向にあります。推移でみると全国・広島県と同様に第1次産業就業者数が減り、第3次産業就業者数が増えています。

工業では、従業者数・事業所数・製造品出荷額とも減る傾向にあります。

平成23年の工業統計調査では、事業所数は、102事業所で、従業者数は、3,382人です。製造品出荷額等は、およそ1015億7千万円です。企業の規模としては、中・小・零細企業です。また、マツダ株式会社の関連企業も多いようです。

## 4 安芸高田市の人口

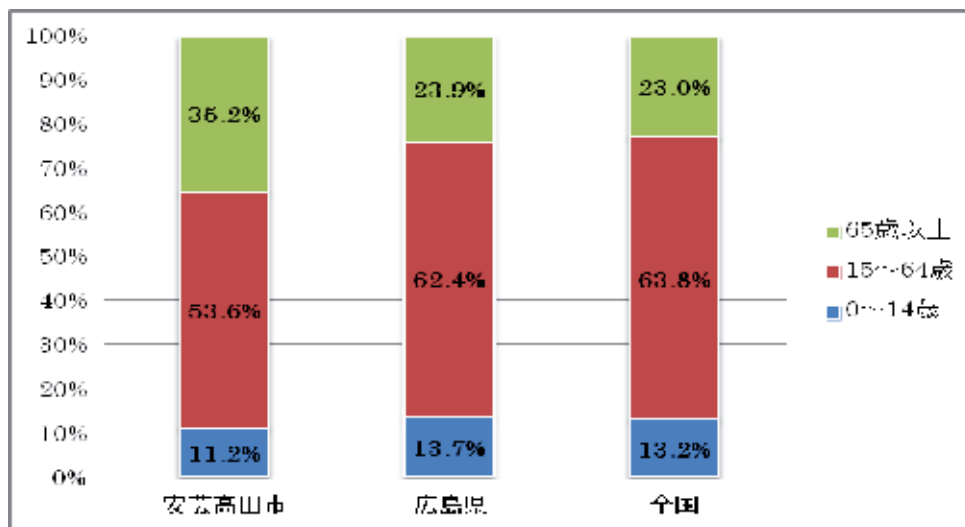
●安芸高田市の人口の特徴を次のグラフから読み取りましょう。



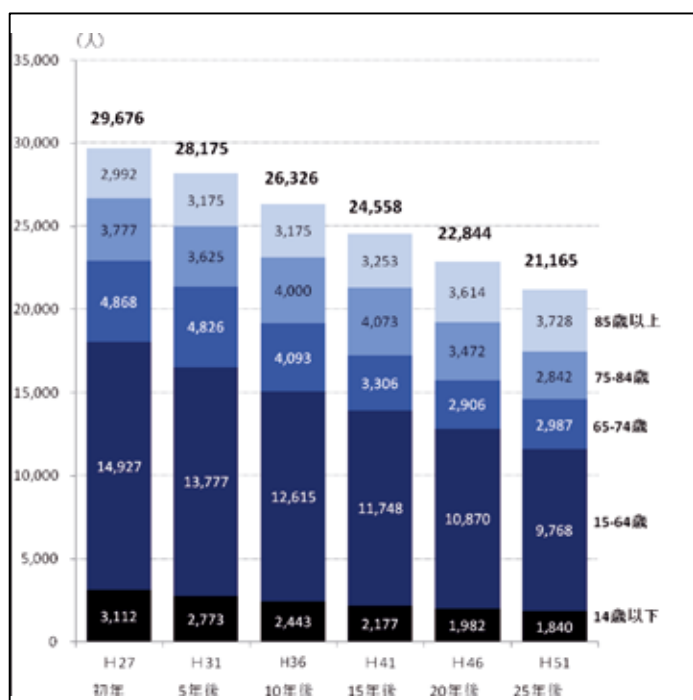
安芸高田市の人口は、安芸高田市が誕生した平成16年3月1日の時点で34,281人でした。男16,490人、女17,791人、世帯数12,990世帯でした。平成26年7月1日の時点では、30,182人、男14,546人、女15,636人、世帯数13,184世帯です。

「高齢化」を示す指標としては、総人口に対する65歳以上人口（老年人口）の割合が最もよく利用されています。WHO（世界保健機関）や国連の定義によると、65歳以上人口の割合が7%超で「高齢化社会」、65歳以上人口の割合が14%超で「高齢社会」、65歳以上人口が21%超で「超高齢社会」と定義されています。平成22年度の安芸高田市は35.2%です。

安芸高田市は、超高齢社会がさらに進んでいるね。



年齢階層人口（平成22年国勢調査をもとに編集委員作成）



安芸高田市の推計人口（国立社会保障・人口問題研究所 推計人口）

現在の日本の国自体が「超高齢社会」であり、広島県も同様です。安芸高田市の人口は、減少傾向にあるとともに、全国・広島県と比較すると65歳以上の人口が非常に多く、超高齢社会がさらに進んでいます。また、人口が減り世帯数が増えているのは、核家族化が進行していることを示しています。安芸高田市は、このままの状態では人口が減っていくと10年後には約26,000人、25年後には約21,000人と現在の人口の約70%まで減少すると予想されています。

## 5 安芸高田市の観光

平成 25 年広島県総観光客数によると、年間 138 万 6 千人の観光客が安芸高田市を訪れています。

安芸高田市には、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）のサンフレッチェ広島の練習拠点があり、チーム名の「サンフレッチェ」も毛利元就の「三矢の訓（おしえ）」からつけられています。

また、日本最高峰のハンドボール実業団チームの湧永製薬ハンドボール部もあります。

### ●安芸高田市には、どのような観光スポットがあるのでしょうか？



観光スポットは、毛利元就に係わるものと、地域振興のためなどに作られたものと、大きく二つに分けられます。

#### ■毛利元就・郡山城周辺

##### ○安芸高田市歴史民俗博物館

毛利氏と郡山城跡を中心に市の歴史と文化財を紹介する博物館です。特に郡山城からの出土遺物、社寺への奉納品などが充実しています。毛利氏歴代当主の名がみえる清神社棟札や毛利輝元の関ヶ原合戦の勝利を祈願し奉納した絵馬は必見です。

他にも史跡や郷土芸能なども映像で紹介しています。



##### ○郡山城跡

毛利元就が中国地方制覇の拠点とした城の跡です。山全体を城郭化し、本丸跡をはじめ 270 ケ所以上の郭跡が残っています。

平成 18 年には大阪城や姫路城などとともに、日本百名城に郡山城も選ばれました。



##### ○百万一心碑

毛利元就が郡山城拡張の際、埋めたとされる石に掘り込まれていた文字が「百万一心」です。

一日一カー心と読み、一致団結の大切さを教えたものとされています。

この石碑の向かい側に毛利元就の墓所があります。



##### ○三矢の訓跡碑

1 本では折れる矢も 3 本束ねると折れないと、結束の大切さを説いた毛利元就の逸話「三矢の訓」。

サンフレッチェ広島は、サンは数字の 3、フレッチェは矢を意味するイタリア語からチーム名がつけられました。

三矢の訓跡碑は安芸高田少年自然の家の中庭にあります。



### ○毛利元就墓所

元就は、元龜<sup>げんき</sup>2(1571)年6月14日郡山城内<sup>はらんぼんじょう</sup>で波乱万丈の生涯を閉じました。享年75歳でした。

墓標には「はりいぶぎ」が植えられ、3回<sup>ぼだいじどうしゅんじ</sup>忌に菩提寺洞春寺が建立されました。



### ○清神社

戦国時代、毛利氏の祈願所だった神社です。毎年、サンフレッチェ広島も必勝祈願に訪れています。

勝負の神様がバックアップしている、ひそかに人気のパワースポットとも言われています。



### ○安芸高田少年自然の家(輝ら里)

郡山に抱かれた青少年のための集団宿泊体験施設です。

中庭に三矢の訓<sup>おしえ</sup>跡碑があります。

安芸高田市は毛利元就が有名なだね。



### ■神楽門前湯治村(美土里町)

格子づくりの旅籠屋<sup>はたごや</sup>や湯治宿<sup>とうじやど</sup>、田舎料理、茶店などが並ぶ昔懐かしい街並みです。

天然温泉は疲れを癒し、体験工房では神楽面の絵付け、わら細工、竹細工などが楽しめます。

神楽は、基本的には4月～11月の金曜日、土曜日の夜には「かむくら座」で夜神楽が行われ、日曜日・祝日には、神楽ドームで昼神楽の定期公演が行われます。引き続き、12月から3月の土曜日には夜神楽が、日曜日・祝日には昼神楽が「かむくら座」で行われるなど、年間通じて神楽を満喫できます。





### ■たかみや湯の森(高宮町)

江戸時代より、優れた効果を持つ「大仙の湯」として親しまれてきた天然ラドン温泉です。

「酒米所 高宮」ならではの酒風呂が楽しめる露店岩風呂，“真珠の泡”とも呼ばれる炭酸ガスが心地よい露店炭酸風呂など、バリエーション豊富なお風呂が心身を和らげてくれます。



### ■土師ダム (八千代湖畔) (八千代町)

八千代湖畔に広がるスポーツランドで20kmのサイクリングロードやテニス，サッカー，野球，カヌーなどスポーツレクリエーション施設が充実しています。

2人乗り自転車やマウンテンバイクのレンタルもあります。

西日本有数の桜の名所で、いっせいに開花した様子は圧巻です。



### ■八千代の丘美術館(八千代町)

八千代の小高い丘に建つ15棟のギャラリーと総合施設の展示室を合わせた生涯学習施設です。

広島を拠点に活躍する15人の芸術家により，各種展示会や公開講座が開催されています。



### ■道の駅「北の関宿 安芸高田」(美土里町)

採れたて地元野菜や珍しい乾物が並ぶ「山の市・海の市」，“うこん”を練りこんだ麺が自慢の「ながいきラーメン食堂」があります。

また，敷地内にはコンビニもあり，高田ICに隣接しているという立地条件からも，安芸高田市観光の拠点となっています。



### ■産直市場ICHIKURA八千代店(八千代町)

中国山地の豊かな自然に恵まれた安芸高田市を中心に近隣町で生産された野菜，くだもの，花，米を中心に販売しています。店内には，生産農家が毎朝収穫した新鮮な農産物が並びます。農産物や漬物，ジャム，はちみつなどの加工品には，生産者の名前が表示されており，安心して買うことができます。



### ■ふれあいたかた産直市(吉田町)

地域農産物の<sup>はんろ</sup>販路確保とPR，魅力ある加工品づくり，農業農村の活性化を目的に，JA広島北部が運営しています。地域農産物を使った加工品が数多く並んでいますし，手作りの味が取りそろえてあります。地産地消の発信拠点としても活用されています。



### ■向原農村交流館やすらぎ(向原町)

農産物や加工品の販売の他，地元野菜を使ったカレーうどん，コーヒーなどの軽食を楽しめるコーナーや展示スペースもあり，ちょっと一息つけるやすらぎの場所です。4月の第3日曜日には「アートまつり in 向原」も開催され大勢の人で賑わっています。

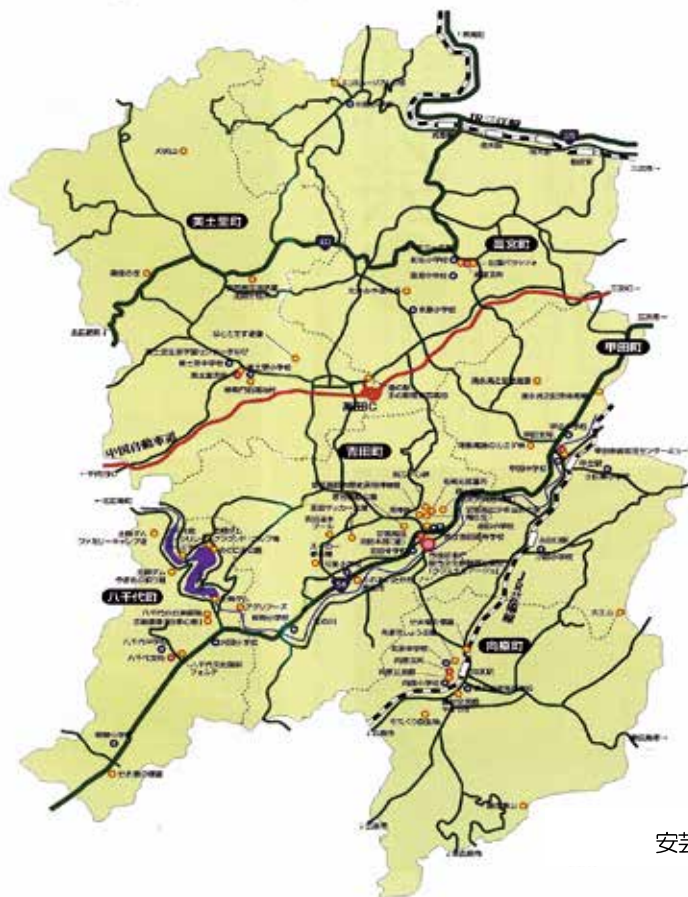


### ■千貫水(甲田町)

<sup>せんがんすい</sup>五龍山麓<sup>ごりゅうさんろく</sup>にあって，昔は山中に<sup>わ</sup>湧き出ていると伝えられています。

<sup>ししどけ</sup>宍戸家<sup>いと</sup>代々の城主はこれを愛しみ，とくに8代<sup>たかいえ</sup>隆家がこの水を「千貫にも代えがたし」と言ったとして千貫水の名がつけました。名水鑑定士の鑑定済みの水です。

1811年に所在を示す碑が建てられました。



安芸高田市の主な観光スポット

## 6 他地域とのつながり

●安芸高田市は、どの地域とつながり（人や物の交流）が深いのでしょうか？



安芸高田市は、道路が整備され、一般国道54号、中国自動車道、JR芸備線・三江線も通っており、地理的位置から、広島市、三次市、山県郡北広島町と人や物の交流が盛んです。

また、高速道路や空港を利用した遠方の地域とのつながりも増えています。

安芸高田市には、高速道路が通り、インターチェンジもあるし、JRも通っていて、交通の便はいいよね！

### ■ 路線バス

広島 可部 安芸高田市役所  
 約1時間10分

### ■ JR芸備線

広島 向原 吉田口 甲立  
 約1時間10分～20分(快速50分～1時間)

### ■ 高速バス (中国自動車道)

広島 美土里 高宮 三次  
 約1時間～1時間5分 約20分



高田インターチェンジ



政令指定都市広島市



安芸高田市近辺主要交通網

## 第2章 安芸高田市の大地

### 1 安芸高田市の大地

#### ●皆さんの住む大地はどのようなものからできているのでしょうか。

安芸高田市は、今からおよそ3億年から1億年前に海底であった部分が持ち上がってできた大地を基盤として、マグマが冷えて固まった火成岩や、火成岩が風雨などでぼろぼろになり、川などによって運ばれ、再び堆積してできる堆積岩からできています。

#### <代表的な火成岩>

##### ◎花こう岩

花こう岩は、マグマが地下深くでゆっくりと冷えてできる深成岩の仲間です。広島県の大部分の地下にこの岩石があると考えられていて、広島型花こう岩と呼ばれています。セキエイやチョウセキによる白い部分と、クローンモを主とする黒い部分のまだら模様が特徴です。

安芸高田市には、広島型花こう岩よりも古く、白亜紀中期（およそ1000万年前ごろ）に形成されたと考えられる別の花こう岩も、高宮町、八千代町、向原町に見られます。

##### ◎高田流紋岩類

流紋岩は、花こう岩になるマグマと同じ成分のマグマが、地表付近などで急冷されてできる火山岩の仲間。高田流紋岩類は、火山灰や火山礫が固まって流紋岩のようになったものと考えられています。全体は青灰色をしていて、花こう岩とよく似たまだら模様が特徴です。

#### <代表的な堆積岩・地層>

##### ◎甲立礫層<sup>(1)</sup>

甲田町と高宮町にみられる礫岩でできた地層の中で、甲立高原にはこの地層に含まれる3～15cm前後の大きさの丸っこい礫がよくわかる崖があります。しかし化石が見つかっていないため、いつごろできた地層なのか、わかりません。

\*注(1) 礫層 礫とは、直径2mm以上の岩石でできた粒のこと。礫層とは、おもにこの礫が集まって地層を作っているもののことを指す。



↑ 花こう岩の例

編集委員撮影



↑ 高田流紋岩類の例

編集委員撮影

ふなさやまのうちぎゃくだんそうたい  
 ◎船佐山内逆断層帯(2)

甲立礫層の下には、さらに備北層群という地層があり、さらにその下には花こう岩があります。この船佐山内逆断層帯では、地下深くにあるはずの花こう岩が、甲立礫層の上に持ち上がっていることが観察できます。低い土地が隆起して中国山地ができたことを示す証拠と考えられており、高宮町に見られる露頭は国の天然記念物に指定されています。

<安芸高田市の大地をつくる様々な岩石の大まかな分布>



\*注(2) 逆断層 地層が横方向から押しつぶされるような力を受けると、ある部分を境に大地が割れ、その片側がもう片側の上に持ち上がった形になる断層。

## コラム 上根の河川争奪<sup>かせんそうたつ</sup>

八千代町上根には、河川争奪地形という珍しい地形があります。

広島市から国道54号を北上していくとき、八千代町上根に至る旧道を通ったことはありますか。

この旧道を北上すると、右には根ノ谷川が広島方面へ流れていくのが見えます。左側は切り立った崖のような地形になっています。この崖は、その昔、川の底にあった岩石でできているのです。

旧道を登りきったあたりには、広い平野があるのですが、この平野を作った河川は、現在はとても細く、八千代町と吉田町の境付近で大きな川になります。そして、可愛川、江の川となって北上します。



↑ 河川の底であったことを示す  
礫岩の層（八千代町上根）  
編集委員撮影

河川争奪は、隣接する川の浸食力の違いによって起こります。安芸高田市八千代町の上根<sup>ひ</sup>峠付近では、江の川水系の簸の川上流が、太田川水系の根谷川の強い浸食によって奪われています。何万年という時間の流れからみれば、江の川流域は少しずつ小さくなっていることとなります。



↑ 八千代町上根に向かう旧道  
（広島市側から編集委員撮影）

では、昔はどうなっていたのかということ、根ノ谷川はおよそ1万年前までは、現在の可愛川<sup>えのかわ</sup>のほうへ流れていたらしいのです。ところがあるとき、このあたりの南側の大地が陥没<sup>かんぼつ</sup>して低くなり、北へ流れていた川が南側へ流れるようになったと考えられています。このことによって、北側へ流れる水は減り、広い平野に似つかわしくない細い川だけが現在に残っているのです。



↑ 八千代町上根の平地 編集委員撮影

# 第3章 安芸高田市の生物

## 1 安芸高田市の天然記念物



●安芸高田市にある天然記念物にはどのようなものがあるでしょうか。

人と自然とが共生しながら発展してきた安芸高田市には，さまざまな自然物が大切にされ，残されています。なかでも特徴的な植物については，広島県から7つの天然記念物が指定されています。

さらに，国から指定されている天然記念物（船佐山内逆断層帯），安芸高田市が指定する天然記念物（25か所）もあります。調べて訪れてみましょう

安芸高田市文化財マップ  
<http://www.akitakata.jp/site/page/kyouiku/syougaiakusyu/bunkazai/>

↑ 広島県指定天然記念物の位置  
(安芸高田市HPより編集委員作成)

## 2 安芸高田市と江の川の生物

●安芸高田市にはさまざまな河川がありますが、その代表格である江の川とは、どのような川でしょうか。



「江の川」という名称は、昭和41年4月に一級河川に指定された際に定められた名称で、それ以前は流域の各地において可愛川、郷川、江川など様々に呼ばれていました。三次市より上流における江の川本流は「可愛川」と呼ばれ、日本書紀（720年成立）にもその名が記されていることから、古くから可愛川と呼ばれていたようです。江の川は、山県郡北広島町阿佐山に源流をもち、島根県江津市にそそぐ河川です。向原町と八千代町にある分水嶺を境に、安芸高田市北部の河川が江の川へ合流します。安芸高田市は江の川の上・中流部にあたり、溪流に見られる様々な生物が生息しています。



### アユ（魚類）

うっすらとした緑色の背中が特徴。生まれると海へ出て、産卵のために川へ戻ってくる。岩についた藻を主に食べる。



### オヤニラミ（魚類）

水のきれいな緩い流れの河川を好む。水生昆虫などを食べる。かつて観賞用として乱獲され、数を減らしている。レッドデータブックひろしま絶滅危惧Ⅱ類。



### ヤマセミ（鳥類）

カワセミと同じように木の上から水面をのぞき、急降下して魚をとらえる習性をもつ。カワセミより大型で色も白黒である。レッドデータブックひろしま準絶滅危惧。



### オオサンショウウオ（両生類）

高宮町川根で150cmの個体が保護されたことがある、最大の両生類。およそ3000万年前から姿を変えていない「生きた化石」。国の特別天然記念物。

↑ 江の川に生息する生物の例（『江の川(上流)河川維持管理計画（国土交通省）』より）

近年、かつて遡上してきていたという鮭を、ふたたび江の川に呼び戻そうと、鮭の稚魚を放流する取り組みが、高宮町川根地域などで行われています。



溪流にすむ生物には、きれいな水が欠かせません。きれいな河川を守るために、どのようなことができるか、あなたの考えを書いてみよう。



安芸高田市は自然に恵まれ、特徴的な生物が見られる市です。しかし、その特徴を崩してしまうものもあります。その1つが、外来種と呼ばれる生物です。

外来種（外来生物とも）とは、もともとはその土地にいなかったけれど、人間の活動によって別の地域から持ち込まれた生物のことをさします。カミツキガメやブラックバスなどが、ニュースなどでも話題になることがありますし、アメリカザリガニやタンポポ、シロツメクサ、オオカナダモなど、身近なところに多くの外来種が存在しています。人間の活動にとって重要な外来種も多くいますが、なかには、もともとその地域に暮らしていた生物（在来種）や自然環境に大きな影響をあたえるものもあります。



↑ オオカナダモ  
（編集委員撮影）

#### ＜外来種による環境への影響＞

- 外来種が、在来種を食べてしまい、本来の生態系が乱される。
- 外来種が、在来種と同じような生活をするすることで、在来種の生活を乱してしまう。
- 外来種が、在来種と交雑することで、在来種がもともと持っている特徴が失われていく。

#### ＜外来種による被害を予防するために大事なこと＞

- ① 外来種をその地域に持ち込ませないこと。
- ② 飼育している外来種を逃がさないこと。
- ③ 野外にいる外来種を、他の地域へ広げないこと。

安芸高田市でも、土師ダム等でブラックバスの再放流を禁止したり、漁業組合による駆除が行われたりと、外来種に対する様々な対策が行われています。



↑ 再放流を禁止する看板  
（編集委員撮影）



↑ 駆除されたブラックバス等  
（可愛川漁協）

# 第2編 安芸高田市の歴史

## 第1章 原始・古代の安芸高田

- 1 旧石器時代・縄文時代の遺跡
- 2 弥生時代の遺跡
- 3 古墳時代の遺跡
- 4 高田郡の成立
- 5 仏教が国家の政治にはたした役割
- 6 安芸高田市の主な古墳・古代遺跡分布図

## 第2章 武士の成長と安芸高田

～平安時代末期から鎌倉時代～

- 1 中世高田郡・高宮郡の成立
- 2 高田郡・高宮郡内に成立した  
荘園・国衙領
- 3 中世への転換の中で
- 4 平氏政権と厳島神社と安芸国衙の関係
- 5 高田郡司藤原氏の動き
- 6 在地領主高田郡司藤原氏の没落と  
源平の争乱
- 7 土着の領主と東国武士
- 8 安芸高田に移った武士たち
- 9 毛利氏の吉田への移住

## 第3章 武士の成長と安芸高田

～南北朝時代から戦国時代～

- 1 南北朝の動乱期から室町期に  
おける毛利氏の動き
- 2 安芸国人一揆の形成
- 3 毛利元就の登場
- 4 国人領主から戦国大名へ
- 5 毛利氏の課題
- 6 中世安芸高田の信仰

## 第4章 幕藩体制の時代

- 1 関ヶ原の戦い
  - 2 徳川政権と安芸高田
  - 3 近世農民の生活
  - 4 農村文化の発展
- コラム
- 5 幕末と安芸高田
- コラム

## 第5章 近代の進展と安芸高田

- 1 廃藩置県と武一騒動
  - 2 明治の地方行政の成立と安芸高田
  - 3 近代学校教育の始まり
  - 4 日清・日露戦争の頃の安芸高田
  - 5 大正時代 芸備鉄道開通に伴う変化
  - 6 日中戦争・太平洋戦争下の安芸高田
  - 7 戦時下の安芸高田の場面
- コラム① 和算の研究 三上義夫
- コラム② 衆議院議員 名川侃市

## 第6章 現代の安芸高田

- 1 戦後の復興と高度経済成長
- 2 酪農開拓パイロット事業  
(高宮町羽佐竹)
- 3 土師ダムの建設(八千代町土師)
- 4 中国縦貫自動車道の建設
- 5 昭和38年豪雪災害・47年豪雨災害
- 6 アジア競技大会広島大会・  
第51回国民体育大会  
(ひろしま国体)

# 第1章 原始・古代の安芸高田

## 1 旧石器時代・縄文時代の遺跡



### ●いつごろから、安芸高田には人が住み始めたのでしょうか？

安芸高田でも旧石器時代から人は住んでいました。  
各地に遺跡が残っています。

教科書や資料集で見たことあるね！

安芸高田市で一番古い遺物が右の石器です。旧石器時代の後半期（約2万～1万2000年前）といわれています。

吉田町の郡山大通院谷遺跡で見つかった物で市内で唯一の旧石器です。石器は、角錐状石器かくすいとよばれるもので、石を打って、三角錐状に加工し、柄の先につけて槍先やりとして使ったと考えられています。

旧石器時代にすでに安芸高田に人が暮らしていたことになります。



↑ 郡山大通院谷遺跡出土角錐状石器

## 2 弥生時代の遺跡



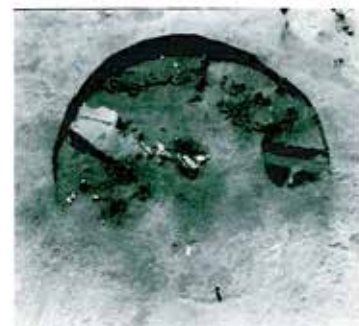
### ●弥生時代の遺跡には、どんなものが見つかっているのでしょうか？

教科書に登場するような石包丁ませいせきふや磨製石斧など当時の生活で使用されたものが発見されています。

弥生時代は、日本人が米を主食としはじめる時代です。約2300年前ごろから大陸から伝わった稲作に関わる技術や道具などが全国に広まりました。安芸高田でも、教科書に登場するような弥生土器などが多く発見されています。

向原町坂しもおばらや甲田町下小原をはじめ各地で土器や壺、郡山大通院谷遺跡でも、石包丁ませいせきふや磨製石斧など当時の生活で使用されたものが発見されています。

みなさんの住んでいる町も、たてあな竪穴住居が広がっていたのかもしれない。



↑ 植谷遺跡（高宮町）  
弥生時代住居跡  
安芸高田市歴史民俗博物館



安芸高田市にも弥生時代の遺跡があります。

■貴重な遺跡 安芸高田市で発見！！

# 四隅突出型墳丘墓

●なぜ、四隅突出型墳丘墓の発見が貴重なのでしょうか？



**珍しい弥生時代の墓の一種！ 広島県内で10例しかない貴重な遺跡！**

平成25年5月、吉田町下入江・稲山<sup>いなやま</sup>という山でたいへんめずらしい弥生時代の墓が見つかりました。土を盛った四角い墳丘<sup>ふんきゅう</sup>の角（隅）が飛び出すような形の墓は、全国で100以上見つかっていますが、その多くは山陰地方と広島県北部にあります。今回の稲山墳丘墓は、県内で10遺跡目、安芸高田市では初めての発見です。



いなやま ぶんぼ よすみ とっしゅつかたふんきゅうぼ  
稲山墳墓（四隅突出型墳丘墓）

- ・全景（赤線が墳丘の外形）
- ・墳丘約10m×9m
- ・突出部含めた最大幅約15m墳丘高さ約1.5m
- ・北西隅の突出部付近 突出部幅・長さ各約2.6m

四隅突出型墳丘墓イメージ図 →  
(出雲市史跡ガイドより)





● 林道入江戸島開設工事に伴う発掘調査を行った（公財）安芸高田市地域振興事業団の沖田健太郎さんに聞きました！

Q： 見つかった「四隅突出型墳丘墓」が注目されているのはなぜですか。

A： 珍しい弥生時代の墓の一種で、市内初、県内では10遺跡目となる数少ないものです。県内では三次・庄原市と北広島町の間地域を埋める発見です。全国的には百例程度が知られ、広島県北と山陰に集中し、一部北陸地方にも見つかっています。この型の墓の地域性や移り変りを考えるうえでたいへん注目されているのです。

Q： この墓の特徴は何ですか。

A： まず土を盛ったり削ったりして墳丘を平面が方形や長方形の形に造り、その角が飛び出す（突出する）ような形としています。斜面に石を貼り、墳丘の裾に石を並べたり、石を使ったりしていることも特徴です。

Q： 誰の墓ですか。

A： この稲山墳墓の場合は見晴らしのよい尾根の先端に造られていますので、おそらく墓から見える範囲に勢力を持っていたこの地域の首長が葬られたと考えています。

Q： 甲田町にある甲立古墳との違いは何ですか。

A： 四隅突出型は弥生時代の広島県や山陰地方を中心にみられるものですが、甲立古墳はおよそ百年後の古墳時代に造られた前方後円墳という、定型化した全国にみられる墳形です。四隅突出型が前方後円墳の前身であったという説もあります。

これからどうなる？

安芸高田市教育委員会では、貴重な遺跡であることから、林道建設を行っている市農林水産課と協議し現状保存することとしました。市や県の史跡に指定するくらいの価値の高い遺跡と考えています。

### 3 古墳時代の遺跡



#### ●安芸高田にはどんな古墳があるのでしょうか？

安芸高田にはいくつもの古墳があります。そのほとんどは、長い月日をかけて、森になったりしています。そのなかでも、甲田町の甲立古墳は広島県内でも有名な古墳です。

## 甲立古墳

甲立古墳は、甲田町上甲立にあるきくやま菊山の尾根に作られています。江の川と本村川が合流し、古くから人々の交流があった地域にあります。今から1650年くらい前に作られました。発見された埴輪はにわの形から推定できます。古墳は、前方後円墳とよばれるもので、安芸高田市内でも2つしか発見されていません。大きさは広島県内第2位の大きさ（縦の長さ約77m）です。

しかし、甲立古墳が作られた時代4世紀後半では、県内で一番大きかったとみられます。古墳は、教科書でも学習したとおり各地の豪族墓です。ということは、安芸地方（現在の広島県西部）を支配していた豪族がいたということでもあり、この古墳があった時代には安芸の中心地は甲立周辺であったとも考えられます。

古墳は、時間が経つごとに、崩れたり盗掘などの被害にあったりすることが多いですが、甲立古墳は残存状態がきわめてよく、特に埋葬されている後円部には、埴輪が当時並べたときの状態で残っていました。中でも、家形埴輪が5基並んだ状態で見つかり、これは国内でもきわめて稀な例として注目されています。

また、甲立古墳がヤマト王権時代に畿内で見られる巨大古墳とよく似た構造になったこともわかっています。甲立古墳を造るとき、ヤマト王権が何らかのかたちで直接関わっていたことが考えられます。



↑ 甲立古墳出土の  
家形埴輪



↑ 甲立古墳出土の  
朝顔形円筒埴輪

#### 甲立古墳を発掘した安芸高田市教育委員会職員の話

「以前からあった甲立古墳でしたが、実際に調べてみると、とても貴重なことがわかりました。古墳は平成22年から4年間調べました。県内でも初めてとなる発見もあり、いろいろなことがわかりました。当時の人々がどうやって古墳をつくり、どんな生活をしてきたのかなどを想像しながら調査しました。どうも、ヤマト王権とのつながりがみえてきたので、重要な人物の墓だということがわかりだしました。みなさんも是非見る機会があれば来てくださいね。」

## 4 高田郡の成立

### ●安芸高田の前身，高田郡はいつできたのでしょうか？

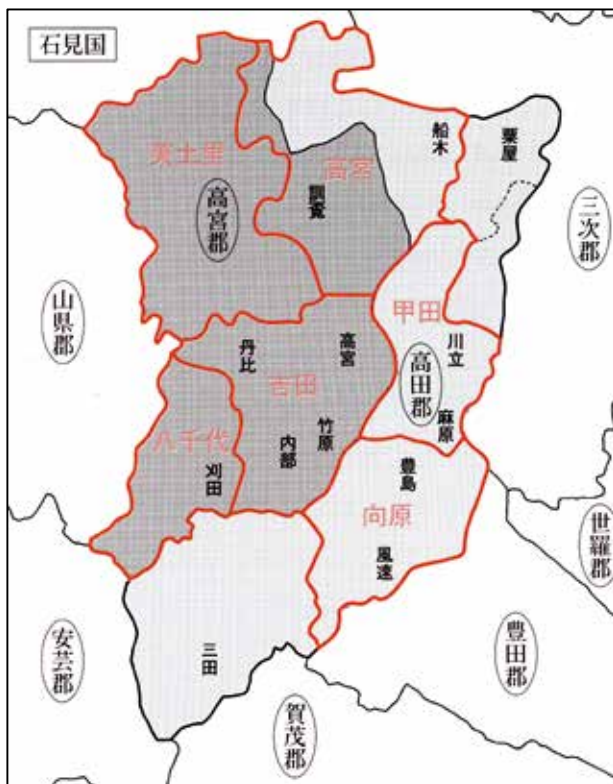


平安時代の記録には，すでに高田郡・高宮郡といった現在にちなむ地名があったとされています。いまの安芸高田市の原型は鎌倉時代の高田郡にあると考えられます。

6世紀の終わりごろ，朝廷が奈良県明日香村あたりの飛鳥地方に移されました。そこから，710年の奈良時代平城京遷都までを飛鳥時代といいます。聖徳太子による十七条の憲法の制定などが行なわれて，701年の大宝律令の制定など天皇を中心とする中央集権国家の確立がめざされました。地方も朝廷から，国郡里制をしかれました。(奈良時代には，郡の下に郷，郷の下に里がおかれました。)

広島県は，安芸国となり，その下に，高田郡・高宮郡がおかれました。平安時代に成立したとされる事典の『和名類聚抄』によると，現在の安芸高田市吉田町・八千代町・美土里町・高宮町などは，古代の高宮郡の領域であったとされています。全部で6つの郷があったといわれています。

高田郡は，現在の安芸高田市北西部などで，後に高宮郡と併合をされ，南北朝時代頃には，現在の市域とほぼ同じ高田郡になりました。郡の中心には，郡衙といわれる郡の役所が置かれ，朝廷からの役人が派遣されました。高宮郡衙は高宮郷（現吉田町吉田）の郡山周辺にあったとみられます。郡山大通院谷遺跡（吉田町）では，郡衙施設の一部とみられる掘立柱が見つっています。また，郡山城下町遺跡からも「高宮郡司解・・・」と記す木簡が出土しています。



現在の安芸高田  
市と違うの  
は，どんどこ  
ろだろう？話  
合ってみよう。



← 古代郡郷推定一図

『安芸高田郡の文化財』より

太線内部が南北朝時代以降の高田郡域

## 5 仏教が国家の政治に果たした役割

### ● 安芸高田市に仏教の影響が及んだのはいつごろで しょうか？

古代では、東大寺の大仏にみられるように、仏教は国家宗教として広められました。安芸高田でも、仏教にちなむ遺跡が残っています。

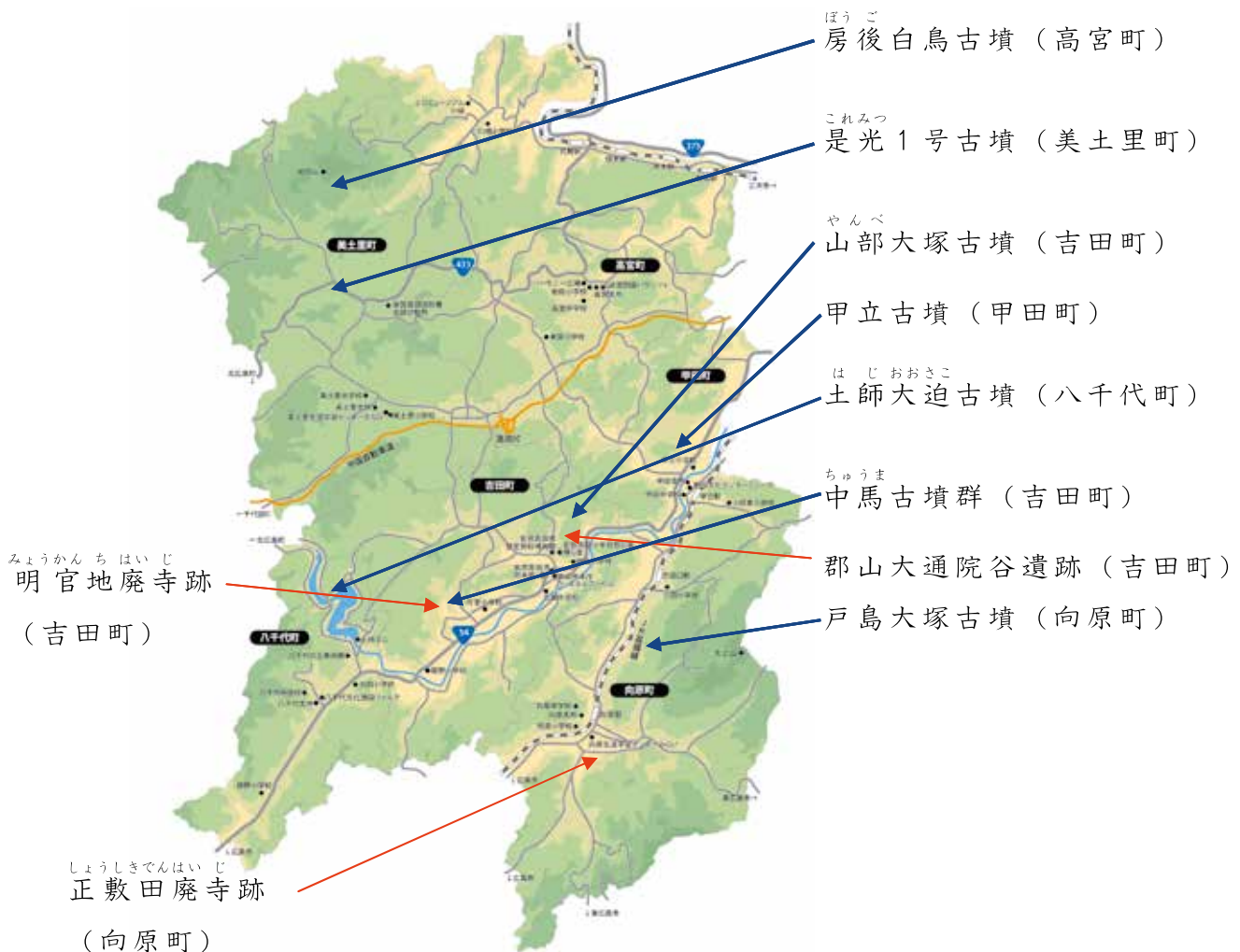


↑ みょうかんちはいじ 明官地廃寺跡  
出土の文字瓦  
広島県教育委員会

7世紀後半に創建されたという古代寺院跡である、吉田町 みょうかんちはいじ 明官地廃寺跡・向原町 しょうしきでんはいじ 正敷田廃寺跡などが確認されています。吉田町の中馬に、明官地廃寺は、江の川の支流である油川 あぶらかわ をのぞむ東斜面にあり、調査で塔や金堂（本堂）などの基礎部分も見つかっています。法隆寺の形式でもあるといわれており、朝廷や中央豪族の影響を受けていたと考えられています。つまり、仏教が国家宗教として、安芸高田市にも広められていました。

## 6 安芸高田市の主な古墳・古代遺跡分布図

安芸高田市の古代遺跡はたくさんあるんだね！身近な遺跡を訪ねてみよう！





## 第2章 武士の成長と安芸高田～平安時代末期から鎌倉時代～

### 1 中世高田郡・高宮郡の成立



#### ●平安時代後期の高田郡・高宮郡はどのように変化していましたか。

平安時代後期，日本国中の多くの地域でみられたように，安芸国高田・高宮郡においても，土地が荘園や国衙（国の行政組織）の所領（土地）になっていました。現地にいる国司は国衙の支配を握り，中央政府（朝廷）に対して一定の税を送ることでよしとし，朝廷も国司による国衙の支配を黙認している状況になっていました。以後，国衙のもとに集まる在地の支配者が領主として，各地域の所領を地方の実力者を通じて，中央の貴族・寺社とのつながりを求めて寄進<sup>(1)</sup>していくことで，多くの荘園が生まれていきました。

平安時代末に，誰が安芸高田を支配していたのだろう？

### 2 高田郡・高宮郡内に成立した荘園・国衙領



#### ●高田郡・高宮郡にはどのような荘園や国衙領があったのでしょうか。

祇園社<sup>(2)</sup>領安芸国吉田荘は，1149年祇園社の行事を営むために充てられたことで成立しました。鳥羽上皇の院政の頃に成立した荘園の一つで，本家を鳥羽上皇，領家を左大臣藤原家忠とする荘園でした。当初の領域は確かになっていませんが，のちに吉田荘四郷（吉田・麻原・豊島・竹原）を中心としつつ広大な領域になったと考えられています。

高田郡内七カ郷（三田・風早・豊島・麻原・甲立・船木・粟屋）や高宮郡は院政の頃を経て，荘園・公領（国衙領）のさまざまな呼び名で呼ばれる土地に変わっていきました。

### 3 中世への転換の中で



#### ●土地の支配はどのように変わっていったのですか。

律令制度の国一郡一郷という地方行政組織は，11世紀に入ると，タテの関係から国衙の下にヨコに並ぶ関係として大きく変化していました。新たに台頭しつつあった在地領主<sup>(3)</sup>とよばれる支配層は，荒野あるいは荒廃していた公田を開発し，国衙から自らの支配する領域として認められようとする動きを見せました。それがかなわない場合，中央の権力者に寄進して荘園とすることによって，自らの所領を保とうとする動きを見せていたのです。

注 （1）寄進 自らの土地の所有権を上位の公家や寺社に譲る行為 多くの場合，譲った者はそのまま現地の実質の支配権を維持しようとした （2）祇園社 古くは祇園感神院といい，京都にある八坂神社の別称 （3）在地領主 農村を中心とした生産の場に根拠を持ち，現地を支配した中世の領主の呼称



① 多治比保  
現在の吉田町多治比付近を領域とした内蔵寮領。鎌倉時代初期までに成立。

⑤ 吉茂荘  
現在の美土里町から高宮町西部一帯を領域とした長講堂領荘園。1191年長講堂所領目録に初めて見られる。

吉田荘

② 内部荘  
現在の吉田町福原・中馬・川本・山手付近を領域とした。1171年に荘名が初めて文書に登場。

③ 入江保  
現在の吉田町上入江・下入江の地を領域とした主殿寮領。1189年入江郷をもとに成立。

⑥ 高田原別符  
妻保垣別符  
長田郷  
長田郷（向原町長田）・妻保垣別符（向原町保垣）・高田原別符（甲田町高田原）は、いずれも佐伯氏とのつながりが深い厳島社領。

⑦ 苅田郷  
現在の八千代町勝田付近を領域とする国衙領。

④ 弥次村  
現在の吉田町桂付近を領域と考えられている国衙領。

⑧ 祢村  
現在の八千代町下根・上根・向山付近を領域とする国衙領。

現在の地名になごりがあるよ。



↑ 高田郡・高宮郡の主な荘園・国衙領（編集委員作）



← 清神社（吉田町吉田）  
（中世、京都祇園社の荘園の鎮守社であった）

安芸高田市にあったそれぞれの荘園・国衙領に関わる場所や地名を地図上で確かめてみよう。

## 4 平氏政権と巖島神社と安芸国衙の関係



### ●安芸国での平氏の動きはどうだったのですか。

平氏は平治の乱後に国政の中心にのぼっていく中、1166年から少なくとも1171年にかけて平清盛を知行国主<sup>(1)</sup>とする平氏の安芸国衙支配が積極的にすすめられていました。

平氏は、1182年3月までに巖島神社の神主佐伯景弘を在国のまま安芸守にし、内乱が激しくなる中で国衙を支配しながら、体制を強めていきました。清盛が1160年8月に最初の巖島参詣を実施した後、平氏の巖島に対する信仰が高まり、その権力の保護のもとで、巖島社領の増加が見られました。

## 5 高田郡司藤原氏の動き



### ●高田郡の在地領主藤原氏はどのような存在でしたか。

高田郡司藤原氏は、平安時代後期より代々所領を相続していく中で、郡司や郷司が在地領主となっていた代表例として研究に取り上げられてきました。

旧来の在地領主の中での勢力の入れ替わりが起き、その政治的対立が激しくなるとともに、高田郡司藤原氏も対応を迫られていました。

年代	高田郡司藤原氏関係の動き	全国的な動き
1114	・藤原頼成、嫡子成孝に三田郷の私領を譲ることを国司が承認	<p>この高田郡司藤原氏については、古くから研究がなされているようだよ。</p>
1139	・藤原成孝、中原師長(都の貴族)に三田・風早両郷の私領を譲ることで下司に補任されることを願うが失敗	
1151	・藤原成孝、養子源頼信に三田・風早両郷を譲る	1156 保元の乱 1159 平治の乱
1167	・源頼信、平清盛の長寿を祈り、巖島社神主佐伯景弘に三田郷の田畑を支配の証明文書を譲る	1167 平清盛太政大臣になる
1174	・中原業長から高田郡七カ郷の田畠山林を巖島神社に寄進 ・佐伯景弘、高田郡七カ郷を巖島社領とするように申請を出す	この頃、法然が専修念仏を唱える
1176	・安芸国司、高田郡七カ郷を巖島社領と認め、神主佐伯景弘をその地頭とする	<p>平氏と安芸高田の関係はどこにあるのだろう。</p>
1180	・源頼信の子頼綱、佐伯景弘に三田・粟屋	

\*注(1)知行国主 特定の国を事実上の支配国としてあたえられ、近親・近臣などをその国司に推挙し、国務にあたらせた者

1182	両郷の返還を求める <small>かげのぶ</small> ・佐伯景弘，嫡子景信に高田郡七カ郷を譲る	1180 源頼朝，伊豆で挙兵 1181 平清盛没  <small>いちのたに</small> 1184一ノ谷合戦 <small>やしま</small> <small>だんのうら</small> 1185屋島合戦，壇ノ浦合戦
------	--	---

## 6 在地領主高田郡司藤原氏の没落と源平の争乱



### ●高田郡司藤原氏はどのように所領を守ろうとしたのでしょうか。

高田郡司藤原氏が中央の平清盛とのつながりを得ることで，高田郡七カ郷全体に対する領有権りょうゆうけんを取り戻そうとした動きを起こしていました。

しかし，1176年に高田郡七カ郷は巖島領として認められ，佐伯景弘には税を納める責任者である地頭じとうとされていました。藤原氏の後継者の頼信の子頼綱つなは佐伯景弘に対して，1180年9月，平清盛へのとりなしを頼み，証契しょうことなる文書を預け，有利になるようお願いしました。しかし，景弘は高田郡七カ郷を跡継ぎの景信かげのぶに代々伝える私領として譲っていました。こうして藤原氏の現地を支配する権利は奪われ，その名は歴史上から消えていったのです。

平氏と巖島神社（佐伯氏）とのつながりは，源平の争乱期には，反平氏の行動をとる在地領主を登場させることになり，安芸国での源氏軍の侵入と平氏の敗北という状況を生む要因となったと考えられています。

藤原氏のように，大きな権力の前に消えていった在地領主は他にもいたかもしれません。また，巖島神社とのつながりは，内陸部にある安芸高田においても，各地にある巖島神社かんげんさいや管弦祭といった行事にみられるように現在でもみることができます。



↑ 佐々井巖島神社（八千代町佐々井）



↑ 玉殿ぎよくでんの様子 扉の墨書ぼくしょに文安ぶんあん2（1445）年とある

## 7 土着の領主と東国武士

### ●鎌倉時代初期の安芸国の様子はどうだったのでしょうか。



平氏の没落によって、その地位を失った勢力がいる中で、鎌倉幕府は宗孝親を安芸国守護<sup>(1)</sup>に送り込みました。宗氏は守護である上、朝廷の系統の国衙も掌握していました。また、高田郡内の厳島社領内部荘には以前からの領主の源姓の葉山氏が根強く勢力をもっていました。

1221年の承久の乱では、守護宗氏も葉山氏も共に朝廷方につき、その敗北の結果、幕府に所領を没収されました。このような安芸国内の没収地は東国武士に与えられたのです。

安芸国では、後に世能荒山荘が阿曾沼氏、安芸町村が平賀氏、大朝本荘が吉川氏、都宇・竹原両荘が小早川氏、三入荘が熊谷氏、八木村が香川氏に与えられました。

## 8 安芸高田に移った武士たち

### ●安芸高田に移ってきた武士にはどんな一族がいるのでしょうか。



次の武士の一族が安芸高田に移ってきた代表的なものです。

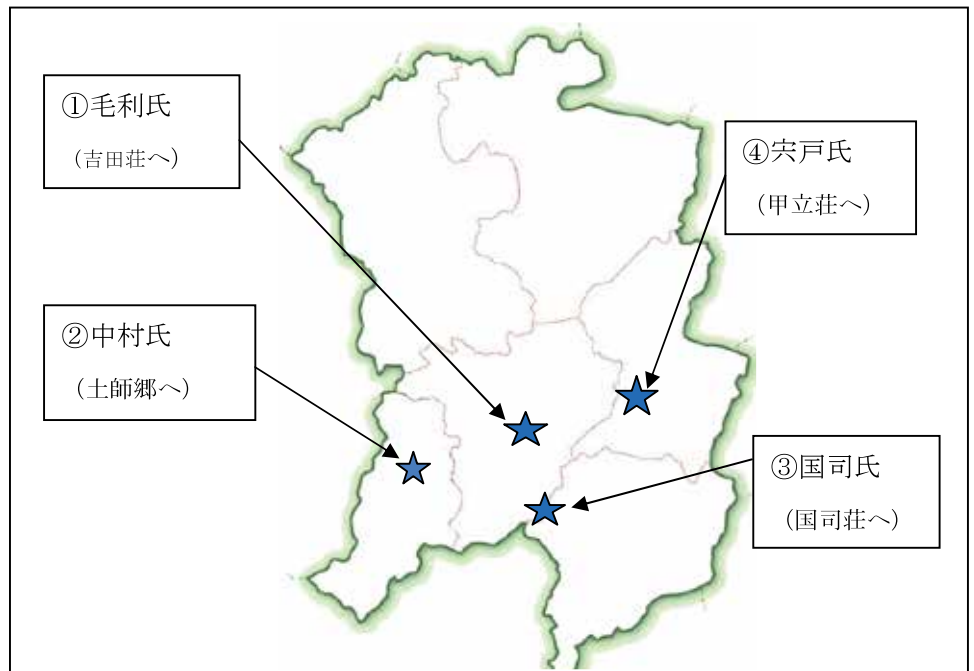
- ①毛利氏 鎌倉幕府初期の公文所（のちの政所）の別当、大江広元を祖とします。四男季光が毛利氏と称し、毛利荘（神奈川県厚木市北部から愛甲郡相川町）を領有していました。季光の孫時親は吉田荘を相続し、1336年7月に越後国から移りました。
- ②中村氏 源頼朝から駿河国地頭<sup>(2)</sup>職に任命された武田信義より4代信貞のとき甲斐中村荘（山梨県）に住んだため、その子兼邦から中村姓を名乗りました。兼邦の子兼貞は足利尊氏の下で軍功をたて、上土師・中土師・下土師（八千代町土師）を与えられ、1341年に土師郷へ移って来ました。
- ③国司氏 足利尊氏の執事であった高師泰を祖とし、その次男師武が1336年7月、六波羅合戦の功により尊氏から国司荘（吉田町国司）を与えられ移って来ました。
- ④宍戸氏 鎌倉幕府の有力御家人八田知家の四男家政が常陸国笠間郡宍戸荘に住み宍戸と名乗り、高田郡内の所領を伝えていました。家正から四代目知時の子持家の朝家が1334年甲立（甲田町上甲立）へ移って来ました。

東国武士たちは、鎌倉時代末から南北朝期にかけて移住し、動乱が激化する中で、直接に在地を支配して、自らの所領の維持を図ろうとしていたのです。

いろいろな武士の一族が広がりをみせているよ。



いよいよ毛利氏がでてきたよ。



↑東国武士の移住（編集委員作成）

## 9 毛利氏の吉田への移住

●毛利氏が吉田荘に来た頃の様子はどうだったのでしょうか。



南北朝時代の1336年、越後国佐橋荘（新潟県）の南条を本拠地にしていた毛利時親は吉田荘に入りました。時親は曾孫の元春とともに足利尊氏方として各地を転戦し、南朝方として活動する孫の親衡と戦っていました。その間、一時吉田荘地頭職を奪われることもありました。

この時、元春は母方の祖父、旧三田郷（広島市安佐北区白木町三田）の領主の系譜を引くとされる三田入道のもとに身を寄せたとされます。このように、新しく入ってきた武士は在地の領主との婚姻関係をつくることなどを通して、その在地の秩序に入り込んでいったとされています。

惣領<sup>(3)</sup>と庶家<sup>(4)</sup>、親子が相分かれて戦う動乱期の南北朝時代です。毛利氏のような東国から移住してきた武士の一族が、新たな秩序をつくっていく担い手となっていくと共に、広く在地とのつながりを深めていくことで、後の室町時代にかけて「安芸国人」とよばれる存在へとつながっていったのです。



南北朝時代の全国的な動きと安芸高田での動きを照らし合わせて考えよう。

（略系図）

毛利時親—貞親—親衡—元春

↑南北朝時代頃の毛利氏の略系図

\*注 (1)守護 鎌倉・室町幕府の職名。任国内の軍事・警察権を主な権限とする。

(2)地頭 鎌倉・室町幕府の職名。主に下地の管理、租税徴収などを行い、後に在地において領主化がみられた。

(3)惣領 武家社会における一族の長。

(4)庶家 武家社会における惣領ではない家筋。

# 第3章 武士の成長と安芸高田 ～南北朝時代から戦国時代～

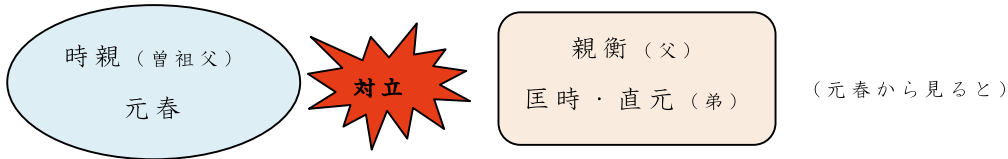
## 1 南北朝の動乱期から室町期における毛利氏の動き

●南北朝期から室町時代に向けては、移住してきた武士にとってどのような時期だったのでしょうか。



南北朝の動乱期は、武家にとってこれまでの惣領を中心とする一族の秩序から離れることもあり、周辺の領主とのつながりを深めた在地に新たな支配をめざす動きがみられる時期でした。

(南北朝期の毛利氏の四代にわたる分裂抗争)

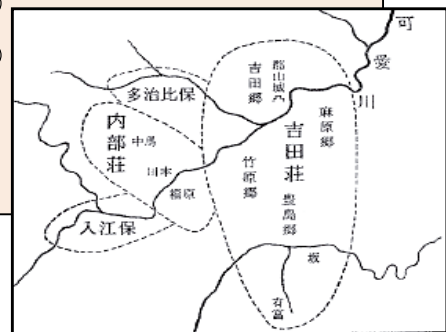
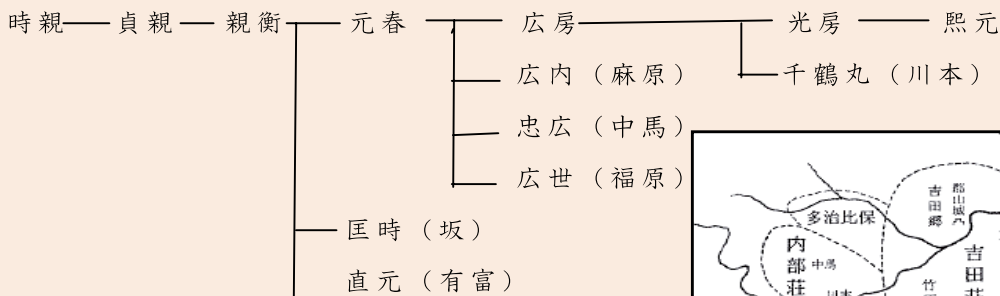


1381年元春の所領譲与による決着

- ① 跡継ぎの広房に吉田荘地頭職半分 直元の麻原郷地頭職を認める
- ② 吉田荘竹原郷を広房・広内・忠広・広世の四子に分け与える
- ③ 内部荘内福原村を広世に譲る

これらにより、新惣領としての<sup>ひろふさ</sup>広房と<sup>おぼら</sup>麻原・<sup>ふくばら</sup>福原・<sup>ちゅうま</sup>中馬・<sup>かわもと</sup>河本・<sup>さか</sup>坂といった在地名を名乗る庶家という室町期の毛利氏の基本が形成されたこととなります。しかし、惣領家と有力庶家との間に所領の高に大きな差がなかったことから、一族の分裂が生じる可能性をもっていたのです。

また、毛利氏をはじめとする安芸国に移ってきた武士団の動きは、旧来の<sup>は</sup>生え抜きの在地領主との対抗関係の中で、在地領主のこれまでの支配を認め、所領の管理を保証するなどの形で実現していました。このように南北朝期以後はその重要な時期であり、安芸高田に根づくための工夫が必要だったのです。



↑毛利氏略系図

毛利氏の所領→

(『安芸毛利一族』河合正治著 吉川弘文館より)

## 2 安芸国人一揆の形成

### ●安芸国人一揆とは何ですか。



安芸高田の有力な国人の動きがわかるよ。



国人一揆とは、国人<sup>(1)</sup>と呼ばれた在地の領主たちの血縁や地縁に基づいてつながる組織をいいます。

14世紀末、周防国・長門国（山口県）の守護大内氏は、安芸にも勢力を拡大して安芸国守護武田氏を圧迫し、奪った領地の一部を安芸の国人にあたえるなど大きな影響力をもっていました。

1403年に山名氏が安芸守護に任命されると、かつて大内氏から与えられた所領を没収されることを恐れた安芸の国人たちは山名氏に抵抗する動きをみせたのです。幕府の支持を得ている山名軍は有力国人の一人である平賀氏（東広島市の国人）を攻めましたが、国人の多くは平賀氏を支援しました。そして、毛利氏・宍戸氏などの国人33人が、1404年9月に結んだのが5か条から成る「安芸国人一揆契状<sup>(2)</sup>」でした。これによると、理由なく本領を奪われた場合には一同で訴えること、国に課せられた負担については一揆衆でよく話し合うこと、一揆衆内で相論<sup>(3)</sup>があった場合はよく話し合い、道理のある者に加担することなど、国人内の秩序を第一としていました。

この国人一揆を形成した土台は、在地での国人身分に属するものとしての連帯感によるものであり、その後、相互に起きる相論を自らで解決しようとする秩序をつくるものになっていきました。1419年の段階でも、毛利の惣領である熙元・福原広世と他の庶子家との紛争解決にあたって、周辺の国人の高橋氏（島根県邑智郡・美土里町あたりの国人）・宍戸氏（甲田町あたりの国人）・平賀氏の3名が連合して調停し、その調停を守る側を3名が支援することを双方に契約している例もみられます。

こうして、幕府・守護の介入にもかかわらず、在地における国人領主の相互に協力していく地域的結合として、境目を生きる国人領主の姿を示していたのです。

室町時代の中国地方の守護大名の勢力図の中に、安芸国の国人の名前や位置を加えてみよう。

歴代毛利氏墓所→

（吉田での初代毛利時親から第8代豊元までの合墓）（吉田町吉田）



\*注(1)国人 南北朝・室町・戦国時代を通じ、地頭・荘官・有力名主級の在地領主の一般的呼称。

(2)契状 中世古文書の様式の一つで、将来の行為を契約した文書。

(3)相論 中世において、訴訟によって争うこと。



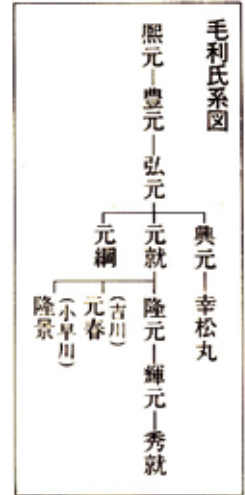
### 3 毛利元就の登場

#### ●毛利元就が登場する頃の様子はどうだったのですか。



元就もとなりが登場する以前から、安芸や石見の国人領主は難しい立場におかれていました。この頃、幕府とは距離をおき、九州北部も領地に加え、貿易による経済力を基に力を強めた大内氏と山陰を支配する尼子氏との境目に安芸・石見両国の国人領主は存在していました。この国人領主たちは、大内・尼子の両勢力に相分かれての抗争の中から、次第に地域意識に目覚め、協調して、大内氏や幕府からの諸要求に対して国人領主として結束して対応するよう、自らの手による地域の秩序の形成をすすめていました。

毛利元就は、1497年毛利弘元ひろもとの次男として生まれました。元就は松寿丸と呼ばれ、家督かどくを譲って引退した父弘元に伴われて、多治比猿掛城たじひさるかけじょうに移り、成人後は「多治比殿」と呼ばれていました。元就の「元」の一字は兄興元おきもとから与えられたものであり、兄に従う元就の立場は毛利家の脇を固める存在として登場しました。しかし、兄興元とその子幸松丸こうまつまるが相次いで死去したため、1523年に郡山に入城して、毛利家の家督かどくを相続しました。



↑ 毛利元就像  
(個人蔵)

### 4 国人領主から戦国大名へ

#### ●毛利元就はどうやって勢力を伸ばしたのでしょうか。

国人領主の連合の盟主めいしゅとしての地位を占めていたのは、安芸と石見の中間に位置していた高橋氏たかはしであり、当初毛利氏の勢力をしのぐものでした。1529年(1530年とも)、高橋氏が大内氏おおうちに背いて尼子氏にこについたため、元就は、大内氏らと共に高橋氏の居城松尾城まつおじょう(美土里町)を攻め落とし滅ぼします。高橋氏の滅亡後、その旧領の内、上下荘よししげ(吉茂上荘・下荘)、阿須那、船木、佐々部などが元就に与えられることにより、毛利氏は石見国東南部にまで大きく勢力を拡大するとともに、国人領主の主導者的立場を手に入れました。そして、元就は近隣の宍戸氏ししどとの関係を深め、1540年9月から翌年正月にかけて尼子氏の大軍が吉田の毛利氏を攻撃した、いわゆる「郡山合戦」でこれを撃退し、同時に安芸守護武田氏たけだも討滅とうめつしました。その後、1544年に元就は三男隆景たかかげを小早川家こばやかわに入れ、また、1550年には二男元春もとるに吉川家きっかわを相続させました。これらによって、吉川氏を通して出雲・石見の国人とのつながりを確かにし、小早川氏を通して瀬戸内海の海上勢力との結びつきを強めました。

のちの「毛利両川体制」と呼ばれ、勢力の拡大化を一層果たすことになったのです。1551年8月、陶晴賢が主君の大内義隆を倒すと、元就もこれに応じて、広島湾頭に兵を集め占拠しました。1554年5月には再度、広島湾頭に出兵し陶氏と対決し、村上氏などの瀬戸内海勢力の支援を得て、翌1555年9月夜襲によって厳島の陶氏を攻撃（厳島合戦）し、勝利をおさめました。その後、元就は1557年4月、大内氏を滅ぼし、これによって安芸・備後・周防・長門と石見の大半を領国とする戦国大名となったのです。

毛利氏の勢力範囲を  
確かめてみよう



## 5 毛利氏の課題

●戦国大名毛利氏の  
めざすところは何  
だったのでしょうか。



1523年の元就の家督相続からの約50年で、安芸の有力国人領主から中国地方の大半を支配する戦国大名に成長した毛利氏が苦心したのが、自らを統治者とする組織をいかに整備し、自らを頂点とする秩序を確かなものにしていくことでした。

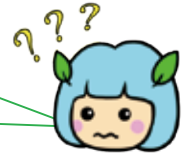
大内氏滅亡の1557年の12月、「毛利元就外十一名契状」が成立しています。これには、元就・隆元その他、吉川氏、宍戸氏、出羽氏、小早川氏、平賀氏、熊谷氏などの10名の安芸の国衆（有力国人領主）が署名していました。その契状によると、罰則を明らかにして、戦陣での軍勢の狼藉<sup>(2)</sup>を禁止し、それを各国衆の家来にも徹底させたものでした。それは、毛利氏の「国家」であることの法的な秩序をつくったことを意味します。

国人領主から戦国大名へと変わっていくにあたって、現実の戦国の争乱の中、全体の生き残りのために調整を図り、個々の国衆のもつ権限を制限していきながらでも、新しい秩序を生み出していくことが必要であったのです。

毛利氏と他の戦国大名との支配の方法の違いを調べてみよう。

\*注 (1)家督 一族の長としての地位 (2)狼藉 無法行為をはたらくこと

安芸高田の中世の信仰を示す文化財を紹介します。



## 6 中世安芸高田の信仰

### ●安芸高田の中世の信仰を示す文化財にはどのようなものがあるのでしょうか。

安芸高田市内には、中世の人々の信仰を示す、多くの社寺をはじめとする建築物および奉納品などの文化財が現存しています。毛利氏に関連したものが多くある反面、当時の民衆の信仰を具体的に示すものは多くありません。しかし、戦乱が多かった中世という時代の中に、その時々の人々の願いを想像することができます。

#### (1) 峠山八幡神社板碑 (吉田町中馬)

板碑は、供養のために建立した塔(塔婆)の一つの形式で、その形が板状であることからそのように呼ばれています。峠山八幡神社の板碑は、その特色として頂上に「山形」があり、供養の対象になる梵字(1)は金剛界大日バンを示しています。「応永十年五月(1403年)」の銘があることから、大日を供養尊として、室町時代初期に建立された板碑であることがわかります。自然石に少しの整形を加えた美しいふくらみ具合を感じることができます。



#### (2) 浮彫来迎阿弥陀像 (吉田町中馬)

通称「天正の石仏」として、地元で親しまれています。「来迎阿弥陀如来」(死後浄土に生まれることを願う人の臨終に西方極楽浄土からこの世に現れる阿弥陀如来)を中央に本像として浮彫にされています。その本像の両脇には、「天正拾六年(1588年)」、「為月高周台也」と彫られています。地方の石工による本像は親しみやすさや力強さを感じさせます。



#### (3) 高林坊の銅鐘 (甲田町高田原)

1383年、豊後国(大分県)から五龍城(甲田町上甲立)の陣鐘として移され、宍戸氏が防長へ移った際、高林坊に寄進されたものといわれています。高林坊は1496年甲田町上甲立に僧浄誓が開き、その後慶長年間(1596~1614年)に現在地へ移転しました。その時造られた庭園が、「慶長の庭」で市名勝に指定されています。



#### (4) <sup>あひみ</sup> 鐙石 (吉田町相合 宮崎神社)

毛利氏が吉田荘に下向してまもない南北朝時代・観応元(1350)年に、毛利師親(元春)は高師泰に従軍し石見国(現島根県)での合戦に臨みました。その時、江の川を馬で渡ろうとした際、同じ小石が三度鐙に引っかかり、その石を<sup>ふところ</sup>懐に抱き戦ったところ、多くの戦功を得たといわれます。

この石を神体として祀ったのが宮崎神社で、毛利氏の氏神社となりました。この石は「鐙石」と呼ばれ、後にこの石をかたどったあんこ餅<sup>もち</sup>を毛利家中で食べる風習として伝わり、現在では「川通り餅<sup>もち</sup>」の名で知られています。



#### (5) <sup>むなふだ</sup> 棟札 (吉田町吉田 <sup>すが</sup> 清神社)

棟札<sup>むなふだ</sup>とは、社寺などの建物の棟<sup>むね</sup>上げや修理の時に、建造の年月日や施主<sup>せしゅ</sup>・大工・祈願文などを記し、棟木<sup>むなぎ</sup>などに打ち付けられた板札のことで、安芸高田市内には、中世の棟札24枚が残されています。特に、清神社の棟札は1325年のものが最古で、1694年までのもの16枚が存在しています。同社の棟札では1400年以降の10枚には郡山城主である毛利氏当主の名が記されています。



#### (6) <sup>きょうそう</sup> 鏡像・<sup>かけぼとけ</sup> 懸仏 (吉田町相合 宮崎神社)

鏡像は古来より神がよりつくものとして考えられた銅鏡に、主に線刻または墨画によって神仏を表したものです。懸仏は線刻の鏡像からより立体的な像を表現し、垂れ下げて礼拝するようになったものです。宮崎神社の鏡像は、中国製の湖州鏡に仏像を線刻したもので平安時代末期のもので、懸<sup>かけ</sup>仏(仏像部分)は、鎌倉時代にさかのぼることのできる作とされています。この他にも、中山神社(吉田町桂)・野部<sup>のべ</sup>八幡神社(高宮町佐々部)や宮地山神社(高宮町来女木)等でも、懸<sup>かけ</sup>仏が見つかっています。



いずれも安芸高田の中世の宝といえるものです



\*注 (1)梵字 梵語(サンスクリット)を表すのに用いる文字で、日本では真言密教で重視され、シンボルに用いられる。(2)勧請 もとの寺社から神仏の分霊を迎えて祭ること。

(3)氏神 本来は同族の者のみが祭ることができる神とされていた。後には、地縁的な神に変わっていき、人々が生まれた土地に鎮座する神とみなされるようになった。

## 4章 幕藩体制の時代

### 1 関ヶ原の戦い

#### ● 関ヶ原の戦いの結果、毛利氏はどうなったのでしょうか？



毛利氏は、石田三成の西軍につきました。天下分け目の戦いと呼ばれる合戦でした。その結果、毛利氏は敗れてしまうことになります。

1600年に徳川家康（東軍）と豊臣秀吉の遺志を継ぐ石田三成（西軍）による対立が激しくなり、関ヶ原の戦いとなりました。石田三成は、仲間の進言に従って、当時家康と同じくらいの実力を持っていた毛利輝元（元就の孫）を西軍の総大将とするように策略します。毛利輝元は、総大将に就任し、一族の毛利秀元と吉川広家を出陣させました。輝元は、大坂城に入りました。

関ヶ原の戦いになると西軍の小早川秀秋による裏切りや吉川広家などの東軍への内通などもあり、東軍の勝利に終わりました。関ヶ原の戦いのあと、毛利輝元は、剃髪して、毛利家を毛利秀就に譲りました。



小学校、中学校の教科書で必ず出てくるね！  
毛利氏は西軍だったのですね。

### 2 徳川政権と安芸高田

#### ● 関ヶ原の戦いで、家康に負けてしまった安芸を支配していた毛利氏はどうなったのでしょうか？



「関ヶ原の戦いには参加しなかったものの毛利輝元は西軍の総大将であったため、徳川家康により毛利氏は領地を大幅に削られて周防・長門（山口県）に移りました。輝元は広島城を出て、新たに萩城を築き本拠地としました。そして、毛利氏は家康による大阪夏の陣・冬の陣での出費などもかさみ、江戸時代苦しい藩の運営をせまられることになりました。江戸時代毛利氏のあとに安芸国に入った福島氏が検地を行なうことになりました。高田郡内を59の村の境界を定めて、年貢や様々な労役などを負担し、法令などを伝達する仕組みを整えました。

しかし、1619（元和5）年、福島氏のあとに浅野氏が入りましたが、浅野氏は福島

氏の制度を受け継ぎ、福島氏から 264 年の長期にわたる江戸時代の支配体制を続けました。

毛利氏支配の中心となっていた郡山城は、毛利氏の本拠地が広島城へ移った後も引き続き使われていましたが、江戸時代に入るとその役目を終えました。

### 3 近世農民の生活



#### ●江戸時代の農民の暮らしはどのようなものだったのでしょうか？

江戸時代には、検地により村境もはっきりし、さらに村々での生活も農業を中心に盛んになりました。また、現在に通じる地名も見られるようになりました。

江戸時代以前から、稲作を中心とする農業がさかんであった安芸高田は、中世以前からたたら製鉄の産地でした。江戸時代では、北部の川根村（高宮町）、北村・桑田村・生田村（美土里町）などで小規模に行われていました。

農家では、米・麦作を主体にしていましたが、1825（文政8）年に刊行された『芸藩通志』では、かぶら、ごぼう、かたくり、松茸などの農産物や、鮎、かわすずき、ひらめなどの川魚、麻や綿、菜種、干し柿、たばこなどの様々な商品作物などが記されています。これらのうち、たばこや麻は、ひろく流通したと言われています。

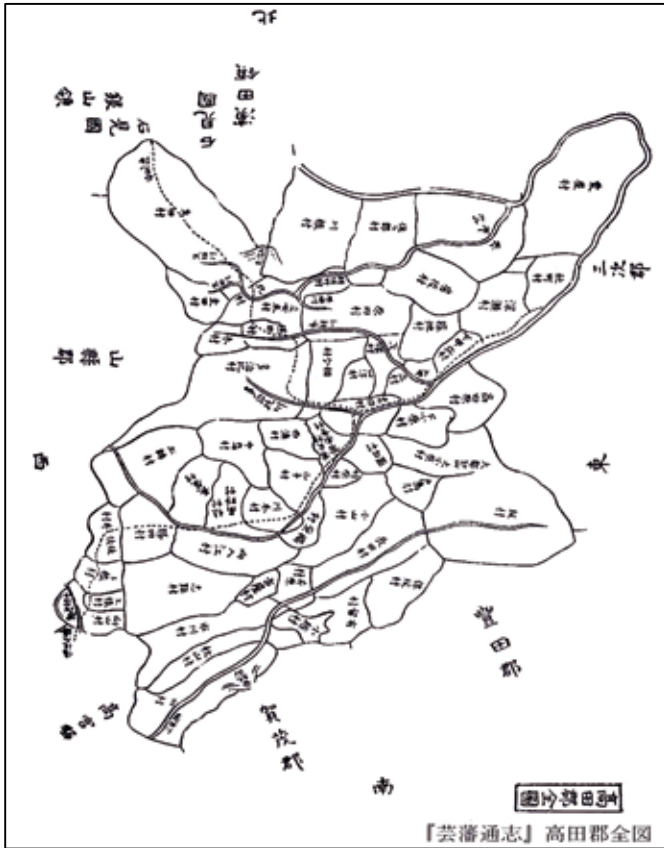
江戸時代の農民の生活を理解するのに重要な史料が吉田町でみつけられました。安芸高田市的重要文化財にも指定されている『家業考』といわれる庄屋さんの記録です。吉田町多治比の豪農が家訓とするために、一年間の農作業を日記のように記録したもので、明和年間とされており、江戸時代中期の人々の生活を理解するのに役立ちます。豪農といえども、つつましやかな生活ぶりで、それを子孫に継承するように教えています。

当時の農民の多くは、生活物資を自給自足しており、米・麦だけではなく、茶の木や紙と交換するための楮（こうぞ）、衣類用の麻や綿、灯火用の菜種など、必要なものは必要な量だけを育てて確保したようです。

『家業考』から当時の生活を垣間見ることができます。

- 1 農事の暦
- 2 勝手何角心得の事  
（「みそ調ようの事」などしょうゆ、酢などの作り方等が書いてある秘伝書）
- 3 年中勝手心得のこと
- 4 葬式心得

詳細は、安芸高田市歴史民俗博物館で見ることができます。



現在につながる人々の工夫がありますね！ほかにも古くから伝わるものは何があるかな？



↑ いけだかやこ 生田金屋子神社

← 「芸藩通志」高田郡全図  
(「江戸時代の安芸高田」安芸高田市歴史民俗博物館)

## 4 農村文化の発展

### ●江戸時代の文化はどのようなものが発展していったのでしょうか？



町人や百姓による文化も栄えた様子です。神楽やだんじりなど現在に受け継がれているものも多くあります。また、現在の人々の信仰に結びつくものもありました。

まず、人々の信仰についてみてみましょう。戦国時代に、毛利氏の中心地であった吉田や市内の毛利氏や家臣の所領地に、それぞれの氏神・祈願所としての神社や菩提寺などとして多くの社寺が建てられました。江戸時代に入ると、残された神社は、地元の村々の氏神社となったり、新たに造られたりしたものも含めて、地域で維持されました。たいていの神社では絵馬が奉納され地域の人たちから信仰が厚かったことがわかります。また、美土里町などの神社では、石見・大元神楽の流れをくむ芸北神楽（高田神楽ともいう）が、江戸時代後期ごろから盛んに舞われはじめたといわれています。



↑ 高田神楽

仏教では、浄土真宗が特に盛んで「安芸門徒」と呼ばれる地域のひとつです。1723年には、49箇所寺がありました。そのほとんどの寺院が続いています。

現在は、他の宗教も盛んになってきています。このほか、当時は集落ごとに、観音堂や薬師堂などの小堂も数多く建立されています。

江戸時代に松尾芭蕉が確立して、大流行させた俳諧も安芸高田に広まりました。1745年、甲田町の男山神社に奉納された俳諧額には、上甲立の人々と、芭蕉の門人から学んでいた広島で活躍していた俳人の名前があります。文化・文政のころには、吉田を中心に俳句集が印刷・出版されています。

その吉田を中心に、1820年町年寄・町役人・商人・職人などから100人（現存しているのは95人分）がそれぞれ一句詠んだ「吉田百人一首」が作られました。その下に作者の職業・趣味などが描かれており、当時の職業・服装などをうかがい知ることができます。ただ、「吉田百人一首」が出版にいたったかどうかは、まだわかりません。



「吉田百人一首」写本  
(安芸高田市歴史民俗博物館)

百人一首の文化も古くからあったんだね。左の写真は、仙溪がつくった歌みたいだね。

「虫なくや 焚火の  
見ゆる 戸のひづみ」



## <コラム>

### 上田南亭(うへだなんてい)の話

1770年吉田町胡町に生まれた俳人。紺屋(染物屋)を営んでいる家庭に生まれました。一家で俳諧に興味を持ち、広い地域に交友を持ったといわれています。広島での俳諧のなかでも、相当の地位にあり、「郡山集」などたくさんの俳句誌に自らの俳句を載せています。

吉田町組頭もつとめて、「芸藩通志」編集のために調査をしました。1835年6月6日、66歳で亡くなりました。

### <代表句>

馬ぼくぼく人物いはず夜の雪　でどむしよ麦わら上で囃さうか



## <コラム>

### だんじり屋台の話

郡山のふもとにある清神社の春の祭礼日にあわせて、寛文年間（1661～72）に吉田で牛馬市が開かれました。この市が始まる日を「市入」と言ったので、この春の祭礼を「市入り祭」と呼ばれ、近郊のみならず島根まで知られた大きな祭りでした。現在は、毎年5月5日に行なわれます。その祭礼で神輿行列のお供としてだんじり屋台が出され、この上で子供歌舞伎が演じられてきました。

1674（延宝2）年に吉田の豪商河野与三郎が京都祇園祭をまねて始めたと言われていいます。江戸時代には5台も出ていただんじりは、現在は2台になっています。

**毎年ニュースに出ているね！長くから続いているんだね。地元吉田中学校の生徒が演じているよ。屋台の上で歌舞伎を演じるのは広島県ではここだけみたいだよ！**



子供歌舞伎



だんじり屋台  
（安芸高田市歴史民俗博物館）

## 5 幕末と安芸高田

### ●幕末と安芸高田のかかわりはどうだったのでしょうか？



幕末の安芸高田の詳細な様子は不明なところも多いです。しかし、江戸幕府の滅亡にいたるところ、政治的にも思想的にも影響を受けたとする様子が見えます。

江戸時代の中頃から、幕府による改革がなされます。享保の大飢饉では高田郡内でも多くの餓死者が出たと言われていいます。1780年頃には、各村に社倉（穀物倉庫）ができました。

1853年浦賀にペリーがくるころ、漢詩に優れた頼山陽<sup>らいさんよう</sup>が毛利元就の墓所に参拝し、漢詩を詠んでいます。頼山陽は、尊王攘夷論<sup>そんのうじょうい</sup>につながる歴史書も記した人物で、幕末に大きな影響を与えたとされています。また、吉田には江戸時代を通じて多くの長州藩士が毛利元就の墓参りに訪れました。長州藩主は毛利氏だったため、特に江戸時代の終わりには頻繁に行われ、吉田と長州藩の繋がりは深いものになっていました。

下の絵馬は、美土里町生田にある川角山神社にあった「黒船」を描いたものです。かわら版を原図として書写されたこの絵馬が神社に奉納されたのはペリー来航の2年後で、事件の大きさが安芸高田まで広まったことの証拠の一つです。

ペリー来航により日本中が幕末の動乱の最中にあった1862年、広島藩は江戸に屋敷を構えていた分家浅野長厚を広島に帰国させます。そして翌年9月から郡山城跡の南麓(現吉田高校)に長厚の屋敷「御本館」の建設が始まり、1864年に完成します。これは初め外国船から広島城が攻撃された際に避難するためでしたが、実際には政治情勢が不安定であった藩内北部の支配拠点となりました。郡山周辺には家臣の屋敷も建てられ、宿場町であった吉田は突如その城下町へと変貌します。しかし、この屋敷も明治をおかえわずから年足らずで廃止されました。



↑ 絵馬・蒸気船図 (美土里町川角山神社蔵)

御本館と吉田高校は、幕末に関係していたね。

幕末の出来事と照らしあわせて読むと、わたしたちの身近なところとつながっているね。調べてみよう。歴史を深く学べるよ！



## <コラム>

### 御本館 (御住館)

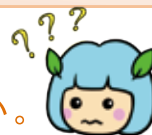
広島藩主浅野氏によって築かれ、1864年5月に完成した大名屋敷。約3,000坪の広大な敷地に、堀と塀に囲まれた浅野長厚が暮らした屋敷や学問をおこなう講学所、更には軍事訓練をおこなう場所もありました。さらに周辺には200人近い家臣達の屋敷も数多く建てられました。建設にあたっては、高田郡内の有力者が土地の取得や資材の調達にあたり、郡内の大工50名が総動員された突貫工事でした。その跡地が現在の吉田高校です。



御住館図(安芸高田市歴史民俗博物館提供)

## 第5章 近代の進展と安芸高田

### 1 廃藩置県と武一騒動



いよいよ  
明治だよ

#### ● 廃藩置県を人々はどのように受け取ったのでしょうか。

1871（明治4）年7月14日、廃藩置県の命が出され、広島藩は広島県となり、広島藩知事<sup>あきのながこと</sup>浅野長勲は免職になり、東京への移住を命ぜられました。8月4日、前藩主の浅野長訓<sup>ながみち</sup>とその家族が東京移住のため広島を出発しようとした。しかし、広島城の周辺を城下や近郡の多くの民衆が取り囲み、別れを惜しんで上京を阻止しようとして行動に移したのです。このため、出発は中止となり、これから10月初めまで、旧広島藩領内16郡に及ぶ民衆の騒動が起きました。



#### ● 騒動はどのように展開していったのでしょうか。

8月9日、山県郡で周辺の民衆を集めて県庁派遣の役人が説得にあたっていると、民衆が襲撃して重傷を負う暴動が発生しました。11日、多くの郡から広島城下に集まった群衆から、浅野長勲が引き続き県政を担当することを願う嘆願書<sup>たんがんしょ</sup>が出されました。この嘆願書は山県郡有田村の武一（武一郎）が起草したと伝えられ、武一が騒動の首謀者<sup>しゅぼうしゃ</sup>とみなされたため、後にこの騒動は「武一騒動」と呼ばれるようになりました。同日、山県郡では割庄屋<sup>わりじょうや</sup>(<sup>1</sup>)宅が打ちこわされ、翌12日には広島城下でも暴動が発生し、騒動は激化していきました。

以降、世羅郡・賀茂郡<sup>かもち</sup>一帯へ拡大し、14日には三次・恵蘇<sup>えそ</sup>・三上<sup>みかみ</sup>・奴可<sup>ぬか</sup>などの県北部に、16日御調<sup>みつき</sup>・甲奴<sup>こうぬ</sup>などの県東部に拡がりました。

高田郡では、北本村・横田村（美土里町）の農民がまず立ち上がり、川根村（高宮町）・長屋村・桂村（吉田町）・深瀬村（甲田町）・長田村（向原町）などで、割庄屋宅などが襲撃されました。

そのようすは、長田村では有力農民宅の母屋<sup>おもや</sup>や駄屋<sup>だや</sup>に縄をかけ引き倒したと、下甲立村（甲田町）では、住宅の柱や敷居<sup>しきい</sup>・鴨居<sup>かもい</sup>などへ斧を打ち込み、建具を残らず打ち砕き<sup>くだ</sup>、酒30石あまりを引き抜きこぼしたとあるように大変激しいものだったといわれています。

その後、県側は鎮撫隊<sup>ちんぶたい</sup>の派遣によって鎮圧につとめ、9月上旬以降騒動は沈静化に向かい、参加者の処分が行われました。騒動の逮捕者は578人にも及び、そのうち武一をはじめ主だった9人は、11月4日即決処置され、死刑となりました。そして、武一は妻の実家近く（八千代町勝田）に埋葬<sup>まいそう</sup>されました。



↑ 武一判決書（明治4年）



↑ 武一の墓（八千代町勝田）

### ●この騒動の背景には何があったのでしょうか。



この一揆（騒動）は、旧藩主を引き留める要求が発端になって起こったものでしたが、運動が暴動化して県内全域に拡大した背景には次のようなことが考えられています。

（1）旧藩主引き留めの要求と行動には、旧藩主との別れを惜しむという素朴な心情のほかに、一方的な上京に対してこれまでの慣行が破られるのではないかという気持ちが強くあったこと。（2）明治新政府から次々と出される政策に疑惑や反発をもっていたこと。（3）商品経済<sup>(2)</sup>がすすんでいくなかで貧富の差が大きくなり、新政府の権力とつながっている役人としてみられた割庄屋や庄屋などの村役人層に対する疑惑が充ちていたことなどがあげられています。

また、この頃農村がかかえていた状況として、1869（明治2）年から翌年にかけての全国的な大飢饉<sup>(3)</sup>があげられます。広島藩内でも夏に大雨が続き、単衣1枚ではしのぎかねる冷温であったといわれています。そのため秋の収穫は、半作以下か皆無に近い地域が多かったといわれています。1870（明治3）年の年貢米は、同年末まで高田郡内14か村が未納のため、その村々の庄屋は広島へ呼び出され、厳しい催促を受けており、そこで庄屋の多くは、私物の米まで出して割り当てを済ませたといった状態だったのです。

### ●「武一騒動」があたえた影響とは何でしょうか。



この一揆（騒動）は、松山・大洲（伊予）・母里（出雲）・高松・福山・高知などの県にも大きな影響をあたえるとともに、県内で攻撃の対象となった割庄屋・庄屋が、政治や経済活動に消極的になり、地租改正や大区小区制の実施も順調には進むことができなかつたとされています。

多くの人々に  
急激な政治改革  
への不安があっ  
たようだ。



明治新政府の政策が、民衆の生活や心情にどのような影響を与えていたのかを探ってみよう。

\*注 （1）割庄屋 江戸時代の村役人の長で、年貢納入や入会（いりあい）・水利の維持管理など農民一般についての管理・監督を行う。  
（2）商品経済 交換をすすめる目的で物資を生産・販売する経済のしくみ。  
（3）飢饉 長雨・干ばつ・風虫害・冷害などにより農作物が実らず食物が欠乏すること。

## 2 明治の地方行政の成立と安芸高田



### ● 廃藩置県の後、地方の制度はどのように変わったのですか。

廃藩置県後、中央集権の方向に向かって古い制度が改革されていくなかで、町村のしくみについては、1871（明治4）年4月の戸籍法の公布をきっかけに改革への歩みが始まりました。戸籍編成のため区を定め、区に戸長・副戸長をおいてその事務を担当させました。その区は一般の行政区画となり、1872（明治5）年の大区小区制(1)の制度によって、戸長・副戸長が庄屋・年寄に変わり、地方行政事務担当者になっていきました。

1878（明治11）年の郡区町村編成法によって、大区を廃止し郡・区（都市部）とし郡区長の管轄下におき、小区を廃止し町村を復活させ、戸長が町村事務の担当者となりました。

その後も1889（明治22）年の市制・町村制の実施によって地方行政の骨格が定まっていきました。安芸高田（旧高田郡）では、1878（明治11）年に吉田村に郡役所がおかれ、1889（明治22）年の町村合併により郡内の59か村が26か村となりました。

郡町名	大区番号	小区の数	郡町名	大区番号	小区の数
広島町	第一	二	御調郡	一〇	一六
沼田郡	二	五	甲奴郡	一一	一〇
安芸郡	三	一	世羅郡	一二	一〇
佐伯郡	四	四	三谿郡	一三	一〇
山陰郡	五	二	奴可郡	一四	一〇
高田郡	六	二	三上郡	一五	一〇
高宮郡	七	八	三次郡	一六	一〇
賀茂郡	八	一	三次郡	一七	一〇
豊田郡	九	三	恵蘇郡	一八	一〇

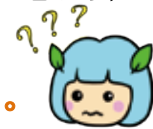
第一小区	第二小区	第三小区	第四小区	第五小区	第六小区	第七小区	第八小区	第九小区	第十小区	第十一小区	第十二小区	
吉田・相倉・山部・匠元・上小原・下小原・高田原	戸島・長田・坂	有留・保須・井原・古原・志路	三田・秋山・小越・市川	土師・佐々井・勝田・上根・下根・向山	長原・桂・宮野・中馬・川本	上入江・下入江・小山・福原・竹原	栗屋・舟木・秋竹・露後・控地	上甲立・下甲立・原田・浅塚・深瀬	常友・西浦・常英寺・多治比・山手	木・濱田・常々部・末次六・羽佐竹	川根・生田・北・桑田	

明治時代からの新しい町づくりの始まりです。現在の地域はどこに所属していたのかな。



↑ 広島県の大小区（『向原町誌』上巻より） ↑ 高田郡小区の範囲（『向原町誌』上巻より）

### ● 高田郡吉田町のにぎわいはどのようなものだったのですか。



1896（明治29）年には吉田村は町制に移行されました。吉田町は江戸時代から「吉田千軒」（『芸藩通志』）といわれた中心地であり、山陰山陽の連絡の要衝として栄えていました。「安芸国北第一の市聚（商業地）なり、戸数七百有余あり、商品は米を主とし、産物は麻を主とす」と表現されるほどでした。

\*注 (1) 大区小区制 明治の初めの戸籍・地方行政制度。区は行政区画となり、庄屋の名称を廃止し、旧来の町・村を吸収した。1878年廃止。

また、1900（明治33）年には吉田貯蓄銀行、1906（明治39）年に三次貯蓄銀行吉田支店など、商業経済機能を充実させるには必要不可欠な銀行の進出もみられました。

明治時代の町の特徴は、官庁の出先機関が置かれるという行政的な機能が加わっていくものでした。その行政的な機能とは、警察署、税務署、法務局、営林署、郵便局などが果たしていく機能のことを示していました。



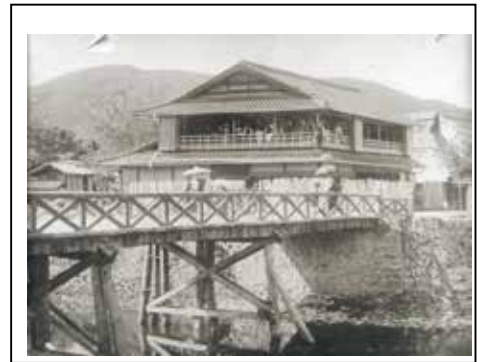
↑ 吉田の町の様子（大正時代か）

### ●吉田以外にもにぎわった地はあったのですか。



旧高田郡内には、要地として「市」と名づける商業地がありました。甲立や生田が代表的な例にあげられます。

甲立市（現甲田町）は、宍戸氏260余年の城下として開けて、村内を「雲石路」が通り、郡内吉田に次ぐ市街地で、江戸時代には吉田とともに町年寄を置いた所として栄えました。五龍城跡より高宮方面への街並みを向小路といい、かつて武家屋敷もあった所でした。



↑ 甲立市の様子（五龍城付近）

生田市（現美土里町）は、江戸時代には「石見路」（石州往来道）屈指の市場町として栄え、番所（藩が通行者や荷物などの検査や税の徴収を行なった所）もありました。この地に入ってくる行商人は生田に宿をとる者が多く、石州（島根県）から、また石州への旅をする者は必ずここで休憩し、秋の取り入れが終了すると1週間ほど地方回りの芝居が開演されていました。昭和初期まで行われていた石州出羽の牛市期間は、毎日のように牛馬商や見物客が途中の休憩所としてここを利用していました。



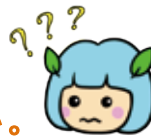
↑ 生田市の様子（昭和初期か）

当時の写真を見ると、町が活気づいていたことがわかります。



地域で昔の様子を残している街並みを探し、その由来を調べてみよう。

### 3 近代学校教育の始まり



#### ●近代学校教育はどのように始まったのですか。

日本の近代学校教育の開始は、1872（明治5）年の学制公布によるものでした。そこでは、学問を立身の基本とし、国民皆学をめざしていました。広島県でも、これを受けて同年11月にどのような山奥の郡村でも学校を設置し、子どもを就学させることをめざしたものでした。学制によると、全国を8つの大学区に、1大学区を32の中学区に、1中学区を210の小学区に分け、それぞれ大学、中学、小学校を設置するものでした。



#### ●高田郡ではどのように開始したのですか。

広島県は第4大学区に属し、高田郡は山県・高宮郡とともに第4中学区に属し、本部を吉田においていました。中学区の中の小学校の設立は1873（明治6）年から始まりました。当時高田郡の小学校は54校ありました。



#### ●明治当時の学校はどのような様子だったのですか。

小学教の教科については、読書、習字、算術、地理、歴史、修身<sup>(1)</sup>の初歩が定められ、地域の状況によって唱歌、体操等を加え、また、物理、生理、博物等の大まかな学習が加えられていました。特に、女子に対しては裁縫等の教科を設けていました。

1991（明治24）年当時の尋常小学校4年生の教科を例とすると、次のようになっていました。修身（週3時間）、読書・作文（易しい漢字交り文と日用の書類 週10時間）、習字（日用文字と日用書類 週5時間）、算術（万以下の数の範囲内の加減乗除 週6時間）、体操（普通体操、兵式体操 週3時間）

1886（明治19）年4月に小学校令が發布されると、小学校は尋常小学校と高等小学校とに分かれ、それぞれを独立した学校とされました。修業年限は各4か年で、児童6歳より14歳に至る8か年が学齢とされました。

さらに、就学率の向上によって1907（明治40）年3月に、尋常小学校の義務教育の年限は4年から6年に延長となり、翌年4月から実施されました。全国の多くの尋常小学校は、修業の年限を6年に延長し、2年制の高等科を並べて設置し尋常高等小学校と改称しました。これによって、教科数を減らし、必須科に集中させて実生活の必要に応じるようにしていました。

昔から読み書きを中心に基本を学んでいたんだね。



注 (1)修身 学制下の小学校・国民学校などで、道徳教育を行うために設けられていた教科名

↓ 広島県の学区と学区数 (『文部省年報』明治6年)『広島県史』

中学区番号	郡区名	人口	小学区数
1	広島・沼田	113,274人	188
2	安芸	118,750	206
3	佐伯	99,142	173
4	山県・高田・高宮	148,361	233
5	賀茂	101,817	166
6	豊田	103,089	173
7	御調・甲奴・世羅	151,149	233
8	三谿・奴可・三上・三次・恵蘇	106,396	172
計		941,978	1,544

明治7、8年の公立小学校数

明治14年度郡区別就学率

(『文部省年報』)『広島県史』 ↓

(『広島県学事年報』明治14年)『広島県史』 ↓

学区	郡区名	明治7年	明治8年
第4中学区	山県	15	80
	高田	54	57
	高宮	33	33
小計		102	170

郡区名	就学率	男子就学率	女子就学率
山県	38.38%	58.43%	15.70%
高田	35.00	52.78	15.65
高宮	38.66	60.07	15.37
県平均	37.04	53.89	18.63



↑ 高田原尋常小学校 (明治29年9月9日)



↑ 来原尋常小学校 (大正8年3月12日)



← 相合尋常小学校卒業写真 (明治44年3月)

明治時代の児童・生徒は、どのような1日を過ごしていたのかを調べてみよう。

なつかしさを感じさせる校舎の写真ばかりです。





## 4 日清・日露戦争の頃の安芸高田



### ●明治時代に入っての広島での軍の体制はどうなっていましたか。

1873（明治6）年に広島に鎮台<sup>(1)</sup>が置かれ、1886（明治19）年には第五師団と改められました。その後、1890（明治23）年広島に憲兵隊<sup>(2)</sup>が置かれ、広島県下を六管区に区画し、郡市にその分屯所<sup>(ぶんどんしょ)</sup>が置かれました。高田郡吉田村には広島憲兵第二管区吉田村屯所<sup>(けんべい とんしょ)</sup>が置かれました。

### ●日清戦争

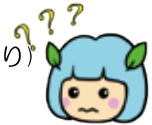


日清・日露の戦争では安芸高田の人々はどうしていたの  
だろう？

郷土部隊は、1894（明治27）年6月5日に動員命令が下り、9日に宇品を出発し、仁川に上陸し転戦しました。郷土部隊は、1895（明治28）年6・7月に復員しました。しかし、高田郡出身の戦死者は25名を数えました。

←日本軍の進路

（『体系日本の歴史 13 近代日本の出発』より）



### ●日露戦争では郷土部隊の動きや地元ではどのような様子でしたか。

1904（明治37）年2月10日、日露戦争が始まりました。（当時、日露戦争は年号から「明治三十七八年戦役」と呼ばれていました。）郷土部隊に対して4月19日に動員命令が下されると、満州に渡り、各地に転戦しました。1905（明治38）年奉天<sup>フンティエン</sup>での戦いに参戦し、3月奉天は開城しました。9月に休戦、条約協定が結ばれ、戦争は終結しました。この戦争での高田郡出身の戦死者は145名に及びました。

その間、兵士を出した地元では、出征軍人へ慰問袋<sup>(3)</sup>や地元新聞を届ける活動が行われ、また、留守家族に対しては慰安会<sup>(いあんかい)</sup>を催し、農作業の手伝いをしました。その上、戦意高揚のための講話<sup>(こうごう)</sup>が各地で行われたため、奉天<sup>フンティエン</sup>や旅順<sup>リュウシュン</sup>での勝利が伝えられた日の夜間には祝灯<sup>(しゅくとう)</sup>を出し、提灯行列<sup>(ちようちん)</sup>などの祝意行事が催されました。

注 (1)鎮台 明治初期の陸軍の軍団 (2)憲兵隊 軍事警察官の組織  
(3)慰問袋 戦地の兵士などを慰問するために、日用品、娯楽用品などを入れて送る袋



## ●日露戦争時、各村ではどのような動きがあったのでしょうか。

戦時体制の下では、国や県の指令によって動いたものが多く、安芸高田の旧各村でも同様の活動がされていました。生桑村（現美土里町）の資料によると、次のような動きがなされていました。

- (1) 政府が、1904（明治37）年に1億円の国債を募集したため、高田郡において、国債の募集とともに、節約し貯蓄に励むようにすすめられました。
- (2) 各組長を集めて、組内で節約をすすめる勤儉法きんけんぽうとよばれる規則や軍人の留守家族を救う目的の会をつくっていました。
- (3) 村長をはじめとして戦地にいる軍人に対し、時期を考え慰問文いもんぶんを送っていました。
- (4) 新聞も当時のごく限られた家だけが購読していたにすぎませんでした。戦況や内外の情報を村民に知らせるため、村長・僧侶・神官等が陣頭に立ち、時には外から講師を迎えて講演会を開くなどして、村役場に入った情報を文書にして各組に伝え、組長を通じて全戸に知らせる手段がとられていました。

日清・日露戦争について、直接に経験を語る方はもういません。しかし、近代とよばれる時代に入ってから、郷土から多くの方が出征され、亡くなられ、傷害を負われていました。今でも安芸高田市の各地に「鎮魂碑ちんこんひ」として私たちが生活する近くの場に示されています。



↑日露戦争の出征軍人（明治37年頃）



↑日清・北清事変・日露戦役記念碑（甲田町小田）

安芸高田市も戦争との関わりがあったんだ。



日清・日露戦争が地域に与えた影響について、自分の言葉でまとめてみよう。

## 5 大正時代 芸備鉄道開通に伴う変化



### ● どうして高田郡に鉄道が開通することになったのですか。

1888（明治21）年山陽鉄道会社が設立し，1894（明治27）年6月兵庫—広島まで開通しました。この開通によって，沿線の市町村だけではなく，瀬戸内沿岸と県北を結ぼうと鉄道建設を願う声が各地であがっていました。1910（明治43）年三次と広島きこうの資本によって芸備鉄道株式会社が設立されました。1913（大正2）年に起工し，1915（大正4）年6月に広島—三次間が開通しました。

芸備鉄道は，当時としては異例の長距離鉄道で，県北における諸貨物の集散地で，島根に通じる重要地として位置する三次とのつながりを強く意識した鉄道でした。翌年，この芸備鉄道は国鉄線広島駅の線路と接続されました。

芸備線の由来について調べてみよう。



### ● 開通当初の停車場や運賃はどうなっていましたか。



わずか3年間でトンネル11，橋40もの難工事を完成し，65.6kmの全線営業が開始しました。当初の停車場は，東広島（矢賀）・矢口・下深川・狩留家・中三田なかもた・志和口・井原市・向井原（向原）・吉田口・甲立・川立・志和地・三次の13駅，1日4往復で片道3時間7分もかかりました。

旅客運賃は，3等で東広島（矢賀）から向井原（向原）まで65銭<sup>(1)</sup>，甲立79銭，三次101銭，向井原から吉田口11銭，甲立16銭，三次38銭でした。

### ● なぜ，現在のような路線になったのでしょうか。



芸備鉄道の路線が江戸時代以来の県北への主要ルートである出雲街道（現国道54号）を避け，中筋道なかすじどう（現県道37号）を選んだのは，急で険しい上根峠（広島市と八千代町の境）を越える技術が不十分であったからといわれています。しかし，出雲街道沿いでは鉄道交通から取り残されまいと，1913（大正2）年「芸備鉄道路線変更期成同盟会」をつくり，井原—志屋—入江—福原—吉田—小田村を通過し，入江・吉田に停車場を設置するよう運動を進めました。しかし，この希望は受け入れられず，結局，小原駅おぼら（甲田町）を吉田口駅の駅名とすることとし，駅の敷地は町民が寄付し，さらに将来，吉田町への支線を敷くことに備え，駅舎の位置はあらかじめ下小原しもおぼらの三差路さんさるの西南方に位置させることを条件にして決着しました。

注 (1)銭 明治から昭和初期の通貨の単位。円の100分の1。



↑ 向原駅の様子（大正4年8月）



↑ 甲立駅の様子（昭和8年）

●この芸備鉄道の開通によって、県北や地域にどのような影響があったのでしょうか。



鉄道による輸送量の飛躍的な増加で、明治以来の輸送手段であった荷車・馬車・人力車などを減少させることになりました。（荷物用自動車が大きなた重を占めるようになるのは昭和期以後でした。）

その後、第一次世界大戦中の経済発展は、鉄道輸送のみならず、道路輸送の重要性が考えられ、バス交通の発達を促すこととなりました。

芸備鉄道はさらに北へ延び、1923（大正12）年には庄原まで開通しました。やがて岡山県の新見から西へ延びてきた三神線と結ばれて国鉄の芸備線になるのは、1937（昭和12）年のことでした。

●芸備鉄道沿線の町並みに変化はありましたか。



向原町坂には、現在JR向原駅の西側に宿場町に似た町並みが残っています。町並みを通る道筋は、現在JR芸備線の東側を通る県道37号広島三次線の旧道にあたり、江戸時代には中筋往来と呼ばれていた道です。

坂は、明治中期までは中世から続く三篠川舟運の河港町として栄えていました。舟運がさかんな頃を中心問屋街は現在の坂の西側に続く長田高大地であって、この宿場町に似た町並みは、明治中期以後の陸路の整備とともに、芸備鉄道の開通によって少しずつ形づけられたとされています。



↑ 向原の町並み（向原町坂）

現在のJR芸備線周辺の町並みと当時の街並みを比べてみよう。

戦争中、人々はどのような暮らしぶりだったのでしょうか。

## 6 日中戦争・太平洋戦争下の安芸高田

### ●昭和時代の初め、安芸高田の農家経済はどのような様子でしたか。



第一次大戦後、農産物価格の下落傾向が続いており、それに加えて1927（昭和2）年に起こった金融恐慌<sup>（1）</sup>の打撃から立ち直っていなかった農村は、1929（昭和4）年には、世界恐慌<sup>（2）</sup>により深刻な影響を受けました。特にアメリカ向けの生糸の輸出が激減して、繭<sup>まゆ</sup>の値段が大暴落し、養蚕農家は大打撃を受けました。

広島県は養蚕県ではありませんが、当時の農家経済の中に占める繭<sup>まゆ</sup>の地位は米、麦に次いで高い状況でした。養蚕が定着していた背景には、行政の指導援助に応じて、単作地の農家が副業の現金収入源として取り組んだことがあげられています。1921（大正10）年には、高田郡では農家の桑園の小規模生産が促され、1922（大正11）年からわずか3年間に養蚕戸数が363戸から1101戸に、繭<sup>まゆ</sup>収入の金額は2.5倍に増えました。しかし、昭和初年の繭<sup>まゆ</sup>価の大暴落は、養蚕業を一挙に衰退させ、地元の製糸業は廃業に追い込まれました。



↑ 繭の生産

### ●日中戦争が始まって以降、戦中時の安芸高田の人々の暮らしはどのような様子だったのでしょうか。



1940（昭和15）年頃から、食糧の事情が厳しくなり、砂糖、みそ、しょうゆなどは配給制度<sup>（2）</sup>になっていきました。特に米は供出の割り当てで米を作りながら米に不自由するようになっていました。1942（昭和17）年頃から、おかゆや、野菜・野草の混ざった雑炊<sup>（3）</sup>などにして切り抜けていました。また、できる限りの土地を多作にする工夫をしていました。裏作の麦は冬に寒い安芸高田の地域では、多くの収穫はなかったものの、食糧不足のために作らなければなりません。湿地でも土手から飛び降りて足が埋まらない田には全部作付けするやうにとの話もあり、大麦、裸麦、小麦の刈り取りの許可日を設けることもありました。また、みそ、しょうゆは自家製にしていたが、砂糖は不足しており、甘味料として水飴<sup>（4）</sup>で炊いたこともあったそうです。塩は、泥に汚れた雪のような色で、石のように固いものが配給になっており、これは岩塩<sup>（5）</sup>とよばれていました。田の畦にも豆類を植え、灰屋の屋根にもカボチャをはわせるなど、竹やぶや山すそにも無駄なく有効に増産していました。

注（1）金融恐慌 金融面に集中しておこる経済的混乱。一般には、典型的な例として、1927（昭和2）年の金融恐慌をさす。

（2）配給制度 統制された経済のもとで、一定の商品を消費者に配給する制度

（3）雑炊 戦時、直接の戦闘に加わらないで、前線の背後で支援する一般国民および国内を指す

「銃後の守り」とは、戦地へ送り出した家族や地域の人々の生活の様子を言います。召集令状しょうしゅうれいじょうを受け取ると、その家に地区の人が集まり杉の門を作り、日の丸の旗を付け、「祝出征」などの額を下げました。出征兵士そうこうかい壮行会が行われ、万歳三唱ばんざいさんしょうして兵士を見送りました。千人針は、白地の晒布さらしぬのに「武運長久」ぶうんちようきゅう(4)や「必勝」の文字が1000個の点で書かれ、1000人の女性に一人1点ずつ縫いこぶを作ってもらったもので、出征兵士に託しました。これは、お守りとして身につけていると弾が当らず、千人の真心によって出征兵士たちは千人力を発揮するという日露戦争頃からの風習とされていました。また、戦地にいるわが子、夫、友人に、心情をしたためて、日用品や食べ物等を小包にして送ったものが慰問袋いもんぶくろで、これに慰問文も入れて送っていました。勤労奉仕も日常的に行われました。ガソリンの代用こえまつに肥松の根を掘り出して松根油しょうこんゆが使われ、軍馬の飼料として干し草きょうしゆつを供出しました。また、金属も、鉄鍋・釜・寺の釣鐘つりがねまで供出するまでになっていました。

吉田には、当初吉田警察署の裏にあった宿舎の屋上ぼうくうかんしに防空監視が置かれていました。初めの頃は、在郷軍人ざいこうぐんじんによって監視されていましたが、応召等おうしょうで人員不足になり吉田町外4か村の青年学校の生徒が24時間体制で敵機ていきの来襲を監視していました。



↑ 出征軍人の見送り（吉田町福原）



↑ 慰問袋（美土里町生田）（昭和10年代か）



↑ 子供部隊（高宮町来女木）（昭和19年頃）

注 (4)武運長久 戦いにおける勝利の運命が久しく続くこと

## 7 戦時下の安芸高田の場面

### ●安芸高田内では空襲はあったのですか。

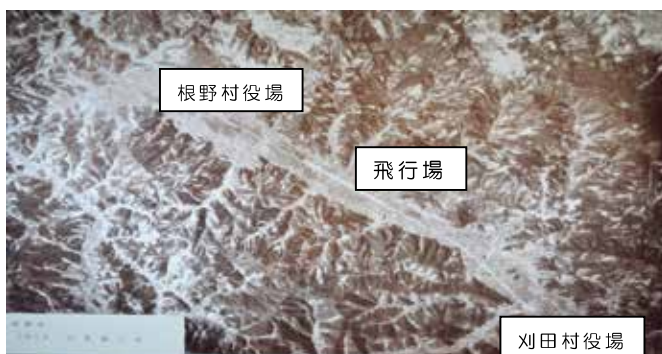


1945（昭和20）年5月5日朝5時40分、アメリカ軍機「B-29」1機が飛来し、旧船佐村字船木長谷（三次市）の鳴瀬堰堤から所木（高宮町）対岸の旧発電所に至る1キロに及ぶ江の川兩岸に3発ずつ、ほぼ2～300メートルの間隔で爆弾が投下されました。そのうち1発が民家の前庭に落ち、母屋と納屋を焼失しました。この日、たまたま里帰りをしてきた長女の母子を含む家族7名が亡くなりました。アメリカ軍機による県内の空襲爆撃は広島、呉、福山に集中しており、中国山地ではこの地が唯一の被災地となりました。現在、この地はJR三江線船佐駅となっています。ホーム前に説明の立札が立っています。



### ●根野飛行場の建設はどのような様子だったのでしょうか。

1945（昭和20）年6月に、旧根野村と旧刈田村（ともに八千代町）に秘密命令が出され、「国安牧場」という名前で飛行場を建設することになっていました。当時、上根飛行場とも呼ばれていましたが、正式名は「海軍航空隊可部基地」でした。当初の建設計画は、600mの滑走路と、その誘導路及び格納庫の建設で、7月10日が完成期日に決められていました。この建設工事には、海軍先遣隊と民間徴用貨物自動車運転手と兵員760名、県北中等学校の学徒隊と、各町村に割り当てられた国民義勇隊<sup>(1)</sup>が作業にあたっていました。刈田国民学校<sup>(2)</sup>や郷野国民学校が宿舎となり、近くの民家も宿舎に割り当てられていました。本土決戦に備えての海軍特攻基地ということで、工事予定地内の民家は即座に立ち退きを申し渡されていました。飛行機は整備兵によって翼をはずし、胴体は自動車で引いて、山蔭の秘密場所に隠されていました。また、滑走路の路面には毎月、山から木の枝を取って敷きつめ、擬装をしていました。結局、飛行場は完成しないままに終戦を迎え、海軍も解散、兵隊も復員し、幻の飛行場で終わったのでした。



飛行場跡地全景（八千代町下根）

注(1) 国民義勇隊 太平洋戦争末期、空襲の激化と本土決戦に備えて、職場、学校を単位に国民すべてを編成するためにつくられた組織  
注(2) 国民学校 太平洋戦争中の初等普通教育機関



### ●安芸高田での学童疎開<sup>(3)</sup>はどのような暮らしだったのでしょうか。

1945（昭和20）年4月、広島市と呉市が学童疎開の対象都市に指定されました。学童疎開の対象は国民学校初等科三年以上六年までの児童として、教員も児童と共同生活をする事、身の回り品は最小限度を携行すること、疎開先での教育は疎開先の国民学校や宿舎で行うこと、疎開先での勤労奉仕を行うことなどが決められていました。旧高田郡内は呉市内の国民学校の受け入れ地域となり、受け入れた学校数は28校でした。主に寺が宿舎となり、配給の食糧だけでは不足するため、近くの農家での手伝いをして作物をもらっていました。食べていたのは、ほとんど雑炊<sup>ぞうすい</sup>で、弁当だけが麦飯でした。時々、玄米やトウモロコシ・サツマイモをふかすこともあったそうです。



### ●満州高田開拓団とは何ですか。

昭和に入って、日本は国策として満州（中国東北部）の大地に、多くの開拓団を送り込み、食糧の確保と満州防衛の戦力とすることを図っていました。旧高田郡では、丹比村<sup>たんび</sup>・吉田村<sup>えの</sup>・可愛村<sup>えの</sup>・郷野村（共に吉田町）・小田村（甲田町）を主体とし、高田郡内一円から希望者を募集し、1944（昭和19）年1月から1945（昭和20）年6月の間に、高田開拓団98戸、296名の人たちが家族を伴って満州吉林省へ渡って行きました。満州の豊かな土地は、現地の人々がそれまで荒地を開墾<sup>かいこん</sup>してきたものであり、日本政府の機関が開拓民を迎えるために現地の人々から安く強引に買い上げた土地でした。このことは、現地の人々の恨み<sup>うら</sup>を買い、敗戦と同時に悲劇を招くことになりました。

1945（昭和20）年8月15日以後、高田開拓団のいくつかは現地人の襲撃や栄養失調、伝染病などで命を落とす人が続出しました。高田開拓団の入植者296名の内、故郷に帰れた人は、56名、死亡者154名、未帰還者<sup>みきかん</sup>24名でした。



満州高田開拓団殉難の碑（郡山公園）

戦争が地域に与えた影響について調べたことや考えたことを自分の言葉でまとめてみよう。



戦争の悲惨さ、むなしさを感じます。私たちは決して忘れてはならないのです。

注(3)学童疎開 太平洋戦争末期の1944年から始まった児童を近郊農村・地方都市へ集団移動させた政策



## コラム① <sup>わさん</sup>和算の研究 <sup>みかみよしお</sup>三上義夫

明治初期、甲立小学校出身の世界を代表する数学者が誕生しました。

和算とは、日本で独自に発達した数学のことで、江戸時代に最も発展しました。算木<sup>(1)</sup>やそろばんなどの計算器具を使用した、仕事や生活に役立つ学問として存在しました。江戸時代の和算家、<sup>せきたかかず</sup>関孝和<sup>(2)</sup>は有名です。

三上義夫は1875(明治8)年に甲立村(甲田町)に誕生しました。地元の上甲立小学校(甲立小学校)で学び、和算に触れたのもこのころで、後に数学を学ぶきっかけにもなりました。東京帝国大学(東京大学)大学院に進み和算史の研究に着手した三上は、英文で日本と中国の数学史を発表し、「世界的数学史家」への大きな一歩となりました。

三上が1921(大正10)年に発表した「文化史上より見たる日本の数学」は、大きな反響を呼び、1929(昭和4)年には、東洋人で初めて国際科学史委員会の通信会員に選ばれました。戦後も研究を続け、1949(昭和24)年には、東北大学から理学博士<sup>しょうごう</sup>の称号<sup>おく</sup>を贈られています。

75歳で亡くなりましたが、甲立全域から寄付が集められ、甲立小学校に<sup>けんしょうひ</sup>顕彰碑が建てられました。三上の残した貴重な資料は、今日も大切に保存されています。



↑ 三上義夫  
(安芸高田市提供)

39×7の計算

	千	百	十	一
上			● 三	三
中				
下			● 一	一

	千	百	十	一
			● 三	三
		● 二	一	
			● 一	一

	千	百	十	一
			● 三	三
		● 二	● 一	一
			● 一	一

↑ 算木による計算の例

1	2	3	4	5
1	2	3	4	5
6	7	8	9	
6	7	8	9	

↑ 算木による数の表し方



計算の仕組みを考えるとおもしろそうだね。  
みんなも挑戦してみよう。

注(1) 算木(さんぎ) 中国数学や和算で用いられた計算用具。縦または横に置くことで数を表した。  
注(2) 関孝和(せきたかかず) 江戸時代の和算家(数学者)。筆算による代数の計算法を発明して、和算が高等数学として発展するための基礎を作った。1642 - 1708

## コラム② 衆議院議員 ながわかんいち 名川侃市

名川侃市は1882(明治15)年坂村(向原町)に生まれました。明治法律学校を卒業し、1909(明治42)年に東京地方裁判所判事に任官されました。その後1917(大正6)年に退官し弁護士となりました。弁護士としては、甘粕あまかす事件、五私鉄疑獄事件、売勲事件<sup>(1)</sup>の弁護人を務めました。



その後政治家となり、1927(昭和2)年11月に行われた広島第1区衆議院議員補欠選挙で政友党公認候補として初当選し、以後5回連続当選を果たしました。

その政治活動は持ち前の反骨精神で、軍部には流されない強い意志を持っていたと言われていました。帝人事件<sup>(2)</sup>においては検察側の取り調べの過程に人権をふみにじるようなことがあったとして、衆議院本会議で質問を行いました。また、1940(昭和15)年のいわゆる反軍演説<sup>(3)</sup>による斎藤隆夫の議員除名問題においては、除名に反対する投票を行った7名のうちの1名でした。

1942(昭和17)年4月に実施された第21回衆議院議員総選挙(翼賛選挙)では、政友党の推薦を受けられず193票差で落選し、議席を失いましたが、当時の時代背景の中でも自分の保身を図るのではなく、己の信念を貫いた人物でした。

### 政党の解散 ～翼賛体制へ

国家総動員法(1938年)が成立し、ヨーロッパで第二次世界大戦(1939～1945年)もはじまり、日本も戦争遂行のための強力な指導体制を作ろうとする動きが高まりました。1940(昭和15)年、内閣総理大臣を総裁とする大政翼賛会が発足しました。それまでの立憲政友会や立憲民政党などが自発的に解散し、大政翼賛会に合流していき、国会は軍部の方針を追認し、支える翼賛体制となりました。

軍部に対して異を唱えることができない、だれも戦争に反対できない体制になっていったんだね。



注(1) 甘粕事件、五私鉄疑獄事件、売勲事件 いずれも軍部による弾圧や政治家による汚職事件。  
注(2) 帝人事件 1934(昭和9)年に起こった疑獄事件(政治に絡む大規模な贈収賄事件)で、斎藤実内閣総辞職のきっかけとなったが、後に起訴された者全員が無罪になり、倒閣の策謀による事件ではないかとみられている。  
注(3) 反軍演説 1940(昭和15)年に帝国議会で立憲民政党の斎藤隆夫が日中戦争に対する根本的な疑問と批判を提起した演説。これにより、斎藤は衆議院議員を除名された。これは言論弾圧である。

## 第6章 現代の安芸高田

現代の安芸高田市が発展するきっかけを探してみようよ。



### 1 戦後の復興と高度経済成長

#### ●日本の戦後の復興とともに、安芸高田はどのように変化していったのですか。

敗戦後の日本は、日本国憲法の下、民主国家として新たなスタートを切りました。復興への道のりを歩み、政治・経済・文化といったあらゆる分野において社会の仕組みが変化し、1960年代を中心に高度経済成長の時期をむかえていました。

安芸高田においては、1953（昭和28）年から1956（昭和31）年にかけて、旧高田郡内で町村合併（昭和の合併）が行われ、21町村が現在の6町と白木町（1973年に広島市と合併）になりました。こうした間、安芸高田においても農業を中心とした産業振興と大規模な公共事業がすすみ、大きな変化を見せていきました。

### 2 酪農開拓パイロット事業<sup>(1)</sup>（高宮町羽佐竹）



#### ●終戦後の農業振興をどのようにすすめていったのですか。

高宮町来原・船佐地域では終戦後、開拓事業が進んでいました。これは、従来農家が自分の所有地を開墾していったのとは異なり、開拓地の提供を受け、所有者の理解と協力のもと行われていました。入居してくる人たちの多くは農業経営に携わったことが少なく、新たに携わろうとする人々の強い意志によって行われた開拓事業であったといえます。そうした中、高宮町は1957（昭和32）年、「農村開発地域」の指定を受けてパイロット事業を開始しました。町は計画書を作成し、1960（昭和37）年、当時の農林省の指定により羽佐竹地区が「中規模開発パイロット地区」になりました。これによって、国と県による県営事業としてスタートし酪農、和牛、水稻、たばこの育成へと進んでいったのです。

現在、農業を取り巻く環境は、国内外ともに大変厳しく、ブランド化とともに地産地消などの動きの中、農業の生き残りをかけて進められています。



羽佐竹パイロット

\*注 (1)開拓パイロット事業 国主導の農業経営規模の拡大による自立経営の育成を目標としたモデル的な事業。

### 3 土師ダムの建設（八千代町土師）

#### ●土師ダムはなぜつくられたのでしょうか。

江の川水系の可愛川<sup>えのかわ</sup>につくられた多目的ダムで、洪水調節、かんがい用水、上水道、工業用水道、発電用として建設されたダムで、1974（昭和49）年5月完成しました。

このダム建設によって、八千代町の全耕地の約4分の1や家屋203戸、小学校1校などが水没することになりました。現在は、水没した土師地区の歴史を残し、憩い<sup>いこ</sup>の場としての土師ダム記念公園がつくられており、桜の名所として県内の多くの観光客を招くスポットとなっています。



土師ダム（八千代湖）

堤高50m、堤長300mのコンクリートダム。有効貯水量4,110万 $m^3$ を誇る。広島・呉地区の工業用水20万 $m^3$ 、上水道用水10万 $m^3$ の合計日量30万 $m^3$ の都市用水の供給の役割をもつ。

### 4 中国自動車道の建設

#### ●中国自動車道が果たす役割を考えてみましょう。

大阪府吹田市と山口県下関市を結ぶ高速道路で、総延長541km、県内距離は143kmの中国地方の東西を結ぶ中心道路として1983（昭和58）年に開通しました。安芸高田市においては、高宮町と美土里町を通過し、高田インターチェンジを設置しています。この高速道路は、関西と北九州を短時間で結んで、瀬戸内海沿岸部に比べ開発の遅れていた内陸部の産業開発を促進していくものと期待されました。現在、高宮工業団地も隣接<sup>りんせつ</sup>してつくられています。安芸高田市への企業誘致<sup>ゆうち</sup>に重要な役割を担っています。また、広島市や三次市への通勤通学での高速バスの利用など、県北部における輸送や物流に対する影響力は大きいものがあります。



←中国自動車道（高田インターチェンジ）

今後の安芸高田市のあり方にも大きな影響があります。



安芸高田の経済発展につながる事業や施設の様子を調べてみよう。

## 5 昭和38年豪雪災害・昭和47年豪雨災害



### ●「昭和38年豪雪」による大きな被害があった。



1963（昭和38）年1～2月に今までにない豪雪がありました。家屋の倒壊や交通途絶などの被害がありました。

↑当時の川根小学校・高宮中学校の様子

### ●安芸高田を襲った「昭和47年豪雨災害」とはどのような災害だったのか。



1972（昭和47）年7月9日朝から降り始めた豪雨は、13日午前9時までの4日間の総雨量として、県北東部で500mm以上に達し、三次では613.6mmを記録していました。このため三次市では市街地の大半が水没、江の川下流域では集落が壊滅かいめつしました。この時の安芸高田市（高田郡）も例外ではなく、11日午前9時までの24時間雨量は美土里町の犬伏山いぬぶしやまで235mmに達しており、各町を流れる各河川は増水し警戒水域けいかいを超えていました。（最終到達水位は、12日午前2時下土師すんだんで4m、12日午前3時30分吉田5.8m）橋は落ち、道路は破壊され、交通網は寸断し自動車による連絡は完全に断たれてしまいました。行政は対策本部を置き、不眠不休で応急処置をとるしかなかったといいます。山地にあっても思わぬ山崩れやまくずが起り、家屋を押しつぶし、負傷者を出しました。そして、尊い人命たくりゅうを濁流によって失う事態になってしまいました。この豪雨により、死者行方不明者39名にもなり、住宅被害19,208棟を始め、農地などにも大きな被害が出

ました。安芸高田市でも、死者行方不明者1名、住宅の全壊は20棟に及びました。

この集中豪雨による大災害は、後に「昭和47年豪雨災害」とよばれました。特に谷合たにあいの交通はなかなか復旧せず、長く大きなつめあとを残しました。しかし、これをきっかけとして、地域復興ふっこうへの強い意志が生まれ、住民の手による地域づくり活動がスタートしたのです。



↑高宮町川根の田草川の氾濫

豊かな自然であると同時に、恐ろしさもあるのね。



## 6 アジア競技大会広島大会・第51回国民体育大会(ひろしま国体)

- 広島はスポーツがさかんですが、安芸高田ではこれまでにどのような大きな大会が開かれたのですか。



土師ダムがある八千代湖では、これまで多くのカヌー競技が行われてきました。1993(平成5)年10月のアジアカヌー選手権大会が行われたのを皮切りに、翌1994(平成6)年10月に広島市を中心に開催された第12回アジア競技大会広島大会においてカヌー競技の会場として使われ、アジア各国の代表が熱戦を繰り広げました。さらに1996(平成8)年9月に行われた第51回国民体育大会(ひろしま国体)においてもカヌー競技の会場になりました。この国体では、地域をあげて参加都道府県の応援をするなど盛りあがりを見せました。(大会スローガンは「いのちいっぱい、咲きんさい!」)

これまでも安芸高田市で伝統的にさかんであった剣道・空手・卓球等から、今では、サンフレッチェ広島が吉田サッカー公園を拠点にしているサッカーや甲田町に拠点を置く湧永製薬ハンドボール部など、スポーツの広がりを見ることができます。ひろしま国体では、甲田町はハンドボールの開催地を引き受け、民泊で選手を受け入れました。スポーツを通じて人との関わりも広がっています。現在、個人で、また学校・地域のチームとして、年少者から高齢者まで、スポーツ観戦を含めスポーツを楽しんでいます。



↑カヌー教室(八千代湖)



↑湧永製薬ハンドボール部(湧永製薬提供)



↑サンフレッチェ広島と市民の交流

スポーツを通じて、市民が体を動かして楽しむことは良いことですね。コミュニケーションの一つと言えるでしょう。



# 第3編 安芸高田市のいまと未来

## 第1章 安芸高田市の仕事と財政

- 1 これからの安芸高田市
- 2 安芸高田市役所
- 3 安芸高田市議会
- 4 安芸高田市の財政

## 第2章 暮らしやすさを実現する 安芸高田市

- 1 高齢者にやさしいまちづくり
- 2 若者定住をめざしたまちづくり
- 3 協働による地域で支えあうまちづくり

## 第3章 少子高齢化に挑む安芸高田市

- 1 市民総ヘルパー構想とは？
- 2 安芸高田市と高齢化
- 3 安芸高田市と少子化

## 第4章 文化の継承に力を尽くす 安芸高田市

- 1 歴史的遺産の恵み
- 2 伝統芸能の継承
- 3 安芸高田市が生んだ芸術家たち  
～見玉希望、和高節二～

## 第5章 観光の振興と安芸高田市

- 1 観光の振興が市にもたらすものとは？
- 2 「神楽」を中心に据えた観光
- 3 周遊型の観光地をめざして

## 第6章 魅力ある街へ 安芸高田市

- 1 安芸高田市ふるさと応援の会とは？
- 2 安芸高田市ふるさと応援の会  
「関東支部」発足！

# 第1章 安芸高田市の仕事と財政

## 1 これからの安芸高田市

今後、安芸高田市はどんなまちをめざしていくのかな。



「市民憲章にうたった安芸高田市の心得を踏まえ、将来像の実現に向けたまちづくりに挑戦!」

### < 将来像 >

## 人がつながる でんえんとし 田園都市 安芸高田

### ■人がつながる

- 地域の自然や環境との“つながり”
- 地域の歴史・生活文化との“つながり”
- 地域に暮らす多様な人との“つながり”

### ■でんえんとし 田園都市

でんえん 田園と山並みの豊かな緑、せiryū 清流に囲まれた歴史と伝統のある落ち着きを生かしながら、としてきみりよく 都市的魅力と田園の安らぎが共生したかいてき 快適でうるおいのある生活空間や、「安心」と「ゆとり」を備えた住みやすさ、たよう 多様な働く場が確保されたまちを目指しています。

### ■3つのちょうせん 挑戦

- 人が集い育つまちづくりへのちょうせん 挑戦
- 安心して暮らせるまちづくりへのちょうせん 挑戦
- 地域資源を活かしたまちづくりへのちょうせん 挑戦



## 2 安芸高田市役所

### ●安芸高田市役所はどのような仕事をしているのでしょうか。



わが国は、地方自治という仕組みがあり、そのために県や市といった枠組みがあります。安芸高田市は、私たち市民の日々の暮らしをより良くしていくための活動をしています。

市役所では、職員が市長の掲げる方針のもとで活動しています。内容は多岐に渡り、私たち学校のことからごみ収集や水道の整備、結婚などの戸籍の管理にまで及んでいます。



↑ 市の取組を住民に説明する様子



市役所の仕事は他にもたくさんあります。安芸高田市役所のHPを調べてみよう。

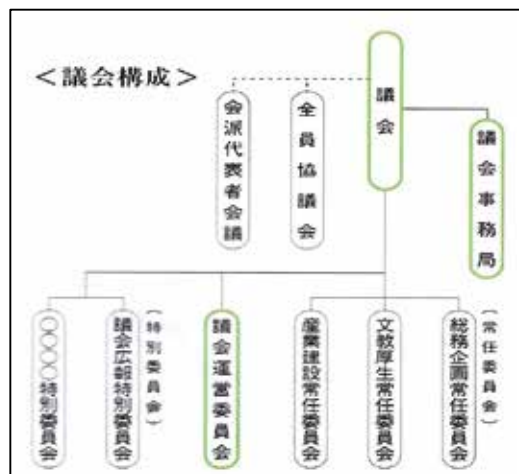
## 2 安芸高田市議会

### ●安芸高田市議会とは何でしょうか。



市議会とは、市議会議員が市の予算の決定や仕事をチェックしたり、問題点を指摘<sup>してき</sup>する、条例を定めるなどして市の活動がより良くなるように話し合ったりし、議決する仕事を担っています。安芸高田市でも、市内で選ばれた議員と市の職員や市長が、年に何回も議会を開催して、市内の課題について話し合っています。

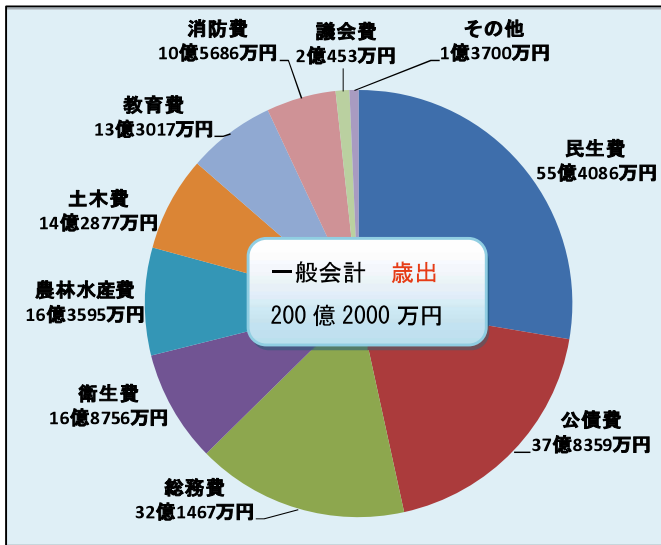
このように、多くの意見や視点が加わることで、誰もが満足できる市の政治を行うことをめざしています。



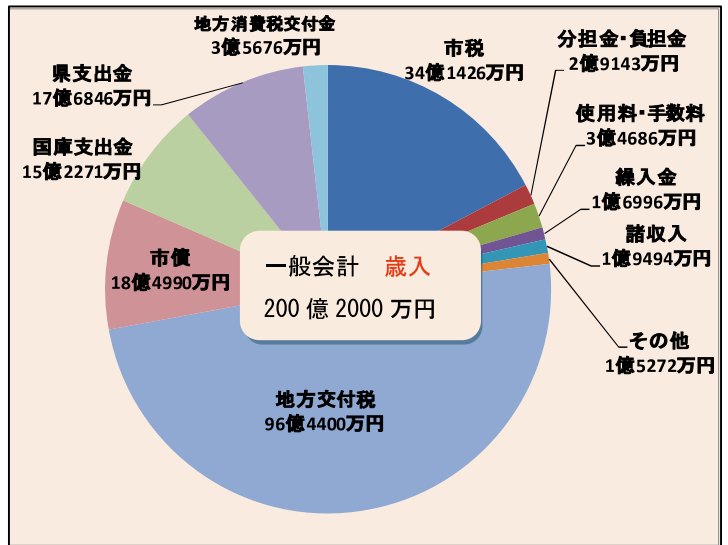
↑ 市議会の様子

### 3 安芸高田市の財政

●安芸高田市の財政はどのようになっているのでしょうか。



↑ 平成26年度の安芸高田市の歳出



↑ 平成26年度の安芸高田市の歳入

民生費 (27.7%)	自主財源 (22.9%)
福祉の全般的な経費	市が得たお金
公債費 (18.9%)	・市税・分担金・負担金・使用料・手数料
市が借りたお金の返済経費	・繰入金・諸収入
総務費 (16.1%)	依存財源 (77.1%)
企画、財政、選挙など一般的な行政事務の経費	国から交付されたり、借金で得たお金
衛生費 (8.4%)	地方交付税 (48.2%)
保健や環境対策の経費	一定のサービスを行えるように市町村間の財源力の差をなくすために交付されるお金
農林水産費 (8.2%)	市債 (9.2%)
農業・林業・水産業の振興のための経費	公共施設などを整備するために国などから調達した借金
土木費 (7.1%)	国庫支出金 (7.6%)
道路や河川の整備維持などの経費	市が行う仕事に対して国から支給されるお金
教育費 (6.6%)	県支出金 (8.8%)
学校や公民館・博物館などの経費	市が行う仕事に対して県から支給されるお金
消防費 (5.3%)	地方消費税交付金 (1.8%)
消防や火災予防に関する経費	地方公共団体が自由に使えるお金
議会費 (1.0%)	
議員の報酬などに使われる経費	



インターネットで他の市町村の財政を調べて比べてみよう。安芸高田市の財政面の特徴が分かるよ。

## 第2章 暮らしやすさを実現する安芸高田市

### 1 高齢者にやさしいまちづくり

●安芸高田市は高齢者等にやさしいまちづくりにどのように取り組んでいますか。



安芸高田市では、「人がつながる田園都市 安芸高田」を将来像にかかげ、人が集い育つまちづくりを推進しています。誰もが安全で快適に暮らせる魅力ある田園都市をめざすとき、バスが重要な公共の交通手段となっています。しかし、近年では便数の減少により、高齢者の通院や高校生の通学に不便が生じていました。そこで、安芸高田市では新公共交通システムという取組を行っています。

具体的には、朝と夕方は市の負担で路線バスを増やし、主には通学での利用者の利便性を向上させます。その間の昼の時間帯は、「お太助ワゴン」という車両が活躍します。予約をすれば家の前まで迎えに来て、市中心部まで運んでくれ、帰りも同様に家まで送ってもらえるというシステムです。高齢者の通院や買い物によく利用されています。このようなきめ細やかなサービスは県内唯一の取組です。

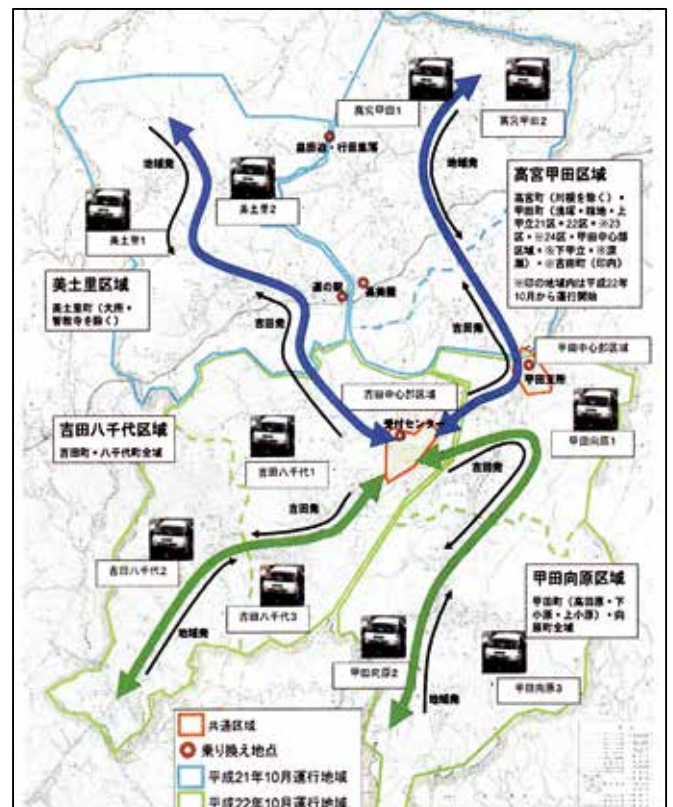


↑お太助けワゴンを利用する高齢者



↑路線バスの運行の状況

※赤線は朝夕のみ運行するバスを示す



↑お太助ワゴン運行区域

## 2 若者定住をめざしたまちづくり

- 安芸高田市ではより良い住宅を求める人に対してどのような支援がされているのでしょうか。



暮らしにおいて住居とは基本となるもので、その充実は暮らしやすさの重要な要素です。また、住宅の増加は人口増と直結しています。そのため、安芸高田市はより良い住宅を増やすための取組を進めています。

例えば、市が住宅用地を準備し、新築の住宅を建てて入居する世帯には手厚い補助金を交付しています。それによって、市外からの定住者を増やすということもめざしていますが、市内の賃貸住宅で暮らしている人に持ち家に住み替えてもらおうというねらいも含まれています。新築への支援以外にも、高齢者が暮らしやすいバリアフリー住宅等へのリフォームへの支援もあります。



↑ イベント時の定住PR

また、市内で住宅を建てる際やリフォームの際に市内の建築業者に依頼することで、市内の建築業者への良い影響も期待されています。

## 3 協働による地域で支えあうまちづくり

- 市内に 32 団体もある「地域振興組織」とは何でしょうか。



安芸高田市では、32の「地域振興組織」による活動が定着し、全国的な知名度を誇る取組が見られます。安芸高田市は面積が広く地域的な特徴もさまざまです。地域ごとに重点的に頑張りたいことも違い、それに対応するためにも地域に根差した組織は大切な存在です。

祭りなどの地域の行事から、児童生徒の登下校の安全確保、高齢者福祉、自助・共助による防災など、地域振興組織の活動は多岐に渡り、住民みんなで支え合って運営されています。また、オリジナル商品を開発・生産販売して産業を生み出している組織もあり、精力的な活動が各地域で進んでいます。



他にどのような取組があるのか、市の広報誌やHPを調べてみよう。



↑ 地域振興組織が中心となって開発した商品

## 第3章 少子高齢化に挑む安芸高田市

### 1 市民総ヘルパー構想とは？

●安芸高田市の福祉政策はどのような考えで進められているのでしょうか。



市民総ヘルパー構想は、住民相互の助け合いによる福祉や介護などの充実をめざす安芸高田市が提唱しているものです。行政による福祉は、予算などの面から限界があります。それを市民同士が「お互いさまの精神」で支えあうことで補完していこうという考えで、現在ではさまざまな活動がおこなわれています。

具体的には、市民が子どもを預ったり、高齢者を見守ったりするなど、自分が得意で、できる範囲の手助けをすることにより、行政とともに手厚い福祉の体制をつくり出します。また、手助けをした人（ヘルプをした人＝ヘルパー）も自己有用感が高まり、地域を支えているという自信も生まれます。そうやって誰もが安心して生き生きとした気持ちで生活していくことのできる市にすることをめざしています。日本では、どの中山間地域も少子高齢化という問題を抱えており、安芸高田市も例外ではありません。この構想は少子高齢化への対策としても重要なものです。



住民みんなで福祉をしていくという姿勢が大切なんだね。

### 2 安芸高田市と高齢化

●安芸高田市は高齢化にどのような対策をしていますか。



安芸高田市の高齢化は深刻で、高齢者が生き生きと生活できる仕組みづくりは急務です。主な問題点としては、高齢者の一人暮らしが増えたことや高齢者同士の世帯での老老介護による負担の増大、外出の手段を失ったりするなどして、ろうろう買い物や散歩などの外出に慎重になる高齢者が多いということが挙げられます。それに対し、市は社会福祉協議会と連携したり、市民総ヘルパー構想の一環として市民からの有償ボランティアでの協力を得て対応したりしています。安否確認などをする巡回訪問をはじめ、買物代行や病院、散歩の付き添い、話し相手などの取組をして高齢者が日々の生活で困ることが少なくなるような活動をしています。そして、活動の充実のため、市では毎年、ボランティア育成の講座を開設しています。また、「お太助協力店」という制度があります。



↑ 高齢者に対応した福祉サービス

この制度に参加している企業・団体は市内で100店以上あります。高齢者の世帯への商品の配達の際に安否確認の声掛けをするなど、高齢者福祉に協力しています。市・企業・市民と地域ぐるみで高齢者を支えていこうとする体制づくりが進んでいます。



↑ お太助協力店（編集委員撮影）

### 3 安芸高田市と少子化

●安芸高田市は少子化にどのような対策をしていますか。



核家族化や共働き世帯の増加は、子育てに対して厳しい状況を作り出しています。手当などの金銭的な支援は、国が政策で次々と打ち出していますが、子育てにおいては、実際に手のかかる部分こそが大きな負担となっているケースがたくさんあります。

安芸高田市では、親が安心して働くことができる、子どもを預ける場の確保に支援の重点を置き、保育所の運営はもちろん、児童館・放課後児童クラブでは対象の学年の拡大をして、多くの子どもを預かる取組を行っています。

また、ボランティアの方に短い時間預かってもらう「ファミリー・サポートセンター事業」や、子育て支援センターによる一時預かりを安芸高田市社会福祉協議会との連携で行い、親が急な用事などで忙しいときでも、いつでも子どもを預けることができる24時間保育を実現できる体制づくりを進めています。



↑ 安芸高田市子育て支援センター事業

#### 高齢者や子育てに頑張る人の支援をしている安芸高田市社会福祉協議会の職員の話

私たちは、市と連携して高齢者の生活の困りごとの解決や、子どもを預ける場所を探している親の支援などを進めています。高齢者の「訪問してくれるボランティアの方に会うのが励みだ」という声や、小さい子を持つお母さんの「子どもを預かってもらえるので、落ち着いて買物ができます！」という感謝の声を聞くことができる時が大きな喜びです。これからも、より良い福祉の実現に向けて頑張っていきたいと思っています。

## 第4章 文化の継承に力を尽くす安芸高田市



安芸高田市には多くの伝統芸能や文化財があり，県内外から訪れる人も多い。身近な歴史から多くのことを学び，自分の生き方に生かしたいですね。また，「郷土・安芸高田」に誇りを持ち，歴史と伝統を受け継いでいこうという気持ちを持ちたいですね。

### 1 歴史的遺産の恵み

#### ●安芸高田市にはどのような文化財があり，保存されているのでしょうか。



第2編にあるように，安芸高田市には豊かな歴史があり，それに伴って多くの文化財が残されています。安芸高田市のホームページで一覧を見ることができます。

このような文化財は後世へ残すための保存と，学習するための活用が大切であるとされており，そのための中心施設として「安芸高田市歴史民俗博物館」があります。博物館の特徴としては，民具が多く展示され，学校の授業では扱うことが少ない，一般の民衆の歴史や当時の暮らしを感じることができるようになっています。

その他にも，古墳・寺などの文化財は市内各地にあります。例えば，甲立古墳のように多くの歴史関係者が注目するような文化財もあります。それら文化財の保存には，多くの方の苦勞と努力，費用がかかっています。

歴史とは遠くにあるものではなく，身近なものであることを理解し，愛着を持つことが大切です。



↑ 博物館の収蔵品  
(安芸高田市歴史民俗博物館提供)



安芸高田市歴史民俗博物館には，原始から現代までの流れに沿った展示もあるから，安芸高田市から日本の歴史を考えることもできるよ。安芸高田市の歴史を学ぶイベントなども開かれているよ。

## 2 伝統芸能の継承



### ● 安芸高田市の伝統芸能を継承していくために、どのようなことが大切なのでしょうか？

安芸高田市には、多くの伝統芸能があり、国の重要無形民俗文化財に指定されているようなものもあります。それらは多くの観光客を呼び、市のシンボリックな存在になっています。しかし、どの団体も後継者不足に悩まされ、芸能の継承が問題となっています。その課題に対して様々な対策が行われ、伝統芸能を次の世代につないでいこうとしています。

「土師の田楽」（八千代町）は、中学校で田楽に取り組むことで継承を図っています。生徒は地域の行事や学校行事で披露し、地域住民への普及にも貢献しています。このように学校と協力して伝承していく取組は甲田町などの他の町でも行われています。

「吉田神楽団」（吉田町）は、「郡山子ども神楽団」という組織をつくり、継承に向けた取組を進めています。大人の神楽団の練習の前に集まり、団員の方の指導を受けます。公演などの発表の場も用意しています。同様の取組は市内の多くの神楽団でも行われています。

また、「羽佐竹神楽団」（高宮町）は、市外での普及を図っています。本川小学校（広島市中区）で神楽の教室を開き、指導をしています。神楽そのものの素晴らしさや、安芸高田市の素晴らしさをPRしていくこともこの活動の目的となっています。

やり方はそれぞれで違いますが、昔の人が守ってきたものや地域の大切な歴史を途絶えさせない取組は、このような努力によって続けられています。



↑ 土師の田楽をする様子  
(八千代中学校提供)



↑ 子ども神楽団の練習の様子  
(郡山子ども神楽団提供)



↑ 本川小学校での練習の様子  
(羽佐竹神楽団提供)

### 広島市での「神楽ふれあい教室」について羽佐竹神楽団の団長のお話

市外の方に神楽に親しんでファンになってもらうことは、今後の市の活性化につながると考えています。教室では神楽の技能も教えますが、礼儀作法など精神的な面の指導も大切にしています。

伝統芸能を残していくために、他に私たちに何ができるのか。



### 3 安芸高田市が生んだ芸術家たち ～児玉希望<sup>きぼう</sup>、和高節二<sup>せつじ</sup>～

#### ●児玉希望<sup>そくせき</sup>の足跡をたどってみましょう。

児玉希望<sup>こだまきぼう</sup>（本名省三，1889～1971）は来原村（高宮町）で生まれ，吉田尋常高等小学校<sup>じんじょう</sup>の高等科を卒業。地元での教員生活をやめ上京し，人力車を引く仕事をしながら画家を志し，川合玉堂<sup>かわいぎょくどう</sup><sup>(1)</sup>に教えを受けました。入門してわずか3年の23歳の時に帝展で初入選を果たしました。以後，数多くの作品を制作し，帝展の特選を2度受賞，後には日本芸術院賞も受賞しています。

画風<sup>さいみつ</sup>は細密な花鳥画や写実的な描き方の風景画で，伝統的な日本画の描法に加え，西洋近代絵画の研究を進め，日本画に斬新な色彩<sup>さんしん</sup>などを取り入れました。また，写実と色彩を追及することに留まらず，常に新しい表現を追求し続けました。59歳の時には，欧州に1年間滞在し，古今の西洋美術を鑑賞し，各地でスケッチを行い，ローマとパリで大規模な個展を開くなど，探求を続けました。

また，奥田元宋<sup>おくだけんそう</sup>など多くの弟子の指導にも尽力しました。



児玉希望



武者図<sup>(2)</sup>（簾八幡神社）



大川端（高宮中学校）



浅春（広島県立美術館）



暮春（広島県立美術館）



鷲（安芸高田市）

●**和高節二の足跡をたどってみましょう。**

和高節二は（1898～1965）は長田村（向原町）で生まれました。画家を志し 20 歳で上京しました。以後頻繁に東京に通い、川端画学校を中退後、平福百穂<sup>(3)</sup>に教えを受けましたが、制作の拠点を移すことなく、山里で農作業と作品制作を続けました。1940（昭和 15）年の紀元二千六百年奉祝日本画大覧覧会で『牡牛』が最高賞となり、一躍時の人となりました。

しかし、節二はその後も画家としての出世には目もくれず、生涯自分の納得する作品を地道に発表し続けました。農村に生きる人々、ともに暮らす牛など、節二の画題は、常にふるさと向原にありました。自分の思いを綴った『述懐詞』<sup>(4)</sup>には、自分と向き合い画業と向き合った節二の思いがにじみ出ています。

1990（平成 2）年、病弱ながらも明治から平成を生き抜き、92 歳で亡くなりました。

絵に向き合い表現を追求する姿勢や故郷を思う気持ちをとても強く感じたよ。



和高節二



牡牛 縮図掛軸作品（個人蔵）



平和の里（徳栄寺蔵）



供出日（下絵）（安芸高田市）

注（1） 川合玉堂（かわい ぎょくどう） 日本画家。日本の四季の山河と、そこで生きる人間や動物の美しい墨線と彩色で描くことを得意とした。1873-1954

注（2） 武者図 希望 13 歳の時の作品で、生家近くの神社に奉納したもの。

注（3） 平福百穂（ひらふく ひやくすい） 日本画家。絵画における自然主義、写実主義を主唱。アララギ派の歌人としても知られている。1877 - 1933

注（4） 述懐詞 向原生涯学習センターみらいの市民ギャラリーで観ることができます。

## 第5章 観光の振興と安芸高田市

### 1 観光の振興が市にもたらすものとは？

#### ●なぜ、観光の振興が必要なのでしょうか。



最初に思いつくのは経済面です。観光に来た人はその場所で食事をする，土産物を買う，宿泊するなど，様々な形でお金を使います。観光にかかわる安芸高田の店や会社には，それが売り上げにつながります。つまり，観光客が増えれば仕事や雇用を生み出すことにもつながっていくのです。他にも，交流人口（観光などで訪れる人）が増えることで市民の生活に活気が出る，観光で安芸高田市の良さを知った人が定住をしてくれる「交流人口から定住人口へ」という動きを生み出すことにもつながる，といった効果が期待されています。

平成 25 年発地別総観光客と観光消費額

(単位:千人,円)

県内観光客数			県外観光客数								総観光客数	観光消費額
市内	市外	合計	中国	四国	九州	近畿	関東・中部	東北	北海道	外国		
555	596	1151	141	19	20	29	23	1	0	2	138万6千人	16億1千万円

平成 25 年広島県観光客数の動向より編集委員作成

### 2 「神楽」を中心に据えた観光

#### ●安芸高田市はどのようなことで観光客を呼び込もうとしていますか。



「神楽」は全国に愛好者が多く，多くのファンを獲得しています。安芸高田市では，市内に22の神楽団があって盛んな神楽を「ひろしま安芸高田神楽」として観光の中心に据えています。

観光の拠点として，「神楽門前湯治村」が神楽の公演の場所として整備され，観光客を楽しませています。それ以外にも，市内のさまざまな場所や遙か遠くの東京などの県外でも公演が行われています。



↑「神楽ドーム」での公演の様子

#### 神楽と安芸高田市

神楽では，神社や家に神を迎えたり，神託（神の意向）を授かったりするための「神事舞」と，迎えた神の偉大さやありがたさを称える「能舞」が奉納されます。広島県に伝わる神楽は，地域によって神事舞や能舞の演目や舞い方などに違いがあり，いくつかの系統に分類することができます。

こうした違いは，県内各地の神楽が，隣接する他県の神楽の影響を受けながら発展してきたことによって生じたものですが，安芸高田市は，島根県西部の石見地方の神楽が取り入れられ，演劇性が強く華麗な舞として有名です。

## 安芸高田の神楽の発展につくした佐々木順三

佐々木順三は1908（明治41）年、現在の安芸高田市美土里町本郷に生まれました。教員として教育に情熱を注ぐ一方、郷土文化の保存伝承にも力を尽くしました。

安芸高田の舞の誕生は、戦後の連合国軍総司令部（GHQ）による検閲<sup>(1)</sup>を受けた時期です。当時、GHQは日本の精神主義<sup>(2)</sup>の復活に神経質になり、新聞、雑誌などの出版物を厳しく検閲しました。神楽の口上の台本も例外ではなく、厳しいチェックを受けました。それにより、多くの神楽団が神道につながるような口上を省略し、神楽は「農村舞楽」と呼ばれていました。

佐々木順三は、1948（昭和23）年ごろから謡曲や歌舞伎をアレンジした新舞の演目を多数創作し、その演目は自主規制を強めていた芸北地域の神楽として急速に広まっていきました。そのような時代を乗り越え、「芸北神楽台本集」を出版するなど、新作高田舞といわれる創作神楽を発表し、今日のような神楽人気の礎を築きました。



↑ 佐々木順三先生顕彰碑  
（神楽門前湯治村）



↑ GHQの検印の入った台本  
（佐々木部神楽団提供）

### 3 周遊型の観光地をめざして

安芸高田市には神楽以外にも多くの観光資源があります。戦国時代の毛利氏にまつわる史跡は国内でも有名ですが、他にも温泉施設、サイクリングコースなどのスポーツ施設、美術館などの文化施設、自然あふれる公園や産直市場などの商業施設まで多岐にわたります。これらを結び付けることで周遊型の観光（複数の観光地を巡って楽しむ観光）を観光客がするようになることをめざしています。それが実現できれば、大きな経済効果が期待できます。



↑ 土師ダムサイクリングターミナルと遊具



安芸高田市を訪れた観光客が、安芸高田市内の観光地を巡って楽しんでもらうためにはどのような工夫が必要なのだろう？

\*注（1）検閲・・・国家などの公権力が、本などの表現物を検査し、不都合なものを取り締まること  
（2）精神主義・・・物質的なものよりも精神的なものを優先して考える立場

## 第6章 魅力ある街へ 安芸高田市

### 1 安芸高田市ふるさと応援の会とは？

●なぜ、安芸高田市ふるさと応援の会がつくられたのでしょうか。



安芸高田市では、この街の魅力を広め、この街をもっともっと元気にしたいと願い、安芸高田市を知り・体験し・広めていくための会員組織「ふるさと応援の会」が平成23年8月に結成されました。

安芸高田市出身の方やゆかりのある方など、市内外を問わず広く募集を行ったところ、平成25年3月末現在で2,226名（安芸高田市内940名，安芸高田市外1,286名）の組織になりました。

地域	人数	地域	人数	地域	人数	地域	人数
安芸高田市	940	東京	80	奈良	2	高知	1
広島市	776	神奈川	40	大阪	25	福岡	6
県内その他	215	長野	1	和歌山	1	大分	1
北海道	6	富山	1	兵庫	15	熊本	3
宮城	1	静岡	1	岡山	11	長崎	3
茨城	1	岐阜	3	鳥取	2	沖縄	3
栃木	3	愛知	5	島根	3	アメリカ	1
群馬	1	滋賀	2	山口	12		
埼玉	16	三重	1	香川	2		
千葉	32	京都	6	愛媛	4	合計	2,226

↑ 会員の状況（平成25年3月31日現在）

（ふるさと応援の会第3回総会資料より）

### 2 安芸高田市ふるさと応援の会「関東支部」発足！

●なぜ、安芸高田市を応援する会が関東にできたのでしょうか。



関東支部の主な活動計画

①ひろしま安芸高田神楽東京公演の応援

「ひろしま安芸高田神楽東京公演を積極的にPRし、神楽公演を盛り上げる。

②ふるさと産品の新たな絶品づくりを支援

ふるさと産品のモニター制を提案し、人脈、情報の集中する関東の力を活用し、特産品の商品力向上や新たな絶品づくりを応援する。



↑ 関東支部設立総会の様子

### ③ 応援大使の起用

応援の会役員が中心となって「応援大使」となり、神楽や安芸高田市のイメージアップを応援する。

### ④ 会員拡大に向けた紹介

関東地区の会員同士のコミュニケーションを通じて、会員拡充を行う。会員がふるさとに貢献できる内容の把握に努める。



↑ 元広島東洋カープ選手  
山本一義 さん

## 安芸高田市への思い



↑ 応援の会関東支部  
会長  
吉川京二さん  
(向原町出身)

私は仕事の関係で全国を転勤し、長年ふるさとへの強い思いを持っています。そして、私が今まで培ってきた人脈や知識を駆使して、ふるさとに恩返しをしたいと思っています。私は今まで世界40か国を訪れましたが、改めて故郷の「向原」はよいところだと思いました。今は年2回向原町に帰省して、墓参りや家の管理を行っています。

関東支部では、ふるさと産品の絶品づくりに取り組み、安芸高田市に来たなら、絶対これは買って帰りたい、と思えるようなものをつくらなければならないと思っています。例えば、現在の神楽焼きに磨きをかけて絶品にするなどの目標をもち、取り組むことが大切です。また、耕作放棄地を活用した農業支援なども考えられると思います。私は、神楽がとても好きなのですが、文化面においては、安芸高田神楽の東京公演を行っていることで、関東圏にも少しずつ神楽が広まってきていると思います。関東支部としても東京公演をさらに盛り上げるため、応援していくことを考えています。様々な人と連携して、関東から安芸高田市にパワーを与えたいです。

### 会員になるとこんな

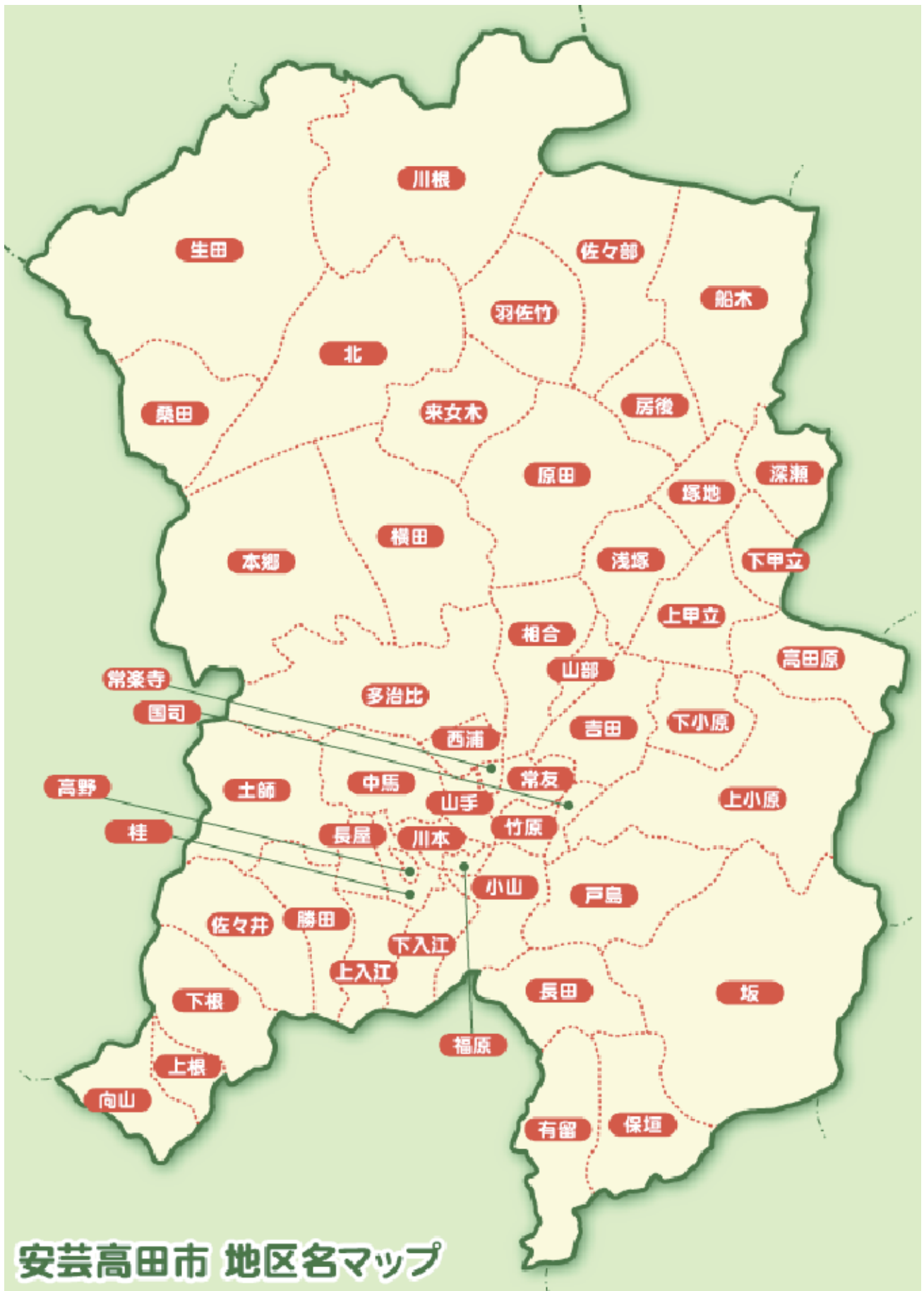
任務があるよ。

- 安芸高田市の魅力を知人、親戚の方々にPRしてください。
- 安芸高田市に対してのご意見などをお寄せください。
- たまには安芸高田市にお越しください。

# 資料

安芸高田市の  
城跡マップ  
文化財一覧  
統計資料



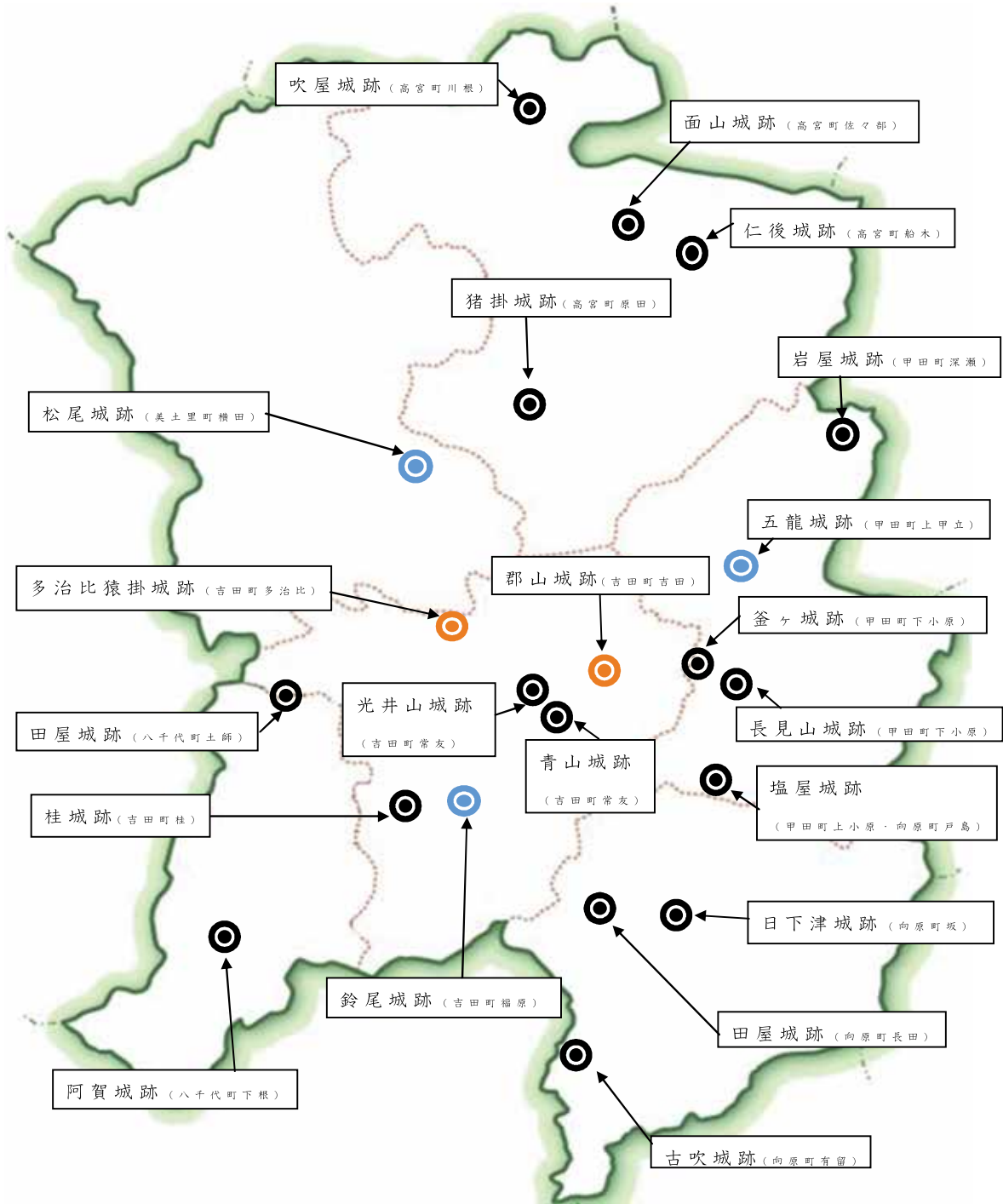


安芸高田市 地区名マップ



# 安芸高田市の国・県・市指定城跡マップ

国指定史跡
  県指定史跡
 ● 市指定史跡



## 安芸高田市の文化財一覧

### ○指定文化財（文化財保護法による分類）

- ◆有形文化財…建造物・絵画・彫刻・工芸品・書籍・典籍・古文書  
その他有形の文化的所産で、歴史上または芸術上価値の高いもの、及び考古資料
- ◆無形文化財…演劇・音楽・工芸技術その他の無形の文化的所産で、歴史上または芸術上価値の高いもの
- ◆民俗文化財…衣食住・生業・信仰・年中行事等に関する風俗慣習、民俗芸能、民俗技術及びこれらに用いられる衣服・器具・家屋その他の物件で、生活の推移の理解のため欠くことのできないもの
- ◆文化的景観…地域における人々の生活又は生業及び当該地域の風土により形成された景観地で我が国民の生活又は生業の理解のため欠くことのできないもの
- ◆記念物…歴史上または学術上価値の高い遺跡等（史跡）、芸術上または鑑賞上価値の高い名勝地（名勝）、学術上価値の高い動物・植物・地質鉱物（それらの存する地域を含む）（天然記念物）
- ◆伝統的建造物群…周囲の環境と一体をなして歴史的風致を形成している伝統建造物群で価値の高いもの

すこしむずかしいけど、文化財にもいろいろな種類があるよ。



## ■国指定文化財

区分	指定年月日	名称	所在地
重要無形民俗文化財	平成9年12月15日	安芸のはやし田	高宮町原田
史跡	昭和15年8月30日	毛利氏城跡（郡山城跡、多治比猿掛城跡）	吉田町吉田，多治比
天然記念物	昭和36年5月6日	船佐・山内逆断層帯	高宮町佐々部

## ■安芸高田市内の指定文化財件数（県・市）

区分	有形文化財	無形文化財	民俗文化財		記念物			計
	重要文化財		有形民俗文化財	無形民俗文化財	史跡	名勝	天然記念物	
県指定文化財	8			16	6		7	37
市指定文化財	48		6	17	68	2	25	166
計	56		6	33	74	2	32	203



■ 県指定文化財

区分	指定年月日	指定名称	所在地
重要文化財	昭和28年8月11日	銅鐘	吉田町吉田
	昭和28年10月20日	銅鐘	甲田町高田原
	昭和48年5月30日	児玉家住宅	甲田町浅塚
	昭和50年9月19日	清神社棟札 附 在銘連子窓断片 1枚	吉田町吉田
	平成3年12月12日	佐々井巖島神社 本殿内玉殿 附 鳥居社額 1枚 棟札 1枚	八千代町佐々井
	平成3年12月12日	常盤神社 本殿内玉殿	八千代町勝田
	平成2年12月25日	一ツ町古墳出土亀形須恵器	向原町戸島
	平成10年9月21日	木造千手観音菩薩立像	吉田町吉田
無形民俗文化財	昭和29年4月23日	神楽一神迎え一（青神楽）	美土里町生田
	昭和29年4月23日	神楽一神降し一（桑田神楽）	美土里町桑田
	昭和29年4月23日	神楽「鍾馗」（梶矢神楽）	高宮町川根
	昭和29年4月23日	神楽「剣舞」（山根神楽）	高宮町川根
	昭和48年12月18日	生田のはやし田	美土里町生田
	昭和48年12月18日	本郷のはやし田	美土里町本郷
	昭和48年12月18日	桑田のはやし田	美土里町桑田
	昭和52年9月14日	生田の花笠おどり	美土里町生田
	昭和54年3月26日	津間八幡神楽	美土里町本郷
	昭和54年3月26日	西尾山八幡神楽	美土里町北
	昭和54年3月26日	川角山八幡神楽	美土里町生田
	昭和54年3月26日	佐々部神楽	高宮町佐々部
	昭和54年3月26日	羽佐竹神楽	高宮町羽佐竹
	昭和54年3月26日	原田神楽	高宮町原田
	昭和57年2月23日	来女木神楽	高宮町来女木
平成7年1月23日	本郷獅子舞	美土里町本郷	
史跡	昭和15年11月10日	毛利元就誕生伝説地（鈴尾城跡）	吉田町福原
	昭和46年4月30日	五龍城跡	甲田町上甲立
	平成19年4月19日	松尾城跡	美土里町横田
	昭和48年3月28日	土師大迫古墳	八千代町土師
	昭和56年4月17日	山部大塚古墳	吉田町山部
	平成2年12月25日	戸島大塚古墳	向原町戸島
天然記念物	昭和46年12月23日	原田のエノキ	高宮町原田
	昭和46年12月23日	佐々部のカキノキ	高宮町佐々部
	昭和51年6月29日	出店権現のウラジロガシ	美土里町生田
	昭和53年10月4日	唯称庵跡のカエデ林	甲田町上甲立
	昭和54年3月26日	原田のヤマナシ	高宮町原田
	昭和54年11月2日	土師のチュウゴクボダイジュ	八千代町土師
	昭和54年11月2日	宍戸神社の社叢	甲田町上甲立

■市指定文化財①

区 分	指定名称	所在地	区 分	指定名称	所在地
重要文化財	茶室（三菱窟）	吉田町竹原	重要文化財	佐山出土の壺	向原町坂
	理窓院楼門	甲田町下甲立		家業考	吉田町多治比
	高林坊	甲田町高田原		頼山陽筆吉田駅詩	吉田町吉田
	西尾山八幡神社本殿	美土里町北		中之山神社の経文	高宮町船木
	万福寺山門	高宮町羽佐竹		円光寺所蔵の一切経	向原町坂
	つばくろ岩の火の宮さん	向原町保垣	有形民俗文化財	中之山神社の幕	高宮町船木
	高頭八幡神社社殿	向原町有留		中之山神社の幟	高宮町船木
	琴比良神社社殿	向原町坂		山（大仙）神社の幟	高宮町佐々部
	日高山神社玉殿	八千代町土師		水谷権現の幕	高宮町船木
	亀山神社玉殿	八千代町下根		日吉神社の幟	高宮町来女木
	日高山神社本殿	八千代町土師	姫滝山神社の幟	高宮町川根	
	法成寺の鐘楼	向原町保垣	無形民俗文化財	だんじり屋台	吉田町吉田
	観農亭と象圍池	向原町坂		宇佐神社神儀	吉田町多治比
	中之山神社本殿	高宮町船木		埃ノ宮神社神儀	吉田町川本 山手、下中馬
	清神社本殿	吉田町吉田		男山神社獅子舞	吉田町多治比
	絵馬額一面	吉田町相合		獅子頭神社神儀	吉田町上入江 下入江
	正善寺の絵像	向原町戸島		八千代神楽	八千代町
	毛利元就画像	吉田町多治比		野部観音の安産祈願習俗	高宮町佐々部
	伝親鸞聖人自作座像	吉田町吉田		大土山田楽	甲田町下小原
	薬師如来坐像	高宮町川根		春日神社の神儀	甲田町高田原
	後鳥羽上皇坐像	高宮町佐々部		中北のはやし田	美土里町北
	真徳寺木造阿弥陀如来坐像	向原町長田		横田の獅子舞	美土里町横田
	獅子頭	吉田町多治比		鳴石山神社神儀	向原町戸島
	華叟亭の額	甲田町上甲立		国貞山神社神儀	向原町坂
	元亀の面	吉田町吉田		川根の楽打	高宮町川根
	茶釜（かんす）	吉田町多治比		亀尾山神社の御座船神事	高宮町川根
	社額	吉田町吉田		川根のはやし田	高宮町川根
	中山神社大太鼓	吉田町桂		佐々部のはやし田	高宮町佐々部
	絵馬「猿駒曳図」	高宮町来女木	史跡	中馬古墳群	吉田町中馬
	絵馬「武者図」	高宮町原田		権現2号古墳	八千代町土師
	絵馬「白鷹図」	高宮町原田		四郎迫1号古墳	八千代町土師
	絵馬「神馬図」	高宮町来女木		四郎迫2号古墳	八千代町土師
	金屋子神社の銃神像	美土里町生田		土師大迫2号古墳	八千代町土師
	養康寺薬師朱塗猫足膳	向原町長田		土師大迫3号古墳	八千代町土師
	方格規矩四神鏡	甲田町上甲立		千川古墳	吉田町多治比
	願船寺の喚鐘	向原町坂		於手保古墳	吉田町多治比
	鳴石山神社の獅子頭	向原町戸島		是光1号古墳	美土里町生田
	線刻十一面観音鏡像	高宮町川根		後原第2号古墳	高宮町羽佐竹
	古信楽焼花瓶一對	吉田町吉田		房後白鳥古墳	高宮町房後
	絵馬「歌仙図」	高宮町川根		塚が原古墳群	美土里町本郷
	絵馬「布袋・唐子図」	高宮町川根		外輪6号古墳	美土里町横田
	正敷殿火炎文瓦	向原町長田		桂城跡	吉田町桂
墨書土器	甲田町下小原 (出土)	甲立古墳		甲田町上甲立	

■市指定文化財②

区分	指定名称	所在地
史跡	岩屋城址	甲田町深瀬
	釜ヶ城址	甲田町下小原
	長見山城址	甲田町下小原
	塩屋城址	甲田町上小原
	清源城址	甲田町下小原
	田屋城跡	八千代町土師
	阿賀城跡	八千代町下根
	吹屋（矢）城跡	高宮町川根
	仁後城跡	高宮町船木
	面山城跡	高宮町佐々部
	猪掛城跡	高宮町原田
	日下津城跡	向原町坂
	田屋城跡	向原町長田
	古吹城跡	向原町有留
	青光井山尼子陣所跡	吉田町常友相合
	清神社	吉田町吉田
	宮崎神社	吉田町相合
	福原氏墓所	吉田町福原
	犬飼平古戦場	甲田町深瀬
	宍戸元家の墓	甲田町深瀬
	宍戸元源の墓	甲田町上甲立
	宍戸隆家夫妻の墓	甲田町上甲立
	深瀬隆兼の墓	甲田町深瀬
	深瀬家良の墓	甲田町深瀬
	末兼隆忠夫妻の墓	甲田町下甲立
	司箭神社	甲田町上甲立
	渡辺七人塚	甲田町下小原
	池之内古戦場 （尼子古戦場）	甲田町上小原
	千貫水	甲田町上甲立
	深瀬家兼の墓	甲田町深瀬
	腹切岩	甲田町上小原
	国司氏墓所	吉田町国司
	吉田与三郎墓	吉田町吉田
	天正の石仏	吉田町中馬
	土生氏墓	吉田町吉田
	西本屋武一郎の墓	八千代町勝田
	自休堂	八千代町佐々井
	杉の原遺跡	高宮町川根
	照林坊跡	高宮町船木
	毛利隆元逝去の地	高宮町佐々部
	柘植家の墓地	高宮町川根
	大迫遺跡	八千代町土師
高大地湊跡	向原町長田	
滝の観音	向原町戸島	
尼子三兄弟ゆかりの墓	向原町長田	

区分	指定名称	所在地
史跡	千日風呂伝説地	向原町坂
	新溝と論山堤	向原町坂
	坂の六地藏	向原町坂
	旧円明寺跡	向原町長田
	青木の防壕	美土里町横田
	窯跡	美土里町横田
	岩屋嶽	美土里町北
	下北古墓（伝大磯虎の墓）	美土里町北
名勝	滄浪園	八千代町土師
	慶長の庭	甲田町高田原
天然記念物	吉田のラクウショウ	吉田町内3ヶ所
	清神社のスギ	吉田町吉田
	福泉坊の大イチョウ	吉田町吉田
	多治比のタラヨウ	吉田町多治比
	吉田のカキノキ	吉田町吉田
	下土師のマキノキ	八千代町土師
	向山のシャクナゲ	八千代町向山
	日吉神社社叢	美土里町北
	横田八幡神社のツガ	美土里町横田
	船木のモミ	高宮町船木
	専念寺のサルスベリ	八千代町勝田
	有留のシャクナゲ群落	向原町有留
	国貞山神社社叢	向原町坂
	石上神社のシラカシ	高宮町羽佐竹
	坂のカタクリ群落	向原町坂
	長田のカタクリ群落	向原町長田
	佐々部のカヤ	高宮町佐々部
	佐々部のクスノキ	高宮町佐々部
	青葉師神社のウラジロガシ	美土里町生田
	犬伏山アセビの群落	美土里町生田
	甲立礫層	甲田町下甲立
	上根河床礫層	八千代町上根
	堂道の滝	向原町有留
戸島の分水界泣き別れ	向原町戸島	
大澤田湿原	美土里町生田	

# 統計からみた安芸高田市のすがた

出典：「統計でみる市区町村のすがた 2014」（総務省統計局）

区分	項目	単位	数値	調査時	調査資料
面積	面積	km <sup>2</sup>	537.79		建設省国土地理院
人口	人口	人	31,487	平成22年	国勢調査
	男性		14,993		
	女性		16,494		
	15歳未満		3,532		
	15歳～64歳		16,887		
	65歳以上		11,068		
	世帯数		戸		
	人口密度	人/km <sup>2</sup>	58.5		
労働	15歳以上就業者数	人	15,721	平成22年	国勢調査
	第1次産業就業者数		2,514		
	第2次産業就業者数		4,295		
	第3次産業就業者数		8,852		
事業所	事業所数	事業所	1,483	平成21年	経済センサス
	従業者数	人	13,265		
農業	農家数	戸	4,032	平成22年	世界農林業センサス
	販売農家数		2,872		
	自給的農家数	人	1,160		
	農家人口（販売農家）15歳以上	人	8,593		
	農業就業人口（販売農家）	人	7,135		
	経営耕地総面積（販売農家）	a	286,156		
	田（経営耕地面積）		257,180		
	畑（経営耕地面積）		26,402		
	樹園地（経営耕地面積）		2,574		
耕地面積	ha	4,410	中国四国農政局 「広島農林水産統計年報」		
林業	林野面積	ha	42,795	平成22年	広島農林水産統計年報
	林野率	%	80		
工業	事業所数	事業所	99	平成22年	工業統計調査
	従業者数	人	3,017		
	製造品出荷額等	百万円	81,750		
	製造品出荷額等/従業者一人	百万円	23.4		
水道	水道普及率（上水・簡易）	%	75.26	平成26年	安芸高田市上下水道課
	下水道普及率（公共・集排・合併槽）	%	74.3		
運輸 通信	自動車保有台数	台	12,757	平成25年	広島県統計年鑑
	乗用車保有台数		9,806		
	高速自動車国道実延長	km	15.8	平成20年	西日本高速道路株式会社 国土交通省・広島県
	一般国道実延長		53.5		
	一般国道改良率	%	96.4		
	一般国道舗装率	%	100		
	都道府県道実延長	m	211226	広島県土木局西部建設事務所	
	都道府県道改良率	%	79.3		
	都道府県道舗装率	%	98.7		
	市町村道実延長	m	806,526		
	市町村道改良率	%	58		
	市町村道舗装延長	m	728,476		
	市町村道舗装率	%	90.5		

区分	項目	単位	数値	調査時	調査資料
医療 衛生	医師数	人	68	平成24年	厚生労働省・広島県
	歯科医師数		21		
	薬剤師数		98		
	就業看護師数		311		
	病院数	施設	2	平成25年	広島県
	診療所数		30		
	歯科診療所数		18		
	病院病床数	床	851		
診療所病床数	77				
経済	市町村内総生産	百万円	109,333	平成22年	広島県市町民経済計算結果報告
財政	普通会計歳出総額	千円	22,187,595	平成25年度	市町村普通会計決算カード
	市町村民税収入額		1,385,005		
教育	小学校数	校	13	平成25年	学校基本調査
	小学校児童数	人	1,458		
	中学校数	校	6		
	中学校生徒数	人	689		
	高等学校数	校	2		
	高校生徒数	人	601		
選挙	選挙人名簿登録者数	人	25,721	平成26.3.2	定時登録資料
安全	火災発生件数	件	32	平成25年分	安芸高田市消防本部
	交通事故(人身事故のみ)発生件数		141		
	交通事故死者数	人	5		
公共 施設	市役所支所	箇所	5	平成24年	公共施設状況調査
	保育所		11		
	保健センター		5		
	児童館		3		
	隣保館		5		
	公会堂・市民会館・公民館		6		
	図書館		6		
	野球場		7		
	プール		5		
	集会施設		68		





## 副読本監修委員

---

- 永井 初男 (安芸高田市教育委員会 教育長)  
川上 貴志 (広島県西部教育事務所芸北支所 指導主事)  
重藤 剛介 (安芸高田市文化財保護審議会 会長)  
中村 計助 (安芸高田市歴史民俗博物館 館長)  
津田 泰成 (安芸高田市小学校校長会 代表)  
大下 邦彦 (安芸高田市中学校校長会 代表)

## 副読本編集委員

---

- |                   |                   |
|-------------------|-------------------|
| 新宅 敦彦 (美土里小学校 教頭) | 山岡 澄雄 (向原中学校 教頭)  |
| 西廣 直明 (向原小学校 教諭)  | 竹内 公彦 (吉田中学校 教諭)  |
| 崎田 朋子 (刈田小学校 教諭)  | 丸山 博章 (八千代中学校 教諭) |
| 加納 紀彦 (小田東小学校 教諭) | 向井 徹 (美土里中学校 教諭)  |
| 立川 智子 (可愛小学校 教諭)  | 馬庭 大輔 (高宮中学校 教諭)  |
| 山内 健 (来原小学校 教諭)   | 新谷 竜治 (甲田中学校 教諭)  |

## 副読本イラスト・地図編集

---

- 西廣 昭子 角田 優子

## 副読本編集事務局

---

安芸高田市教育委員会学校教育課・生涯学習課

(所属・役職は、平成26年4月現在)

発行 安芸高田市教育委員会  
〒731-0501 広島県安芸高田市吉田町吉田761  
電話 0826-42-5628 FAX 0826-42-4396  
URL <http://www.akitakata.jp>

